

THE INTERNATIONAL FREESTYLE SKIING COMPETITION RULES (ICR)

【日本語翻訳版Ver3.2/2015.02.09】

BOOK V JOINT REGULATIONS FOR FREESTYLE SKIING

AERIALS
MOGULS
DUAL MOGULS
SKI CROSS
SKI HALFPIPE
SKI SLOPESTYLE

APPROVED BY THE 49TH INTERNATIONAL SKI CONGRESS,
BARCELONA (SPA)

WEBEDITION NOVEMBER 2014

☆ 本書は ICR 【FS_FIS_FreestyleICR_cleanfall14_webedition_English.pdf】 の日本語翻訳版である。

☆ 翻訳内容、表現に原文（英文）との差異がある場合は原文（英文）が優先される。必ず原文（英文）を参照すること。

INTERNATIONAL SKI FEDERATION
FEDERATION INTERNATIONALE DE SKI
INTERNATONALER SKI VERBAND

Blochstrasse 2; CH-3653 Oberhofen / Thunersee; Switzerland

Telephone: +41 33 244 61 61

Fax: +41 33 244 61 71

Website: www.fisski.com

FIS Wiki: <http://wiki.fisski.com>

All rights reserved:

© Copyright: International Ski Federation FIS, Oberhofen, Switzerland.

Oberhofen, November 2014

目次

第1 セクション

200	全競技共通規程.....	6
201	競技会の分類及び種類.....	6
202	FIS カレンダー.....	8
203	FIS レース参加ためのライセンス (FIS ライセンス)	9
204	選手の参加資格.....	11
205	選手の義務と権利.....	11
206	広告とスポンサーシップ.....	12
207	競技用品とコマーシャルマーキング.....	14
208	電子メディア権利の利用.....	15
209	映画権.....	18
210	競技会の組織.....	18
211	組織.....	19
212	保険.....	19
213	プログラム.....	20
214	案内.....	20
215	エントリー.....	20
216	チームキャプテンミーティング.....	21
217	ドロー.....	21
218	リザルトの公表.....	21
219	賞.....	23
220	チーム役員、コーチ、サービススタッフ、サプライヤー、企業代表者.....	23
221	医事サービス、診察、ドーピング.....	24
222	競技用品.....	25
223	制裁.....	25
224	手続きガイドライン.....	27
225	上訴委員会.....	29
226	制裁の違反.....	30

第2 セクション

3000	組織.....	32
3010	オーガナイザー.....	32
3011	オーガナイザーの契約.....	32
3012	組織委員会.....	32
3013	組織委員会の基本経費.....	33
3020	競技役員会と競技役員.....	33
3030	FIS 技術代表 (TD)	37
3032	ジュリー.....	40
3033	審判.....	41
3034	アドバイザリー委員会、テクニカルアドバイザー、コースアドバイザー、ビデオコントロール、コネクションコーチとジャンプシェイパー.....	42
3035	チームキャプテン.....	43
3036	選手団の医療・サービス担当者.....	44
3037	競技者の用具.....	44
3041	競技設備.....	45
3042	出発.....	46
3043	スタート.....	47

3044	フィニッシュエリア	51
3045	成績の集計と公表.....	51
3046	年齢制限	53
3050	抗議.....	54
3051	競技会の延期またはキャンセル.....	55
3054	競技者の責任	56
3055	不出走 Did Not Start (DNS)	56
3056	失格 Disqualifications (DSQ)	57
3057	リラン (再出走)	57
3058	Did Not Finish (DNF)	58
3060	競技会の手順	59
3061	事故.....	63
3062	保険.....	63
3065	運営会議	63

第3 セクション

4000	エアリアル	65
4001	定義.....	65
4002	エアリアル会場	65
4003	採点.....	67
4004	採点方式	67
4005	技術難度計算方法と技術難度表.....	67
4006	競技会における新しい技	67
4007	適正と年齢制限.....	68
4008	エアリアル競技における特別な手続き	68
4009	ノックアウトフォーマット	69

第4 セクション

4100	スロープスタイル.....	71
4101	スロープスタイルのコース	71
4102	テクニカルデータ	71

第5 セクション

4200	モーグル	73
4201	定義.....	73
4202	モーグルコース	73
4203	採点.....	75
4204	採点方式	75
4206	モーグル競技の特別な手続き	75

第6 セクション

4300	デュアルモーグル	77
4301	定義.....	77
4302	デュアルモーグルコース	77
4303	採点.....	78
4304	採点方式	79
4305	競技会の手順 (3060.2.2 参照)	79
4306	デュアルモーグル競技の特別な手続き	80

第7セクション

4500	スキークロス	83
4501	スキークロスのテクニカルデータ	83
4502	スキークロスのコース	84
4503	コースの設営	85
4504	競技会プログラム	85
4505	スキークロス競技の実施	86
4506	スキークロスの決勝組合せ	88
4507	スタート	89
4508	コンタクト（接触）	90
4509	抗議	91
4510	最終順位	91
4511	用具	91

第8セクション

4600	スキーハーフパイプ	94
4601	ハーフパイプ	94
4602	ハーフパイプの会場	94
4603	公式トレーニング	94
4604	競技会フォーマット-シングルフォーマット	95
4605	実施内容	95
4606	競技者の用具	95
4607	場内放送（PA）のシステム	95
4608	ジャッジスタンド	95
4609	スタートの役員とフィニッシュの役員	96
4610	スタートエリア	96
4611	フィニッシュエリア	96
4612	採点手順	96
4613	ハーフパイプのコース/会場	96
4614	特別な手続き：ハーフパイプ	97

第9セクション

4700	フリースタイル団体戦のルール	98
------	----------------------	----

第10セクション

4800	人工照明下における競技会	99
------	--------------------	----

200 全競技共通規程

200.1 FIS カレンダー大会はすべて、関連する FIS 規則の下に開催する。

200.2 組織と運営

各種競技会の組織と運営に関する規則や指示は、それぞれの規則を参照する。

200.3 参加

FIS カレンダーに掲載されている競技会には、所属国スキー連盟が適切に許可し、且つ、最新のクォータに従いエントリーされた選手が参加できる。

200.4 特別規程

FIS 理事会は、異なる参加資格基準がある国内または国際競技会を開催するために、各国スキー連盟に規則や規程を採用する権限を与えることができる。ただし、現行規則の範囲内であることを条件とする。

200.5 コントロール

FIS カレンダーに掲載されている全競技会は、FIS 技術代表（以下「TD」）により監督されなければならない。

200.6 選手、オフィシャル、コーチについて科され、公表されたあらゆる法的制裁は、FIS 及び各国スキー連盟に承認される。

201 競技会の分類及び種類

201.1 特別規則及び／または参加制限のある競技会

FIS 加盟国スキー連盟、またはこれらのスキー連盟に所属し連盟の承認を得たクラブは、近隣国スキー連盟またはそのクラブを、自らの開催する競技会に招待することができる。ただし、これらの競技会を国際競技会として公表、告知してはならない。告知の際に、その参加制限を明確にしなければならない。

201.1.1 特別規則及び／または参加制限のある競技会や、FIS 非加盟連盟を含む競技会を、FIS 理事会の承認する特別競技規則の下で開催することができる。そのような規則は、その告知の中で、公表されなければならない。

201.2 FIS 非加盟連盟の競技会

FIS 理事会は、FIS 加盟国スキー連盟が、競技会に FIS 非加盟連盟組織（軍隊など）を招待することや、そのような組織からの招待を受理することを承諾することができる。

201.3 競技会の分類

201.3.1 オリンピック冬季競技大会、FIS 世界選手権大会、FIS ジュニア世界選手権大会

1 ICR のなかの「彼／彼の」などは、「彼女／彼女の」などの意味を含む。

- 201.3.2 FIS ワールドカップ
- 201.3.3 FIS コンチネンタルカップ
- 201.3.4 国際 FIS 競技会 (FIS レース)
- 201.3.5 特別参加及び／または参加資格のある競技会
- 201.3.6 FIS 非加盟組織との競技会
- 201.4 FIS 競技 (FIS Disciplines)**
 競技とはスポーツの 1 つの分野であり、また、1 つまたは複数の種目を含む。
 例えば、クロスカントリースキーは、FIS 競技であり、クロスカントリースプリントは、種目である。
- 201.4.1 FIS 競技の承認
 新しい競技が、1 つまたは複数の種目からなり、少なくとも 25 ヶ国と 3 大陸で広く行われている場合、FIS プログラムとして含むことができる。
- 201.4.2 FIS 競技からの除外
 競技が少なくとも 2 つの大陸の 12 カ国のスキー連盟で行われない場合、FIS 総会は FIS プログラムからその競技を除外することができる。
- 201.5 FIS イベント**
 イベントは、スポーツの競技会、またはその競技の内の 1 つである。それは、順位 (ランキング) がつけられ、メダル及び／またはディプロマが与えられる。
- 201.6 競技会のタイプ**
 国際競技会は、次からなる：
- 201.6.1 ノルディック大会
 クロスカントリー、ローラースキー、スキージャンプ、スキーフライング、ノルディックコンバインド、ノルディックコンバインド団体、ローラースキーまたはインラインを用いたノルディックコンバインド、スキージャンプ団体、プラスチックジャンプ台でのスキージャンプ、ポピュラークロスカントリーレース
- 201.6.2 アルペン大会
 滑降、回転、大回転、スーパー大回転、パラレル、複合、KO、団体
- 201.6.3 フリースタイル大会
 モーグル、デュアルモーグル、エアリアル、スキークロス、ハーフパイプ、スロープスタイル、団体
- 201.6.4 スノーボード大会
 スラローム、パラレルスラローム、大回転、パラレル大回転、スーパー-G、ハーフパイプ、スノーボードクロス、ビッグエア、スロープスタイル、団体
- 201.6.5 テレマーク大会

- 201.6.6 フィルングライテン
- 201.6.7 スピードスキー大会
- 201.6.8 グラススキー大会
- 201.6.9 他のスポーツとの複合大会
- 201.6.10 チルドレン、マスターズ、障害者大会等
- 201.7 FIS 世界選手権大会プログラム**
- 201.7.1 FIS 世界選手権大会のプログラムに含まれるために、種目は、数と地理的に認められた国際的立場があり、また、世界選手権大会プログラムに含まれることが考慮される前に、少なくとも2年間ワールドカップに含まれていなければならない。
- 201.7.2 世界選手権大会の遅くとも3年前までには、種目は、（世界選手権プログラムに含まれることを）認められる。
- 201.7.3 単一の種目は、個人ランキングとチームランキングの両方を同時にもたすことはできない。
- 201.7.4 FIS 世界選手権大会及び FIS ジュニア世界選手権大会のすべての競技（アルペン、ノルディック、スノーボード、フリースタイル、グラススキー、ローラースキー、テレマーク、スピードスキー）で、団体及び個人種目にそれぞれ8ヶ国以上の参加があった場合のみに、メダルは授与される。
- 202 FIS カレンダー**
- 202.1 立候補と告知**
- 202.1.1 各国スキー連盟は、「世界選手権大会開催規則」に従い、FIS 世界選手権大会の開催立候補を表明する権利を持つ。
- 202.1.2 その他すべての競技会については、FIS が発行する FIS カレンダー・カンファレンス規則に従い、各国スキー連盟が、国際スキーカレンダーに掲載するための登録を FIS にしなければならない
- 202.1.2.1 各国スキー連盟は8月31日までに、FIS カレンダープログラム (<ftp://ftp.fis.ch/Software/Programs/>) を使い FIS に申請を提出しなければならない。（南半球は5月31日まで）
- 202.1.2.2 競技会の割り当て
各国スキー連盟への競技会の割り当ては、FIS と各国スキー連盟の間での電子通信を通じて行う。FIS ワールドカップ競技会の場合、カレンダーは、それぞれの技術委員会の提案に基づき、理事会の承認を条件とする。
- 202.1.2.3 コース公認

FIS カレンダーに掲載されている競技会は、FIS 公認を受けた競技コースまたはジャンプ台でのみ開催することができる。大会の申し込みをする際に、コース公認証番号が含まなければならない。

202.1.2.4 FIS カレンダーの公表

FIS カレンダーは、FIS により FIS ウェブサイト (www.fis-ski.com) で公表される。FIS が、キャンセル、延期、その他の変更を絶えず反映させ、アップデートする。

202.1.2.5 延期

FIS カレンダーに掲載されている競技会が延期となる場合、FIS に速やかに連絡し、各国スキー連盟に新しいインビテーションを送付しなければならない。さもなければ、その競技会は FIS ポイント対象とならない。

202.1.2.6 カレンダーフィー

"年会費に加え、カレンダーフィーが FIS 総会で決められ、FIS カレンダー上の各大会分を毎年支払うものである。競技日の 30 日前に提出された申請については、通常のカレンダーフィーに加え、50%の追加料金を支払う。代替となった大会についてのカレンダーフィーは、全額の支払い責任が元の開催国スキー連盟にある。

シーズン初めに、各国スキー連盟に前シーズンの実績の 70%の請求書が送られる。この請求額は FIS アカウントから引き落とされる。シーズン終了後、各国スキー連盟は、そのシーズンのすべての競技会の詳細な請求書を受取る。その後、差額が当該国の FIS アカウントから引き落とされる、もしくは入金される。

202.1.3 レース開催者の任命

各国スキー連盟が、加盟しているスキークラブなどをレース開催者に任命する場合、「国内スキー連盟と開催者の登録用紙」または同様の同意書を利用して任命する。各国スキー連盟による国際スキーカレンダーへの大会申請は、大会開催について必要な同意が確立されたものとみなす。

202.2 他国でのレース開催

他国のスキー連盟により開催される競技会は、開催地となる国のスキー連盟が承認したときのみ、FIS カレンダーに掲載される。

203 FIS レース参加ためのライセンス (FIS ライセンス)

FIS レースに参加するためのライセンスは、FIS に各競技 (複数可) において選手登録をし、参加基準を満たす選手に、各国スキー連盟により発行される。

203.1 FIS ライセンスイヤーは、7月1日から始まり、翌年6月30日に終了する。

203.2 FIS 大会への参加資格を得るには、選手は所属国スキー連盟が発行したライセンスを所持しなければならない。このライセンスは、当該ライセンスイヤー期間中のみ、北半球及び南半球で有効である。ライセンスは特定の1ヶ国または特定の複数大会での参加に限って有効である。

203.2.1 FIS レースに参加するために FIS ライセンスを登録した選手全員が FIS 規則を承諾していることを、各国スキー連盟は保証しなくてはならない。特に、ドーピング事例における上訴裁判所としてのスポーツ仲裁裁判所 (CAS) の独占的権限に触れている条項を承諾していることを保証しなければならない。

- 203.3 選手がパスポートのコピーを提出することでその国籍と有資格を証明し、FIS 理事会が承認した書式の選手宣誓書に署名し、それを所属のスキー連盟に返送した場合にのみ、各国スキー連盟は、FIS ライセンスを発行することができる。未成年の申請者から提出されるすべての書類には、保護者（法的後見人）の署名が必要である。パスポートのコピーと署名された選手宣誓書は、要望に応じて、FIS に提出できるようにしなくてはならない。
- 203.4 FIS ライセンスイヤー（7月1日から翌年6月30日）の期間中、選手は1ヶ国のスキー連盟が発行する FIS ライセンスを持って、国際 FIS 競技会に参加することができる。
- 203.5 **FIS ライセンス登録の変更申請**
一国のスキー連盟から他国のスキー連盟へのライセンス登録の変更申請は、春の FIS 理事会で検討される。原則として、選手が、新しい国への関連を証明しない場合、ライセンス登録の変更申請は認められない。ライセンス登録の変更申請を提出する前に、選手は競技をする国の市民権及びパスポートを所持していなければならない。加えて、新しい国/スキー連盟への登録の変更を要望する日から遡り、2年間以上、その選手はその国の主たる法的に有効な居住地がなければならない。選手が、新たに登録する国で生まれている場合、また、父または母がその国の国民である場合、2年間の居住規則への例外が撤回される。また、選手は、個人の状況についての詳細な説明と、ライセンス登録の変更申請の理由を、申請と共に提出する必要がある。
親が新しい国のパスポートを取得したが、その居住者でなく、および／または、祖先がいない場合、申請は認められない。
- 203.5.1 選手が、各国スキー連盟を代表して FIS カレンダー大会に既に参加している場合、新しく所属するスキー連盟が登録変更の要望を FIS に送る前に、203.5 条に記載の市民権・パスポート・居住地に関する必要事項に加えて、前所属のスキー連盟から書面での同意が必要である。
このような書面の同意がない場合、選手は、前所属のスキー連盟を代表して参加したシーズンの終わりから 12 ヶ月間 FIS カレンダー大会に参加できなく、また、新しく所属するスキー連盟より FIS レースに参加するためのライセンスの発行を受けることもできない。
これらのルールは、選手が複数の国籍を持ち、ライセンス登録国の変更を希望するときにも有効である。
- 203.5.2 規則のスピリットに反していて、国際スキー連盟の利益と考えられる場合、FIS 理事会は、前述の条件が満たされるにも関わらず、ライセンスの付与または、付与、変更を断る権利を完全なる裁量権で保持する。（例：加盟国スキー連盟が選手を輸入しようとする場合、ライセンス登録の変更を拒否する。）
- 203.5.3 ライセンス登録国の変更申請に必要な条件を満たさない場合、例外的な状況があり、その変更を許諾することが国際スキー連盟の利益である旨を、書面にて、FIS 理事会が納得するように説明する義務は、選手にある。
- 203.5.4 選手が所属国スキー連盟を変更する場合、前の所属スキー連盟がその選手の移籍を許諾する条件で、それまでの FIS ポイントを保持する。

203.5.5 各国スキー連盟が提出したライセンス登録の変更申請書類（前の所属スキー連盟からの同意書面、パスポート、居住地に関する手紙）が虚偽と分かった場合、FIS 理事会は、その選手と新しく所属するスキー連盟に罰則を科す。

204 選手の参加資格

204.1 各国スキー連盟は、次に該当する選手をその組織の中で、サポート又は登録をしてはならず、並びに FIS レースまたは国内レースに参加をするためのライセンスを発行してはならない。：

204.1.1 不品行またはスポーツマンらしくからぬ行為を犯したことがある、もしくは FIS 医事規定やアンチドーピング規則を尊重しなかったことがある。

204.1.2 直接もしくは間接的に、競技会への出場に対する金銭報酬を受ける、または受けたことがある。

204.1.3 219 条に定められたよりも高価な賞を受ける、または受けたことがある。

204.1.4 所属国スキー連盟または担当プールが当事者となってスポンサー、用品、広告に関する契約を結んでいる場合を除き、自分の氏名、肩書き、個人写真が広告に使用されることを許可する、または許可したことがある。

204.1.5 FIS 規則による出場資格を持たない選手と故意に対戦する、または対戦したことがある。ただし、次の場合を除く。：

204.1.5.1 その競技会を FIS 理事会が承認し、FIS または各国スキー連盟が直接コントロールし、かつその競技会が“オープン”競技会として告知されている。

204.1.6 選手宣誓書に署名していない。

204.1.7 出場停止処分中である。

204.2 FIS レースに参加をするためのライセンス発行及びエントリーをもって、各国スキー連盟は、トレーニング及び競技会に対する十分かつ有効な傷害保険がその選手にかけられていることを確認し、全責任を負う。

205 選手の義務と権利

205.1 選手には FIS 規則を熟知する義務があり、ジュリーからの追加の指示にも従わなければならない。また、選手は、FIS 規則と規程に従わなければならない。

205.2 選手はドーピングを使用してはならない。（FIS アンチドーピング規則&手続きガイドラインを参照。）

205.3 選手宣誓書に書かれてあるように、選手は、トレーニングコース・競技コースの安全性の懸念についてジュリーに報告する権利がある。更なる詳細は、対応する競技規則に記載されている。

205.4 表彰式に理由なく欠席した選手は、賞金を含むいかなる賞に対する請求権を失う。

例外的な状況においては、所属チームのメンバーが代理出席することもできるが、この代理人が表彰台に立つことはできない。

205.5 選手は、組織委員会委員、ボランティア、役員、一般の人々に対し、礼儀正しくかつスポーツマンらしくふるまわなければならない。

205.6 選手へのサポート

205.6.1 FIS レースに参加をするために、所属のスキー連盟を通して FIS に登録をする選手は、次を受ける可能性がある：

205.6.2 トレーニング及び競技会場への旅費の完全な補償

205.6.3 トレーニング及び競技期間中の宿泊費全額払い戻し

205.6.4 ポケットマネー

205.6.5 各国スキー連盟の決定に従い、所得喪失に対する補償

205.6.6 トレーニングや競技会のための保険を含む社会保障

205.6.7 奨学金

205.7 各国スキー連盟は、選手が引退した後の将来の職業と教育を保証するために、資金を積み立てることができる。各国スキー連盟の判断に従ってのみ分配されるこれらの資金に対し、選手は請求権を持たない。

205.8 競技会のギャンブル

選手、コーチ、チーム役員、競技役員は、自身に関係する競技会の結果への賭博行為を禁止されている。

206 広告とスポンサーシップ

この国際競技規則の文脈では、“広告”とは、会場での標識の提示やその他の表示と見なされ、一般の人々に、会社や組織の認知度を上げるために商品名やサービス名を伝え、及び、そのブランド名、活動、商品、サービスを伝えている。一方で、スポンサーシップは、会社に、競技会や大会のシリーズ (series of events) と直接のかかわりを持つ機会を提供する。

206.1 オリンピック冬季競技大会と FIS 世界選手権大会

オリンピック冬季競技大会と FIS 世界選手権大会のすべての広告とスポンサーシップの権利は、それぞれ、IOC と FIS に属し、別の契約の取り決めに従う。

206.2 FIS 大会

すべての FIS 大会では、FIS 広告規則が、競技エリアでの広告の機会を定義している、そして、FIS 理事会の承認を必要とする。FIS ワールドカップ大会の場合、FIS 広告規則が各国スキー連盟と開催地との FIS 開催地契約書の不可欠な部分を形成する。

206.3 加盟国スキー連盟

FIS カレンダーに掲載される大会を自国で開催する各国スキー連盟は、大会の広告権利保持者として売買契約する権限がある。FIS ワールドカップ競技会の場合、これらの権利は、FIS 理事会の承認に基づき、各国スキー連盟の責任を考慮に入れている開催地契約書に定義される。
各国スキー連盟が自国の外で大会を開催する場合、これらの広告規則が同様に適用される。

- 206.4** **タイトルスポンサーとプレゼンティングスポンサーの権利**
FIS シリーズが FIS 理事会で承認された場合、FIS は、タイトル/プレゼンティングスポンサー（代替りの名称も可能）パッケージの権利をマーケティングする。FIS ワールドカップシリーズの場合、これらの権利は、当該競技種別のイメージと価値を促進する適切なスポンサーに売られる。タイトルスポンサー/プレゼンティングスポンサーの権利の売却から生まれる収入は、プロフェッショナルの運営を提供するために、FIS により使われる。
- 206.5** **マーキングの使用とサポート**
全ての広告とコマーシャルマーキングそして用いられるサポートは、適切な FIS 広告規則で説明される技術的な規格に準ずる。
- 206.6** **広告パッケージ**
広告の場所、数、サイズ、形は、各競技種別の FIS 広告規則に明記される。グラフィックのイラストを含む詳細な情報は、FIS ウェブサイトで公開されている各競技種別のマーケティングガイドに書かれている。マーケティングガイドは、必要に応じて、FIS 広告委員会によって見直され、更新され、そして、FIS 理事会で承認後、公開される。
- 206.7** **商業賭け企業(commercial betting companies)によるスポンサーシップ**
- 206.7.1 FIS はタイトル/プレゼンティングスポンサーの権利を商業賭け企業 (commercial betting companies)に与えない。
- 206.7.2 商業賭け企業(commercial betting companies)による大会のスポンサーシップは、206.7.3 条を条件として認められる。
- 206.7.3 選手を使ったまたは選手に付ける商業賭け企業(commercial betting companies)の広告（ヘッドスポンサー、競技スーツ、スタートビブ）は、禁止される。
- 206.8 各国スキー連盟またはそのプールは、資金提供や用品・商品の供給について、オフィシャルサプライヤーまたはスポンサーとして各国スキー連盟に認められている企業や組織と契約することができる。
FIS や IOC の出場資格規則によって資格を持たないスポーツマンと一緒に、FIS 選手の写真、肖像または氏名を使用した広告を禁止する。
タバコ、アルコール製品、ドラッグ（麻薬）を選手で宣伝すること、または選手を使い宣伝することを禁止する。
- 206.9 そのような契約のすべての対価は、各国スキー連盟またはスキープールへ支払われなければならない。各国スキー連盟やスキープールは、各国スキー連盟の規程に従って対価を受け取る。

205.6 条に定められた場合を除き、選手がそのような対価を例え一部であれ直接受け取ることはできない。FIS は契約書のコピーをいつでも請求することができる。

206.10 ナショナルチームに供給され、使用されている用品、商品のマーキングやトレードマークについては、207 条の規格に従わなければならない。

207 競技用品とコマーシャルマーキング

207.1 FIS 大会における競技用品

FIS ワールドカップ及び FIS 世界選手権大会においては、広告に関する FIS 規則に準じ、各国スキー連盟が提供し、且つ承認したコマーシャルマーキングのついた競技用品のみ身につけることができる。ウェア、用品へのわいせつな名前及び/また記号の記載は、禁止されている。

207.1.1 FIS 世界選手権大会、FIS ワールドカップ及びすべての FIS カレンダーの大会において、国歌演奏及び/または国旗掲揚を伴う公式セレモニーに、選手が用品（スキー／ボード、ポール、スキーブーツ、ヘルメット、眼鏡類）を持つことはできない。しかしながら、全セレモニー（トロフィー及びメダルの授与、国歌演奏）が終了した後、プレス写真や撮影等のために、表彰台の上で用品を持つことは認められる。

207.1.2 表彰式（Winners Presentation）／表彰台での用品

FIS 世界選手権大会及び全ての FIS カレンダーの大会では、選手は以下の用品を表彰台に持ち込むことが許されている：

- スキー/ スノーボード
- 履物：選手はブーツを足に履くことができる。しかし、それ以外の場所（例：選手の首周り等にかける）は許されない。選手が履く場合を除き、その他のシューズをプレゼンテーション中に表彰台に持ち込むことはできない。
- ポール：スキーの周囲に持ったり、取り付けてはならない。通常はもう一方の手に持つこと。
- ゴーグル：着用するか、または首の周りの何れかとする。
- ヘルメット：被る場合、頭に被るのみ。スキーまたはポール等の他の用品の上に乗せるなどの行為は認めない。
- スキーストラップ：スキーの製造メーカー名が付いたものを 2 本まで使用できる。内、1 本はワックスメーカーのために使用できる。
- ノルディックコンバインド、クロスカントリーのスキーポールクリップ：クリップは、2 つのポールを束ねるために使用できる。そのクリップの幅は 2 つのポール幅が認められるが、4cm 以内とする。その長さ（高さ）は、10cm が認められる。そのクリップの長い辺（サイド）は、ポールに対して平行でなければならない。そのポールメーカーのコマーシャルマーキングは、そのクリップの表面全体を覆うことができる。
- その他全てのアクセサリを禁止する。：ベルト付ウエストバック、ネックバンドに付いた電話、ボトル、リュックサック／バックパックなど。

207.1.3 受賞者の非公式プレゼンテーション（フラワーセレモニー）、及び大会終了直後の大会エリアでの国歌演奏を伴う受賞者セレモニーは、抗議時間終了前であっても、開催者自らの責任において開催が認められる。スタートビブを見えるように着用することは義務である。

207.1.4 制限された通路（リーダーボード及びTVインタビューエリアを含む）での、大会のスタートビブまたは各国スキー連盟のアウトターウェアの着用は、義務である。

207.2 コマーシャルマーキング

用品とウェア上のコマーシャルマーキングのサイズ、形状、数に関する規格は、コマーシャルマーキング及び広告に関する細則と同様に、広告委員会により検討され、毎春、FIS 理事会が次のシーズンに向けて承認し、FIS から公表される。

207.2.1 競技用品規格／コマーシャルマーキングで公表されている関連する細則と同様に、用品とウェア上のコマーシャルマーキングと広告を管理する規則は遵守されなければならない。

207.2.2 これらの広告規則に違反した選手は、223.1.1 条に規定されているように制裁に科される。制裁が適用され、ペナルティが科される違反行為は、競技規則違反または不順守の行為として定義される。

207.2.3 各国スキー連盟がこれらの規則を施行できない場合、または、何だかの理由でその件を FIS に差し戻す場合、FIS は選手のライセンスの即時停止処置を取ることができる。当該選手や当該国スキー連盟は、最終決定が下される前に、上訴する権利を持つ。

207.2.4 広告主が、選手の氏名、肩書き、個人写真を、商品の広告、推薦、販売に関連付けて、選手の承諾を得ずに無断で使用した場合、選手は所属国スキー連盟または FIS に対して「委任状」を渡すことができる。この委任状により、必要な場合は所属国スキー連盟または FIS が、問題の企業に対し法的手段に出ることができる。選手がそのようにできない場合、FIS は選手が問題の企業に許可を与えたものと判断する。

207.2.5 選手の参加資格、スポンサーシップ、広告、選手へのサポートに関して、FIS 理事会は、これらの規則の違反や不履行について報告を受け、問題についての対応策を検討する。

208 電子メディア権利の利用

208.1 原則

208.1.1 オリンピック冬季競技大会、FIS 世界選手権大会
オリンピック冬季競技大会及び世界選手権大会のすべてのメディアの権利は、それぞれ IOC、FIS に属し、別の契約に基づかれる。

208.1.2 各国スキー連盟が持つ権利
FIS カレンダーに掲載されている大会を自国開催する FIS 加盟国スキー連盟は、電子メディア権利の所有者として、それらの大会の電子メディア権利の販売契約を締結する権限がある。各国スキー連盟が自国以外で大会を開催する際、これらの規則が適用されるが、大会が開催される国のスキー連盟との2国間協定に従うものとする。

- 208.1.3 プロモーション
スキーとスノーボードスポーツの広いプロモーションと露出の目的で、各国スキー連盟の利益を考慮し、契約は、FIS と協議して、準備される。
- 208.1.4 大会へのアクセス
全ての競技会において、メディアエリアへの人と器材の入場は、必要なアクレディテーションとアクセスパスを持つ人物に限られる。アクセスの優先権は、権利保持者に与えられる。アクレディテーションシステムとアクセスコントロールは、非権利保持者によるあらゆる不正を避けなければならない。
- 208.1.5 FIS 理事会によるコントロール
FIS 理事会は、各国スキー連盟及びすべての開催者によるこの規則の原則への順守をコントロールする。それについての契約や条項が FIS、各国スキー連盟、大会開催者の利益の利害衝突をもたらす場合、FIS 理事会により検討される。適切な解決方法を見つけるため、全ての情報が提供される。
- 208.2 定義
この規則の中では、次の定義が適用される。：
- 「電子メディア権利」とは、テレビ、ラジオ、インターネット、モバイル機器の権利を意味する。
- 「テレビの権利」は、地上波、衛星、ケーブル、電線の方法による、テレビスクリーンでの公と私的な視聴を目的とした、映像と音からなる、アナログとデジタルの両方での、TV 映像の配信を意味する。番組有料視聴制、定期視聴、インタラクティブ TV、ビデオ・オン・ダイヤモンド・サービス、IPTV、または同様のテクノロジーは、この定義に含まれる。
- 「ラジオの権利」は、無線、有線、ケーブルで、固定とポータブルの機器へのアナログとデジタルのラジオプログラムの配信と受信を意味する。
- 「インターネット」は、相互接続されたコンピューターネットワークを通じての映像と音へのアクセスを意味する。
- 「モバイル及びボーダブル機器」は、テレフォンオペレーターを通じた、携帯電話やその他の固定されていない機器（例：パーソナル・デジタル・アシスタント）での受信可能な映像と音の提供を意味する。
- 208.3 テレビ
- 208.3.1 製作の基準及び競技会のプロモーション
ホスト放送局のテレビ会社または代理店との製作に関する契約について、FIS カレンダーに掲載されているスキー／スノーボード大会、特に FIS ワールドカップ競技会のテレビ放送の質が考慮されなければならない。放送に影響を及ぼす国内法令と規則を考慮に入れた上で、次の点が特に重要である：
- スポーツを中心にした、最高品質かつ最適なテレビ信号（ライブまたはダイレイは、その大会による）の制作。
 - 会場の広告とイベントスポンサーの適切な配慮と露出。
 - FIS テレビ製作ガイドラインに沿った製作基準とその競技の現行マーケットの状況と FIS 競技会シリーズのレベルに対して適切な製作基準。このことは、表彰式のライブ放送を含む、大会全体のライブ放送を意味する（事情により、ライブ放送が提供されない限り）。放送は特定の選手や国に集中されずに、自然な形で製作され、全選手が映される。

- d) ホスト放送局のライブ国際信号は、適切な英語のグラフィック、特に FIS オフィシャルロゴ、タイミング&データインフォメーション、リザルト、及び国際音声が含まれていなければならない。
- e) 個別のテレビマーケットの必要に応じて、大会開催国と関心が高い国ではライブテレビ放送が行われるべきである。

208.3.2

製作及び技術コスト

各国スキー連盟と代理店／権利を管理する会社との間で合意している場合を除き、様々な権利の使用の目的でのテレビ信号の製作コストは、放送局や製作会社により負担される。その放送局は、競技会が行われる国で権利を獲得した放送局であり、製作会社は権利を持っている会社から信号製作を依頼された製作会社である。開催者や各国スキー連盟が、これらの費用を負担するケースもある。

この規則の基に得られた様々な権利に関して、技術費用は、権利を得て、テレビ信号へ（解説抜きのオリジナルの画と音）のアクセスを求めている会社より支払われ、技術費用は、必要に応じて、制作会社または代理店／権利を管理する会社との間で合意されなくてはならない。このことは、また、その他の制作コストに適用される。

208.3.3

短い抜粋

非権利保持者のためにニュースアクセスを可能にする短い抜粋は、次の規則にそって、テレビ会社に提供される。多くの国の国内法が、ニュースプログラム内での短い抜粋を放送することを法律に定めていることに注意する。

これらの抜粋は、定期的に予定されているニュースプログラム内でのみ使用することができる。保管目的で保存することはできない。

- a) スポーツ大会のニュースアクセスに関して法律がある国では、FIS 大会の報道について、その法律が常に優先される。
- b) 競合するネットワークによるニュースアクセスに関する法律がない国では権利を管理する会社と主要権利保持者（Primary right holder）の契約が優先される条件で、権利を保持しているネットワークが競技会を放送してから 4 時間後に、放送権を管理する代理店／会社により、最大 90 秒のニュースアクセスが競合ネットワークに与えられる。この素材の使用は、競技会終了後 48 時間以内で止める。権利を保持しているネットワークが競技会の終了から 72 時間以上遅れて放送する場合、競合するネットワークは、最大 45 秒の短い抜粋を、大会終了後の 48 時間後から 72 時間後まで放送できる。短い抜粋を使用する要望は、代理店／権利を管理する会社に伝えられ、放送局に短い抜粋へのアクセスが与えられる。但し、素材を受取りに発生する技術費用に関する合意に基づかれる。
- b) テレビ会社が放映権を購入していない国では、すべてのテレビ会社が、素材が手に入り次第、45 秒間の短い抜粋を放送できる。但し、素材の受取りに発生する技術費用に関する合意に基づかれる。この素材の使用許可は、48 時間後に終了する。
- d) 208.3.2 が考慮されながら、短い抜粋は、ホスト放送局や代理店／権利を関する会社により製作、配信される。

208.4

ラジオ

関心がある各国の主要ラジオ局にア krediyteyションを与えることで、ラジオプログラムを通じた FIS の大会のプロモーションが促される。会場へのアク

セスは、権利保持者から必要な契約上の認可を得たラジオ会社に限り認められ、ラジオ（オーディオ）プログラムの製作の目的のみである。国内の慣例により受け入れられ、認可が得られている場合、これらのプログラムをラジオ局のインターネットサイトで配信することもできる。

208.5

インターネット

FIS の大会にかかる電子メディア権利の販売契約で別段の合意がない限り、インターネットの権利も得た各テレビ権利保持者は、その会社のウェブサイトから配信される短い抜粋以外のビデオストリームが、自身のテリトリー外からのアクセスに対してブロックされることを保証する。

FIS の大会の素材が含まれる、定期的に予定されているニュースブリテンは、権利を持つ放送局のウェブサイトで配信することができる。ただし、オリジナルのプログラムで配信されたブリテンを変更しないことが条件である。

アクレディテーション、チケット、その他の許可なしで、アクセスが得られる公共のエリアにおいて製作された映像と音声素材は、レース場面を含んではならない。新しい技術が、一般人が不許可でビデオ撮影をし、ウェブサイトに掲載することを可能にさせることを認識する。ビデオ素材の許可されていない製作や使用が禁止され、法的手続きが取られる旨を伝える適切な情報が全ての入場口に掲げられ、入場チケットに印刷される。

各国スキー連盟と権利保持者／代理店は、短い抜粋が FIS ウェブサイトに、非営利目的で掲載されることを許可する。但し、以下を条件とする：

- a) インターネット配信向けに短い抜粋が確保できないとき、FIS 競技会からのニュース素材の最長時間は、各競技／各セクション 30 秒とし、競技会の終了後 48 時間以内の間、FIS ウェブでアクセス可能である。この素材の提供に関する金銭面の条件は、FIS と権利保持者の間で同意される。
- b) ニュース素材は、権利保持者やホスト放送局からできるだけ早く提供され競技会終了後、遅くとも 6 時間以内に提供される。

208.6

モバイル及びポータブル機器

モバイル及びポータブル機器により配信権が与えられている場合、権利の購入者／行使する者は、テレビの信号から、消費者の要望を最も良く満たすコンテンツを自由に製作できる。これらの機器を使い国内ベースでライブ配信しているテレビプログラムは、その他の配信チャンネルを通じて利用可能なコンテンツより変更されない。

モバイル配信権が売られていない国では、行使する者が関連する技術コストを代理店／権利を管理する会社に支払う条件で、素材が製作されたとき、48 時間の間、短い抜粋や最大 20 秒間のクリップが、行使する者に提供される。

208.7

今後の開発

この 208 条に含まれる原則は、今後の FIS の大会への電子メディア権の利用の基準となる。各国スキー連盟、関連する委員会と専門家の推奨により、FIS 理事会は、新しい開発に適切と考えられる条件を作る。

209

映画権

FIS 競技会の映画製作に関するすべての契約は、映画製作者と各国スキー連盟または関連する権利を管理する会社の間にある。その他のメディア権利の利用に関するすべての契約上の合意が尊重される。

210

競技会の組織

211 組織

211.1 開催者

211.1.1 FIS 競技会の開催者は、必要な準備を行い、開催地で競技運営を直接実行する人物またはそのグループである。

211.1.2 各国スキー連盟自体が競技会開催者ではない場合、加盟しているクラブを開催者として任命することができる。

211.1.3 開催者は、ア krediteーションを受けた人が、競技規則及びジュリー決定に関する規定を受け入れることを保証しなければならない。ワールドカップレースでは、この趣旨の徹底のため、開催者は、有効な FIS シーズンア krediteーションを持っていない人全員の署名を集める義務がある。

211.2 組織委員会

組織委員会は、開催者及び FIS から委任されたメンバー（実際のまたは法的の）により構成される。組織委員会には、開催者の権利、任務、義務が伴う。

211.3 203-204 条の資格を満たさない選手を参加させた競技会の開催者は、国際競技規則（ICR）に違反したことになり、FIS 理事会はこの開催者に対し処置を講じる。

212 保険

212.1 開催者は、組織委員会全員に損害賠償保険をかけなければならない。組織委員会の委員ではない FIS 職員及び FIS 任命の役員（用品コントローラー、メディカルスーパーバイザー等）が、FIS を代表し働く場合、FIS が彼らに損害賠償保険をかける。

212.2 最初のトレーニングまたは競技の前に、開催者は、広く知らせている保険会社が発行した保険承諾書（保険証書）或いはカバーノート（保険引受証）を取得し、それを TD に提示しなければならない。組織委員会は、最低 100 万スイスフランを補償する損害賠償保険に加入することを必要とする。推奨される賠償総額は最低 300 万スイスフランであり、この金額は FIS 理事会の決定に従って増額することがある。（ワールドカップ等）
さらに、保険証券は、ア krediteーションを受けた選手を含む参加者による、役員、コース作業員、コーチ等を含む、但し、これに限定されない他の参加者に対する損害賠償保険給付支払請求が明白に記されていない限りならない。

212.3 開催者が必要な保険補償を準備できていない場合、開催者または開催国スキー連盟は、FIS 保険仲介業者に当該競技会の保険加入手配を依頼することができる（費用は開催者負担）。

212.4 FIS 大会に参加する全選手は、レースリスクを含む事故、輸送、レスキュー費用を補償するのに十分な額の傷害保険に加入していなければならない。各国スキー連盟は、自らが派遣と登録を行った全選手の適切な保険補償について責任を負う。

各国スキー連盟またはその所属選手は、FIS、FIS の代表、組織委員会からの要望に基づき、保険補償を証明するものをいつでも提示できなければならない。

213 プログラム

FIS カレンダーに掲載されている各競技会の開催者は、次の事項を含んだプログラムを公表しなければならない：

- 213.1 競技名称、競技日程、開催地。また、競技会場に関する情報と最善のアクセス方法。
- 213.2 各競技のテクニカルデータと参加条件
- 213.3 主要役員の氏名
- 213.4 第 1 回チームキャプテンミーティング及びドロウの時間と場所
- 213.5 公式トレーニング開始とスタート時間のタイムテーブル
- 213.6 公式掲示板の設置場所
- 213.7 授賞式の時間と場所
- 213.8 エントリー締切日とエントリー用の住所、電話、ファックス、電子メールアドレス。

214 案内

- 214.1 組織委員会は、大会案内を発表しなければならない。この案内には 213 条に定める情報が含まれていなければならない。
- 214.2 開催者は、エントリー数の制限について、FIS 規則及び FIS の決定に従わなければならない。201.1 条に基づきエントリー数を減らすことも可能であるが、案内にそのことを明確にすることを条件とする。
- 214.3 競技会の延期や中止、またプログラムの変更については、電話、電子メール、またはファックスで、FIS、招待した国またはエントリーのあった各国スキー連盟、及び任命された TD へ直ちに連絡しなければならない。競技会の日程を早める場合、FIS の承認を得なければならない。

215 エントリー

- 215.1 すべてのエントリーは、組織委員会が入切日までに受け取るように送付しなければならない。開催者は最初のドロウの 24 時間前までに、最終的かつ完全なリストを持っていなければならない。
- 215.2 各国スキー連盟は、同一日に開催される複数の競技会に、同一選手をエントリーおよびドロウをしてはならない。
- 215.3 各国スキー連盟にのみ、国際競技会へのエントリーを行う資格が与えられる。いずれのエントリーも、次の事項を含むものとする：

- 215.3.1 コード番号、氏名、誕生日、所属国スキー連盟
- 215.3.2 エントリーする種目の正確な記載
- 215.4 FIS 世界選手権大会へのエントリーについては、FIS 世界選手権大会開催ルールを参照すること。
- 215.5 各国スキー連盟による選手のレースエントリーは、当該選手と開催者の間のみ契約を成立させ、また選手宣誓書によって管理される。

216 チームキャプテンミーティング

- 216.1 第1回チームキャプテンミーティング及びドロウの時間と場所は、プログラムに記載されなければならない。その他すべてのミーティングに関する案内は、第1回ミーティングのときにチームキャプテンに連絡されなければならない。緊急のミーティングは、余裕をもって連絡されなければならない。
- 216.2 チームキャプテンミーティングでの議論の際、他国の代理人による出席は認められない。
- 216.3 チームキャプテンとコーチは、クォータに従い、開催者からアクレディテーションを受けなければならない。
- 216.4 チームキャプテンとコーチは、ICR やジュリー決定に従わなければならない。また、礼儀正しくかつスポーツマンらしく振舞わなければならない。

217 ドロウ

- 217.1 各種目及び各競技の選手のスタート順は、ドロウ及び／またはポイント順による特定の方式に従い決定される。
- 217.2 書面によるエントリーが締切日までに開催者に届いている場合のみ、各国スキー連盟からエントリーされた選手のドロウを行う。
- 217.3 ドロウの時にチームキャプテンまたはコーチの出席がない選手の場合、ミーティング開始までに、エントリーした選手の出場が電話、電報、電子メールまたはファックスで確認された場合のみ、ドロウが行われる。
- 217.4 ドロウされたが競技会を欠場した選手は、TD により、その選手名と可能であれば欠場理由を TD レポートに記載されなければならない。
- 217.5 全参加国の代表をドロウに招かななければならない。
- 217.6 競技を1日以上延期しなければならない場合、ドロウもやり直さなければならない。

218 リザルトの公表

- 218.1 非公式及び公式リザルトは、大会別の規則に従って公表する。

- 218.1.1 リザルトの送信
すべての国際競技会では、スタートとフィニッシュの間は、ダイレクトコミュニケーションがなければならない。オリンピック冬季競技大会では、コミュニケーションは、固定配線で確保されなくてはならない。ワールドカップ、世界選手権大会、オリンピック冬季競技大会の際、データサービスエリアでは、インターネット（少なくとも ADSL スピード）への接続が要求される。
- 218.2 全ての FIS 競技会からのデータとタイミングは、FIS、開催者、各国スキー連盟、及び参加者が、ウェブサイトを含む自身の広報の中で自由に使うことができる。ウェブサイト上でのデータとタイミングの使用は、FIS インターネットポリシーに定める条件に従う。
- 218.3 FIS インターネットポリシーと FIS 競技会関連データのやりとり
- 218.3.1 概要
スキーとスノーボードのプロモーションの一環として、FIS は各国スキー連盟に対し、メッセージや情報を会員やファンに提供することを奨励し、またそのような努力に感謝する。このような情報提供に関しては、ますます重要となっている媒体はインターネットである。
次のポリシーは、FIS 競技会データの提供を通じて、各国スキー連盟を支援するために、またそれらデータの公開と利用に関する条件を明確にするために定められたものである。
- 218.3.2 FIS カレンダーデータ
専用 FIS カレンダープログラムが開発されており、各国スキー連盟や第三者が無料で利用できる。カレンダー情報の変更を含む、更新された Fiscal.zip ファイルは、ftp サイト (ftp://ftp.fis.ch) より、毎週利用可能である。この Fiscal.zip ファイルを FIS カレンダープログラムにアップロードして利用する。
その後、事業計画等の目的で必要な場合には、各国スキー連盟の独自ソフトウェアに、このカレンダーデータをエクスポートすることもできる。ただし、このデータを第三者・組織に商業目的で譲渡することはできない。
- 218.3.3 リザルトとスタンディング
FIS 事務局が FIS ポイントの確認し、承認した後、各国スキー連盟は、オフィシャルリザルトを入手できる。このデータ入手を希望する場合は、FIS の IT マネージャーにリクエストする。利用方法及び／または手順といった必要な情報は、IT マネージャーから個々に提供される。FIS ワールドカップリザルトは、リザルトサービスプロバイダーのクレジットを含むものとする。各種カップシリーズのスタンディングについては、ワールドカップの場合はリザルトサービスプロバイダーから受け取り後、提供可能である。その他のカップシリーズの場合は、マニュアルでのインプット後、提供可能である。
1. FIS 競技会のリザルトとデータは、各国スキー連盟、開催者、参加者のウェブサイトでのみ利用可能とし、第三者・組織に商業目的で譲渡することはできない。
各国スキー連盟は、成績評価等の目的に、このデータを独自ソフトでの利用のためにダウンロードすることができる。
 2. 各国スキー連盟のウェブサイトではリザルトを掲載する意向があるが、未加工データをアップロードできるデータベース構造がない場合は、FIS ウェ

ブサイトの関連ページにリンクを貼ることができる。正確なアドレスは FIS の IT マネージャーから入手可能である。

3. FIS ウェブサイトから、独自のウェブサイトを持つ全ての国内スキー連盟、スキー産業、関連メディアウェブサイト、に、リクエストに応じてリンクを設定する。またそれらのサイトから FIS ウェブサイトへの相互リンクも設定すべきである。

218.3.4 開催者によるリザルトへのアクセス

"FIS ワールドカップ開催者は、レースのオフィシャルリザルトがリザルトデータベースの FIS ポイント確認手続で承認された後、これを入手することができる。これはワールドカップ用のコンピュータによる自動処理で、レース終了後直ちに行われる。

リザルトとスタンディングを含む PDF ファイルは、www.fis-ski.com と <ftp://ftp.fis-ski.ch/> からダウンロードすることができる。ファイルは、次の競技別コードと会場名で分類： AL (Alpine), CC (Cross-Country), JP (Ski Jumping), NK (Nordic Combined), SB (Snowboarding), FS (Freestyle) 等。個々の競技会は、www.fis-ski.com 上のカレンダーの詳細なページに表示されているコーデックスによって識別可能である。

219 賞

- 219.1 賞の授与に関する詳細な規則は、FIS が発表する。賞は、記念品、ディプロマ、小切手または現金からなる。記録に対する賞は禁止されている。FIS 理事会が、競技シーズン約 1 年半前の秋季に、賞金の最低額と最高額について決定する。開催者は、賞金額を 10 月 15 日までに FIS へ連絡しなければならない。

- 219.2 複数の選手が同タイムでフィニッシュした場合、または同ポイント獲得した場合、これらの選手は、同順位となる。これらの選手には同じ賞、タイトル、またはディプロマが授与される。タイトルまたは賞の割り当てをくじ引きや他の競技会によって行うことは認められない。

- 219.3 すべての賞は、その競技会の最終日または大会シリーズの最終日までに授与される。

220 チーム役員、コーチ、サービススタッフ、サプライヤー、企業代表者原則として、これらの規程は全競技に適用され、競技別規則が考慮される。

- 220.1 大会組織委員会は、その競技会のア krediteーションを受けた人のリストを TD に渡さなければならない。

- 220.2 サプライヤー及び職務中の人物が、制限エリア内で広告活動を行ったり、207 条違反のはっきりと認識できるコマーシャルマーケティングのついたウェアや用品を身につけることを禁止する。

- 220.3 チームオフィシャル、ア krediteーションを受けたサービススタッフ及びサプライヤーは、FIS から公式 FIS ア krediteーションを受け取り、特定の職務を遂行しなければならない。個々の開催者は、それ以外の企業代表者やその他の主要人物に対し、自由にア krediteーションを発行することができる。

220.4 公式 FIS アクレディテーション、または開催者発行の特別アクレディテーションを所持した人のみが、コースやジャンプ台に出入りすることができる（競技別規則に従う）。

220.5 種類の異なるアクレディテーション

220.5.1 はっきりと認識できるアクレディテーションを付けた TD、ジュリー、220 条に述べた人物は、コースとジャンプ台に出入りすることができる。

220.5.2 チーム付きサービスマンは、スタートエリア及びフィニッシュのサービスエリアへ入ることができるが、コースやジャンプ台に入ることはできない。

220.5.3 開催者の裁量でアクレディテーションを受けた企業代表者でも、FIS アクレディテーションを持っていない人物は、コース及び制限されたサービスエリアに入ることはできない。

221 医事サービス、診察、ドーピング

221.1 各国スキー連盟は、レースに出場する自国選手の体の健康に責任を持つ。男女とも選手は皆、自身の健康状態について精密な診断を受ける必要がある。この診断は選手の自国で実施される。

221.2 FIS 医事委員会またはその代表者から要請があった場合、選手は競技前または後に診察を受けなければならない。

221.3 ドーピングは禁止されている。FIS アンチドーピング規則におけるあらゆる違反は、FIS アンチドーピング規則の条項に基づき罰せられる。

221.4 あらゆる FIS 競技会において、ドーピングコントロールが実施される可能性がある（競技外も同様）。規則と手順は、FIS アンチドーピング規則および FIS 手続きガイドラインに記載される。

221.5 選手の性別

選手の性別について疑問や異議申し立てが生じた場合、選手の性別判断に必要な手段を講じるのは、FIS の責任とする。

221.6 開催者に要求される医事サービス

"FIS 競技会に関わるすべての人の健康と安全は、すべての開催者にとって最大の関心事である。これは、選手、ボランティア、コース作業員、観客を含む。

医事サポートシステムの具体的な構成は、次の要因に左右される：

- 開催される大会のサイズ、レベル、タイプ（世界選手権、ワールドカップ、コンチネンタルカップ、FIS レベル等）、地域のメディカルケアの基準、地理的な位置、状況
- 予想される選手数、補助員数、観客数
- また、大会医事組織の責任範囲（選手、補助員、観客）は、決められるべきである。

開催者／医事、レスキューサービス長は、オフィシャルトレーニングや競技のスタート前に、必要なレスキュー設備が配置されていることをレースディレクターまたは TD に確認しなくてはならない。事件や、本来のメディカルプラン

の使用が妨げられる問題が起きた際、オフィシャルトレーニングや競技会が始まる前までに、バックアッププランが準備されていなければならない。施設、資源、人員及びチームドクターに関する具体的な必要事項は、各競技の規則と FIS メディカルカイドに書かれてある。

222 競技用品

- 222.1 選手は FIS 規程に適合した用品を使い FIS 競技会に出場することができる。選手は自身が使用する用品（スキー、スノーボード、ビンディング、スキーブーツ、スーツ等）に関して責任を持つ。自分の使用する用品が FIS 規格及び一般的な安全基準に適合すること、また正しく機能していることをチェックするのは、選手の義務である。
- 222.2 競技用品という用語は、選手が競技で使用する用品の全アイテムを含む。これには技術的機能を持つ器具と同様にウエアーも含まれる。競技用品全体でひとつの機能単位となる。
- 222.3 競技用品分野におけるすべての新開発は、原則として FIS の承認を得なければならない。新しい技術開発の承認に対し FIS は如何なる責任も負わない。そして、その新しい技術開発は、導入時には健康に対する未知の危険を含み、事故のリスクを高める原因になることもあり得る。
- 222.4 新開発は、次のシーズンに向けて、遅くとも 5 月 1 日までに提出されなければならない。1 年目の新開発は、最初のシーズンに向けて暫定的に承認されるのみで、その次のシーズン前に最終承認を得なければならない。
- 222.5 競技用品委員会は、FIS 理事会の承認を得て、用品の細則を発表する（許可された用品の定義や説明）。原則として、選手のパフォーマンスを修正したり、失敗したパフォーマンスになりやすい選手の体の傾向を技術的に正す不自然な、または人工的な補助器具は除外する。また、選手の健康に影響を与えたり、事故の危険性を高めるような競技用品も同様に除外する。
- 222.6 **コントロール**
競技シーズン前及び期間中、または競技会における TD への抗議の提出時に、競技用品委員会委員またはオフィシャル FIS 用品コントローラーは、各種コントロールを実施することができる。十分根拠のある規程違反疑惑がある場合、証人の立会いの下で、コントローラーまたは TD が直ちに用品を没収、封印して FIS に送り、FIS から最終的なコントロールのため公式認定機関へ提出する。競技用品のアイテムに対する抗議の場合、敗訴した側が調査費用を負担する。コントロールが規則に基づいて行われていなかったと証明されない限り、FIS テクニカルエキスパートがコントロールを行ったレースで、独立した検査機関での用品又は用具の検査は要求できない。
- 222.6.1 公式の FIS 測定手段を使用する FIS 用品測定エキスパートが任命された全ての FIS の大会では、過去の測定に関係なく、その時に実施された測定結果が有効かつ最終である。

223 制裁

223.1 一般条件

- 223.1.1 制裁の対象となり、ペナルティを科される可能性のある違反行為を、次の通り定める：
-競技規則違反または不順守
-ジュリーまたは 224.2 条による個々のジュリーメンバーからの指示への不従順
-スポーツマンらしく振る舞い
- 223.1.2 次の行為も違反とみなす：
-違反を犯そうと企てる
-他者に違反を犯させる原因となる、または他者が違反を犯すよう助長する
-他者が違反を犯すことに助言する
- 223.1.3 ある行為が違反にあたるかどうかの判断には、次を考慮すべきである：
-その行為が故意によるものかどうか
-その行為が緊急事態に起因するものかどうか
- 223.1.4 全ての FIS 加盟連盟は、ア krediyteeshyon 登録されている会員も含め、FIS 規約及び国際競技規則による上訴する権利を条件に、これらの規則及び科された制裁措置を受け入れ、認める。
- 223.2 適用**
- 223.2.1 人物
これらの制裁は次に対し適用する：
- FIS または FIS カレンダーに掲載されている大会の開催者からア krediyteeshyon を受け、競技エリア及び競技に関連するあらゆる場所の内外にいる人物全員。
- ア krediyteeshyon を受けていないが、競技エリア内にいる人物全員。
- 223.3 ペナルティ**
- 223.3.1 違反行為により、次のペナルティが科される可能性がある：
- 戒告 - 書面または口頭
- ア krediyteeshyon の取り消し
- ア krediyteeshyon の拒否
- 100,000 スイスフラン以下の罰金
- タイムペナルティー
- 223.3.1.1 FIS 加盟連盟は FIS に対し、連盟が手配しア krediyteeshyon 登録をした人に科された罰金及び生じた総経費の支払に責任を負う。
- 223.3.1.2 223.3.1.1 条に該当しない人物もまた、FIS に対し、罰金及び生じた総経費の支払に責任を負う。そのような人物が罰金を支払わない場合、FIS 大会ア krediyteeshyon 申請への許可を 1 年間、取り消しに 科す。
- 223.3.1.3 罰金の支払期限は、支払命令から 8 日以内である。
- 223.3.2 大会に出場する全選手は、さらに次のペナルティが科される可能性がある：
- 失格
- スタートポジションの後退
- 賞及び利益の没収 開催者を受益者とする

- FIS 大会への出場停止

223.3.3 規則に特に記載されている場合を除き、選手のミスが、競技の最終リザルトに有利に働く場合のみ、選手は失格になる。

223.4 ジュリーは、223.3.1 条及び 223.3.2 条に定められたペナルティを科すことができるが、5,000 スイスフランを超える罰金処分や、違反の起きた FIS 大会を過ぎて出場停止処分を選手に科すことはできない。

223.5 次のペナルティ決定は、口頭で下すことができる：

- 戒告
- 所属の各国スキー連盟経由で大会開催者に登録していない人物からの当該大会アクレディテーションの取り消し
- FIS のアクレディテーションを受けた人物の当該大会アクレディテーションの取り消し
- 競技エリアまたは競技に関連するあらゆる会場内にいる人物からの当該大会アクレディテーションの拒否

223.6 次のペナルティ決定は、書面とする：

- 罰金
- 失格
- スタートポジションの後退
- 競技会出場停止
- 所属の各国スキー連盟経由で登録した人物のアクレディテーションの取り消し
- FIS のアクレディテーションを受けた人物のアクレディテーションの取り消し

223.7 書面によるペナルティ決定は、違反者（選手でない場合）、その違反者の所属する各国スキー連盟及び FIS 事務局長に送らなければならない。

223.8 失格は全て、主審及び／または TD レポートに記録する。

223.9 ペナルティは全て、TD レポートに記録する。

224 手続きガイドライン

224.1 ジュリーの権限

大会におけるジュリーには、前述ルールに従い、多数決をもって、制裁を科す権利がある。賛否同数の場合は、ジュリー長の決定投票とする。

224.2 会場内、特にトレーニング及び競技時間内において、投票権を持つ各ジュリーメンバーは、口頭戒告を発し、当該大会のために発行されたアクレディテーションを取り消す権限が与えられる。

224.3 集団違反

複数の人物が同時かつ同一条件の下で同じ違反を犯した場合、ひとりの違反者に対するジュリー決定を、違反者全員に拘束力をもつものとみなすことができる。決定文書には違反者全員の氏名が記載され、ペナルティの範囲は個々に査定する。決定内容は各違反者に通知される。

- 224.4 制限**
違反者に対し、制裁発動手続きが違反後 72 時間以内に始まらなかった場合、その人物は制裁を受けない。
- 224.5 違反の疑いのある行為を目撃した人物は、ジュリーの召集するヒアリングで証言しなければならない。またジュリーは、全ての関連証拠を考慮に入れなければならない。
- 224.6 用品ガイドラインに違反して使用された疑いのある物を、ジュリーは没収することができる。
- 224.7 ペナルティを科す前に（223.5 条及び 224.2 条による戒告及びアクレディテーションの取り消しのケースを除く）、違反に問われている人物には、ヒアリングで口頭または書面により抗弁する機会が与えられる。
- 224.8 ジュリー決定は全て書面で記録し、次を含むものとする：**
- 224.8.1 犯した疑いのある違反行為
- 224.8.2 違反の証拠
- 224.8.3 違反したルールまたはジュリー指示
- 224.8.4 科されたペナルティ
- 224.9 ペナルティは違反に対し妥当なものとする。ジュリーが課すペナルティの範囲は、あらゆる軽減及び加重事由を考慮されたものでなければならない。
- 224.10 救済策
- 224.10.1 224.11 条に規定された以外は、国際競技規則の条項に従い、ジュリーのペナルティ決定を上訴することができる。
- 224.10.2 国際競技規則の定める期限内に上訴しない場合、ジュリーのペナルティ決定は確定的となる。
- 224.11 次のジュリー決定については、上訴できない：**
- 224.11.1 223.5 条及び 224.2 条による口頭によるペナルティ
- 224.11.2 単一の違反に対して CHF1,000 未満の罰金。そして、同一人物による繰返しの違反に対して、追加の CHF2,500 の罰金
- 224.12 その他全てのケースについて、国際競技規則に従い、上訴委員会へ上訴できる。
- 224.13 ジュリーは上訴委員会に対し、5,000 スイスフランを超える罰金処分や、違反の起きた大会を過ぎての出場停止処分について（223.4 条）、勧告を提出する権利を持つ。

- 224.14 FIS 理事会は上訴委員会に対し、ジュリーによるペナルティ決定書に関するコメントを提出する権利を持つ。
- 224.15 手続きの費用**
旅費を含む費用及び現金経費は、TD に支払われる費用と同等に計算し、違反者が支払うものとする。ジュリー決定の全てまたは一部破棄の場合、全ての費用を FIS が負担する。
- 224.16 罰金刑の執行**
- 224.16.1 FIS が罰金刑の執行と手続費用について監督する。執行費用は手続きの費用とみなす。
- 224.16.2 違反者に科された罰金の未払いについては、違反者の所属国連盟の債務とみなす。
- 224.17 振興基金**
罰金は全額、FIS ユース振興基金に払い込むものとする。
- 224.18 FIS ドーピング規則違反には、これらは適用されない。
- 225 上訴委員会**
- 225.1 任命**
- 225.1.1 FIS 理事会は、各競技のルール小委員会（ルール小委員会がない場合は、各競技の委員会）から、上訴委員会の委員長と副委員長を任命する。委員長ができない場合、または偏見や先入観のため不適格な場合、副委員長が議長を務める。
- 225.1.2 委員長は、上訴またはヒアリングのために提出された各ケースのため、各競技のルール小委員会、または各競技の委員会から、3 名の上訴委員会委員を任命する。この 3 名のなかに委員長自身を入れることも可能である。決定は多数決とする。
- 225.1.3 偏見や先入観を避けるため、またはそれらが現れるのを避けるため、上訴委員会に任命される委員は、上訴中の違反者と同じ国の連盟に所属する者であってはならない。さらに、上訴委員会に任命された委員は、違反者に対し良くまたは悪く抱いている偏見や先入観を委員長に自発的に報告しなければならない。偏見や先入観をいだいている人は、委員長により上訴委員会の委員として不適任とされる。委員長は、副委員長により不適任とされる。
- 225.2 責任**
- 225.2.1 上訴委員会は、競技ジュリー決定に対する、違反者または FIS 理事会による上訴に関してのみヒアリングを開く。もしくは、競技ジュリーが制裁の規則に規定された以上のペナルティを勧告し、上訴委員会に問い合わせた事柄に関してのみ、ヒアリングを開く。
- 225.3 手続き**

- 225.3.1 上訴の当事者全員が、ヒアリング時間の延長に書面で同意しない限り、上訴は、委員長が上訴を受領した後 72 時間以内に結審しなければならない。
- 225.3.2 上訴及び返答は全て、書面で提出しなければならない。これには、当事者が上訴を支持または返答する際に、提供するつもり証拠も含まれる。
- 225.3.3 上訴の場所と形式については、上訴委員会が決定する。（電話会議、当事者、Eメール交換）
上訴委員会委員は、その判決が公になるまで上訴の守秘義務を尊重することを要求され、審議中、他の委員のみと相談することが要求される。
上訴委員会委員長は、不相当な方法とならない限り、当事者から追加の証拠を要求することができる。
- 225.3.4 上訴委員会は、224.15 条に従い、上訴費用の配分を行う。
- 225.3.5 上訴委員会の判決は、審議やヒアリングの終了時に口頭で言い渡すことができる。判決と判決理由は書面で FIS に提出し、FIS が、それらを、当事者とその所属国連盟、決定を上訴されたジュリーメンバー全員に送る。また、審議書は FIS 事務局で入手可能である。

225.4 控訴

- 225.4.1 上訴委員会の判決について、FIS 定款 52; 52.1 条、52.2 条に従って、FIS 裁判所に控訴することができる。
- 225.4.2 FIS 裁判所への控訴は、上訴委員会判決の公表日から定款 52.1 条、52.2 条に規定する期日に従い、FIS 事務局長へ書面で提出する。
- 225.4.3 上訴委員会または FIS 裁判所への上訴により、競技ジュリー、上訴委員会、または理事会のペナルティ決定の執行が遅れることはない。

226 制裁の違反

223 条または FIS アンチドーピング規則に基づき下された制裁に違反した場合、理事会は妥当と考えるさらなる制裁を科することができる。このような場合、次の制裁のいくつかまたは全てを適用することができる：

226.1 関与した個人に対する制裁：

- 文書戒告；
及び／または
- 100,000 スイスフラン以下の罰金--
及び／または
- 一段階上の競技会出場停止処分-例：ドーピング違反に対して 3 ヶ月間の出場停止処分が科された場合、この出場停止処分に違反すると、2 年間の出場停止処分の原因となる。ドーピング違反に対して 2 年間の出場停止処分が科された場合、この出場停止処分に違反すると、生涯出場停止処分の原因となる；
及び／または
- 関与した個人のアクレディテーションの取り消し。

226.2 各国スキー連盟に対する制裁：

- 各国スキー連盟への FIS 財政支援の取り消し；

及び／または

- 当該国内の今後の FIS 大会のキャンセル；

及び／または

- FIS 加盟国の権利の全てまたは一部取り消し。FIS カレンダー競技会への参加、FIS 総会での投票権、FIS 委員会における委員資格を含む。

3000 組織

3010 オーガナイザー

競技会のオーガナイザーは、必要な事前準備とスキー場エリアで競技会運営ができる個人、または団体であること。

3010.1 各国スキー連盟がオーガナイザーでない場合、関連組織をオーガナイザーとして選定することができる。

3011 オーガナイザーの契約

3011.1 オーガナイザーの選定

各国スキー連盟がオーガナイザーを選定する場合、FISの基準を満たす内容の契約を締結すること。

3011.2 オーガナイザーを選定しない場合

各国スキー連盟がオーガナイザーを選定しない場合、FISが直接契約を締結する。

3012 組織委員会

3012.1 構成

組織委員会は、（物理的に、もしくは法的に）オーガナイザーおよびFISが委嘱する者で構成し、オーガナイザーの権利、職務、および義務を行使する。

3012.2 組織委員会は、FIS公認の大会を適切に運営するために必要な、すべての業務責任を細部にわたり事前に把握していなければならない。円滑な大会運営のため、大会に参加するすべての個人、および団体との効率的な連絡は必要不可欠である。

3012.3 組織委員会は、大会の参加者、招待客に対し、宿泊および現地までの交通手段に関する案内および配布物を準備すること。この案内は確実に手元に届くように、最低3か月前までに発送する。

3012.4 組織委員会はFIS事務局と競技会に参加した国に対し、準備ができ次第、ただちに責任を持って、承認された電子形式にてリザルトを配布する。リザルトの配布が遅れる場合のみ、リザルト送付は大会の翌日になってもよい。大会結果を大会当日に伝達することは、各国代表者の責任とする。

3012.5 FISによる選出

FISは、すべての競技会に技術代表（以下「TD」という）を、必要に応じてレースディレクター（RD）を指名する。（3030.1参照）

3012.5.1 競技会の審判員は有資格者とする。FIS公認国際競技会では、審判員は、FISフリースタイル委員会が指名する。

3012.5.2 主審は、FIS フリースタイル委員会が指名する。

3012.5.3 以上、FIS が指名した役員は、組織委員会の委員となる。

3013 組織委員会の基本経費

3013.1 組織委員会は、FIS の規定に従い公認料を支払わなければならない。

3013.2 組織委員会は、FIS の規定に従い、審判員と TD に対し日当を支給する。

3013.3 役員の経費

TD と審判員は、任務期間中の宿泊費、食費と最高 600 スイスフラン*（高速道路代を含む）を補償しなければならない。この規則は、インスペクションのための競技会への移動費用（列車のファーストクラス、長距離の場合、航空費のエコノミークラス、車の場合 1 キロあたり 0.7 スイスフランもしくは相当額）にも適用する。

さらに、日当は 100 スイスフラン**とし、大会関係日、大会会場までの移動日、報告書の郵送代などを含む。二重の請求（大会終了日に帰宅できる場合など）は認めない。移動日に宿泊が必要な場合、別請求として補助すること。

*最高 600 スイスフランは、オリンピック冬季競技大会、世界選手権大会、ワールドカップ、コンチネンタルカップを除く競技会に適用する。

**この規則はオリンピック冬季競技大会と FIS 世界選手権大会に適用する。

3013.4 組織委員会は FIS フリースタイル委員会の方針に従い、宿泊設備を準備しなければならない。

3013.5 組織委員会は、FIS フリースタイル委員会の方針に従い、公式練習、および競技会開催に必要なリフト券を支給しなければならない。

3020 競技役員会と競技役員

3020.1 競技役員会

3020.1.1 オーガナイザーによる指名

オーガナイザーは、その他すべての組織委員会の委員を指名する。会長（または代表）は、対外的に委員会を代表し、会議を主催し、他の組織が決定する事項を除き、すべての事柄を決定する。競技会の準備から事後処理まで、委員たちは FIS、および FIS 指名の役員と連携し、大会成功に向けて職務にあたる。

- 競技委員長 The chief of Competition ;
- レフリー The Referee ;
- コース係長 The Chief of Course ;
- コースデザイナー The Course Designer ;
- インラン係長とジャンプ係長 The Chief of Inrun and Chief of Jumps ;
- 保守係長 The Chief of Maintenance ;
- 設備係長 The Chief of Course Equipment ;
- 旗門審判係長 The Chief of Gate Judges ;
- 旗門審判 The Gate Judges ;
- 計時係長 The chief of Timing ;
- 記録計算係長 The Chief of Scoring ;
- フィニッシュ係 The Finish Officials ;

- 競技セクレタリー The Competition Secretary ;
- ビブコーディネーター The Bib Coordinator ;
- 会場係長 The Chief of Steward ;
- 報道係長 The Chief of Press ;
- 音響係長とDJ The Chief of Sound and DJ ;
- 医事救助係長 The Chief of Medical and Rescue Services ;
- 応急処置と医療体制 The First Aid and Medical Service ;

3020.1.2 競技役員会の役割

競技役員会は、コースの選択、準備などを含む競技技術に関するすべてのこと
がらについてすべて責任を持つ。

組織委員会があらかじめ任命した役員を除き、競技役員会は、追加の役員を指
名する。

3020.2 競技役員

3030.1 に基づき FIS が指名する TD は、オーガナイザーのメンバーにはなれな
い（国や地域の大会のレベルではこの限りではない）が、ジュリーメンバーと
して、組織委員会の委員となる。

以下の役員は、オーガナイザーが任命する。主要競技役員の任務は以下のとお
りとする。

3020.2.1 競技委員長

競技委員長は競技役員の業務を指示、監督する。競技役員会を招集し、技術上
の問題について検討する。TD、レフリー（指名されている場合）と協議後、チ
ームキャプテンミーティングの議長を務める。競技委員長もジュリーメンバー
である。

3020.2.2 レフリー

レフリーは、各フェイズと競技会の最後に、ゲート不通過と規則違反について
旗門審判係長から報告を受け記録する。各フェイズ終了後ただちに、確認、サ
インをして、公式掲示板にレフリーの記録を掲示する。

レフリーは、DSQ となった競技者の名前、規則違反が生じたゲート番号、DSQ
の原因となった違反を記録した旗門審判員の名前、そして DSQ が掲示された
時刻を表にして記録すること。

特別な場合、また、ジュリーメンバー内で異なった意見がある場合、もしくは、
競技者が重傷を負った場合、報告書を FIS に送る。

3020.2.3 コース係長

コース係長は、競技役員会、およびジュリーの決定に従い、コースの準備に責
任を持つ。コース係長は、その地方の雪質、および地形について熟知していな
ければならない。

3020.2.4 コースデザイナー

コースデザイナーは、コースの持つ特性とフリースタイルコース規格に基づい
て、設計案を構築し、コース造成のスケジュールを製作するものとする。

3020.2.5 インラン係長とジャンプ係長

インラン係長とジャンプ係長は、エアリアルのコース係長を補助する。これら役員は、異なるエアリアルのジャンプ、それに伴うトランジションとインランを準備し維持する。

- 3020.2.6 保守係長
保守係長は、競技会とトレーニングの期間、コースの準備を整えるために、サイドスリッパとその他コース系の管理に責任を持つ。
- 3020.2.7 設備係長
設備係長は、コースの準備と維持に必要なすべての道具の準備に責任を持つ。
- 3020.2.8 旗門審判係長
旗門審判係長は、すべての旗門審判員とジュリーに必要な情報を伝達することに責任を持つ。
- 3020.2.9 旗門審判員
スキークロス競技会では、すべてのゲートとフィーチャーを旗門審判員が目視できるように、最低4名、最高8名の旗門審判員を、コースの全体のふさわしい位置に配置しなければならない。すべての旗門審判員は、旗門審判係長とレフリーに無線通信で交信できなければならない。すべての旗門審判員は、スキークロスにおける規則、とくにDSQと接触に関する規則を熟知していなければならない。旗門審判員は、ひとつまたはそれ以上のゲートの監督に責任を持つこともある。
旗門審判員は、自分の持ち場内において競技者が正しく通過しているかどうか、正確に観察し、ゲート不通過や規則違反があった場合、無線通信と書面でただちに報告しなければならない。
- 3020.2.10 計時係長
計時係長は、計時器具、出発と決勝役員の連携に責任を持つ。以下の役員は、計時係長の監督の下、任務を遂行する。
- 出発主任 Starter (3042.1 参照)
- 出発副主任 Assistant Starter (3042.2 参照)
- 計時主任 Chief Timekeeper (3042.3 参照)
- 計時副主任 Assistant Timekeeper
- 3020.2.11 記録計算係長
記録計算係長は、大会期間中の得点計算の確認・検査に責任を持つ。記録計算係長は、競技会の結果の計算に関する、すべての規則に精通していなければならない。
- 3020.2.12 フィニッシュ係
モーグルとデュアルモーグルにおいて、フィニッシュ係はコース内にすべてのジャンプが着地したかどうか確認することの責任を持つ（競技者がラインを横切る以前にスキーのセンターが着地した場合、ジャンプはコース内に着地したものとす）。スキークロスでは、競技者がゴールした順番を測定する。
フィニッシュ係は、DNS、DNF、DSQの判定においてジュリーを補佐する。
- 3020.2.13 競技セクレタリー
競技セクレタリーは、競技会に関する庶務的な仕事のすべてに責任を持つ。
3045で規定されている内容の公式成績を、確実に整えなければならない。競技役員会、ジュリー、チームキャプテンミーティングの議事録の作成に責任を持つ

つ。出発、審判、計時、記録計算および抗議に必要な書類を十分に準備し、適宜、正しい順序で配布する。公式記録を競技会後直ちに、複写し確実に配布しなければならない。（3012.4 参照）

- 3020.2.14 ビブコーディネーター
ビブコーディネーターは、競技者と役員に割り当てられるすべてのビブの準備、割り振り、配布と収集に責任を持つ。
- 3020.2.15 会場係長
会場係長は、コースから観客を確実に隔離することの責任を持つ。計画を実施するために、十分な人員を活用しなければならない。ロープやフェンスを事前に準備する。これら境界線の後ろ側には、観客が自由に移動できる余地を確保すること。
- 3020.2.16 報道係長
報道係長は、ジャーナリスト、カメラマン、テレビやラジオのリポーターとの調整に責任を持つ。
- 3020.2.17 音響係長と DJ
音響係長と DJ は、音響機材の準備と操作に責任を持つ。
- 3020.2.18 医療救助係長
医事係長と救護隊は、競技会および公式トレーニング期間中、適切な応急手当、医療関連事項に責任を持つ。
負傷した競技者を収容し、治療するために必要な施設を準備しなくてはならない。
大会担当医師は、公式トレーニング前に、チームの医師たちと打合せし、対策を調整する。トレーニングと競技会中には、電話または無線通信でアシスタントと連絡をとれなければならない。公式トレーニング開始前に、競技委員長と対策を調整しなければならない。

不慮の事故に備え、スキー技術に優れた医師一名をスタートで待機させ、ジュリー、そして救護隊と連絡をとりあうこと。この任務は、チームの医師が委任されることもある。詳細は、医療サポートの必要事項については、FIS メディカルガイド第一章（医療規則とガイドライン記載）参照。
- 3020.2.19 応急処置と医療体制
応急処置と医療体制は、すべてのトレーニングのときに完璧に対応できるように準備しなければならない。詳細は、医療サポートの必要事項については、FIS メディカルガイド第一章（医療規則とガイドライン記載）参照。
- 3020.2.20 スタートレフリー
スタートレフリーは、公式インスペクション時間の最初から、公式トレーニングと競技会の最後まで、スタートにいななければならない。
- スタートに関する規則とスタートの秩序が保たれているか、確実に観察見届ける。
- 遅刻および不正のスタートを決定する。
- 常にジュリーとすみやかに連絡をとる。
- スタートしない競技者の名前をレフリーに報告し、ジュリーにすべての規則違反（スタートへの遅刻は不正、または用具に関する規則違反など）を報告する。

- スタートに、確実に予備のビブを用意する。

3020.2.21 フィニッシュレフリー

フィニッシュレフリーは、公式インスペクション時間の最初から、公式トレーニングと競技会の最後まで、フィニッシュにいななければならない。

- フィニッシュ、フィニッシュに続くインラン、または、ランディング斜面とアウトランの構成、適切に保持されたフィニッシュエリアに関する規定を確保する。
- フィニッシュ係、タイミングおよびフィニッシュエリア内の観客を監督する。
- 常にジュリーとすみやかに連絡がとれなくてはならない。
- フィニッシュしなかった競技者の名前をレフリーに報告し、ジュリーにすべての規則違反を報告する。

3030 FIS 技術代表 (TD)

3030.1 任命

すべての公認競技会の TD は、それぞれのワーキンググループの推薦を受け、FIS フリースタイル委員会が任命する。各国の競技会については、各国のスキー連盟が TD を任命する。

TD の任命は、競技会開催の 60 日以前に行い、その旨、本人、大会組織委員会、および TD の所属する国のスキー連盟に通告する。

3030.2 TD の資格

3030.2.1 TD は、組織委員会のメンバーであってはならない。ただし、国内、地区競技会はこの限りではない。

3030.2.2 世界選手権大会、オリンピック冬季競技大会、ワールドカップ、他の選手権大会の TD は、TD 有資格者でなければならない

3030.3 TD の交代

交代決定の場合、報告書を作成し、FIS 事務局、FIS フリースタイル委員会と競技会開催地の組織委員会および任命された FIS フリースタイル代表に送付すること。

3030.3.1 競技会開催前

オリンピック冬季競技大会、世界選手権大会
FIS 理事会は、有資格の候補者から代わりの TD を指名しなければならない。
競技会の組織委員会、FIS 事務局、FIS フリースタイル委員会に報告する。

他の国際競技会およびコンチネンタル競技会
FIS 事務局は、直ちに代わりの有資格 TD を責任を持って指名する。競技会の組織委員会、FIS 事務局とその他の影響を受ける関係者に報告する。

3030.3.2 競技会開催中

オリンピック冬季競技大会、世界選手権大会
FIS 理事会と TD が所属する国のスキー連盟は、代わりの TD を指名しなければならない。

他の国際競技会およびコンチネンタル競技会

FIS・FS 代表が、代わりの TD を指名する権利を有する。指名前に FIS 事務局と
諮問すること。

国際競技会の TD は、3030.2 にあるすべての条件に合致しない TD であっても、
競技会の開始、運営を保証できる場合、任命してもよい。この基準のなかで、
もっとも優秀なものを指名すること。

3030.4 ジュリーにおける TD の任務

3030.4.1 TD は、ジュリーメンバーの技術顧問として行動する。

3030.5 競技会以前の TD の任務

3030.5.1 TD は、競技会のコース、および予備のコースを、公式トレーニング開始直前
に視察しなくてはならない。

3030.5.2 視察の要項は、以下のとおりとする。

- コースの技術データが FIS フリースタイルコース規格規定に基づいているか
- 4002、4201、4202、4302、4502、4602 および FIS フリースタイル技術規格に、コースの準備状況、安全基準が一致しているか
- 冬期、天候の各コースへの影響
- 各コースのスタート、およびフィニッシュエリアの選定と準備（3043－3044 参照）
- スタートエリアへの競技者の輸送手段
- スタートとフィニッシュエリア間の連絡方法
- 競技会期間中、および終了後の医療体制

3030.5.3 TD は、必要に応じて、主催者に適切に助言をする義務がある。

3030.5.4 主催者は、競技の技術面での準備状況について、すべて TD に報告しなければならない。主催者と TD は継続的に、連絡を密に取ること。

3030.5.5 TD は、遅くとも公式トレーニング開始 24 時間前までに、競技会会場に到着しなければならない。

3030.5.6 TD は、前競技会の TD 報告書を読まなければならない。

3030.5.7 TD は、ホモロゲーション時の改善案、FIS フリースタイル委員会の提案が実行されているか調査しなければならない。

3030.5.8 TD は、同じ会場で開催された公認競技会に関する TD 報告書の内容を、責任を持って事前に把握しておくこと。

3030.5.9 TD は、組織委員会が作成したサプライヤー、サービスマンなどのリストを把握する。

3030.5.10 TD は、競技者の参加資格を抜き打ち検査すること。

3030.6 公式トレーニングおよび競技会開催期間中における TD の任務

3030.6.1 公式トレーニング、組織委員会および競技役員の活動状況を視察する。

- 3030.6.2 すべてのジュリー会議、チームキャプテンミーティングへ出席する。
- 3030.6.3 競技会全体の技術、運営面の監督。
- 3030.6.4 競技会終了後ただちに、成績を承認し、フリースタイル FIS ポイントルール（セクション 4）に従って FIS ポイント計算の準備をする。
- 3030.7 TD 報告書**
TD は、規定の様式で報告書を作成し FIS 事務局、組織委員会、開催国スキー連盟に送付しなければならない。この報告書は次に予定される競技会の TD、FIS のオフィシャル担当者にも送付しなければならない。
- 3030.7.1 TD は、TD 候補者の技術能力について報告書を作成し、FIS 事務局、候補者が所属する国のスキー連盟の責任者に送付しなければならない。
- 3030.8 TD の権限**
- 3030.8.1 ジュリー会議の議長となり、投票が同数の場合、最終的に決定する。
- 3030.8.2 3030.5 に基づいて決定する。
- 3030.8.3 必要な場合、TD は、資格、能力のある者をジュリーメンバーとして指名することができる。
- 3030.8.4 競技会、または事前調査に伴う費用に関しては、FIS フリースタイル委員会の規定に従う〔3013.3 参照〕。
- 3030.8.5 組織委員会は、競技会の概要に関し、大会要項、招待状、プログラムや式次第など、書面により、すべて TD に通知する。競技会中止、または延期についても同様に、即刻通知しなければならない。
- 3030.8.6 TD は、任務遂行するに必要な事項について、組織委員会、及び関連役員に協力を要請する権限がある。
- 3030.9 TD の候補者（アシスタント TD）**
- 3030.9.1 各国スキー連盟は、FIS 事務局に、TD 候補者を指名する権利がある。各競技会ごとに 1 名の TD 候補者のみとする。
- 3030.9.2 TD 候補者の委嘱は、FIS 事務局が責任を持つ。
- 3030.9.3 委嘱に関する経費は、任命された TD 候補者の個人負担とする。
- 3030.9.4 TD は、TD 候補者の技術能力について報告書を作成する。この報告書は FIS 事務局および候補者の国のスキー連盟の責任者に送付しなければならない。
- 3030.9.5 TD 候補者は、競技会中の問題点について報告書を作成し、FIS 事務局および候補者の国のスキー連盟の責任者に送付しなければならない。

3032 ジュリー

3032.1 構成

ジュリーメンバーは、以下のとおり構成し、組織委員会の委員となる。

- TD-FIS 指名 (議長)
- 主任審判員/レフリー (スキークロス) - FIS 指名、メジャー競技会
- 競技委員長-オーガナイザー指名

ジュリーメンバーは、各 1 票の投票権を持ち、議長が決定権を有する。ジュリーメンバーは、異なるスキー連盟から選出することが望ましい。

異なる 3 か国から選出される大会 異なる 3 か国から選出される大会

オリンピック冬季競技大会
ワールドカップ
世界選手権大会
ジュニア世界選手権大会

コンチネンタルカップ
FIS の国際競技会

競技者アドバイザー委員会は、3034 に基づきジュリーに意見を述べることはできるが投票権はない。

3032.1.1 投票権のあるジュリーは、コースに常駐し、お互いに連絡がとれなくてはならない。

3032.1.2 ジュリーは、安全性、または公平性に基づいて競技会を続けることが勧められないと判断した場合、競技の中止、中断、延期を命ずる権限を持つ。

中止の原因には下記項目などがある：

- コース上、コース脇に雪が少ない場合
- コースを覆う雪面の不十分な整備、または均一でない整備
- 危険個所の安全対策不備
- 医療、救急、応急処置などの不備、または不完全な組織
- 観客対策の不備
- 容認できない気象状況
- 極端な寒さ：スタートの気温がマイナス 20 度以下の場合、ジュリーは競技会、またはトレーニングを気温がマイナス 20 度以上になるまで延期する、または、適切な気温になりにくいと判断した場合、競技会を中止するかを検討するために会合しなければならない。競技会中断の決定は、最終的、または一時的である場合がある。3060.2.4 参照のこと。

3032.1.3 ジュリーは、抗議があった場合、審議検討の上、必要な裁決をする権限を持つ。

3032.1.4 ジュリーは、リランを暫定的に承認する権限を持つ。

3032.1.5 ジュリーは、エアリアル競技会において、FIS フリースタイル委員会の示すガイドラインを基準に基づいて技の最高難度、または、サマーソルトの回数制限を決定する権限を持つ。そのガイドラインは、競技会で行うことができる技を、2 回転複数捻り、または、3 回転 1 捻りに制限するものである。ジュリーはエアリアル男子競技会の難度を、3.55 もしくは 4.175 に制限する選択権がある。ジュリーは、エアリアル女子競技会の難度を、3.55 に制限することができる。

- 3032.1.6 ジュリーは、スキーハーフパイプの競技会フォーマットを、選択する権限を持つ。ジュリーは、競技者のエントリー数と大会時間に基づいて、ヒート数と、準決勝の開催を決定する。
- 3032.1.7 すべての会議とジュリー決定について、議事録を作成し、ジュリーメンバー全員が署名し、投票内容を明記する。議事録はジュリー会議議長が承認し、FIS 公用語で作成しなければならない。
- 3032.1.8 ジュリーメンバーは、競技会開催中、定期的にコースを視察すること。

3033 審判

3033.1 審判の指名

競技会の審判は、資格ある審判団とする。公認競技会の審判員は、FIS フリースタイル委員会または他の認定された小委員会が指名する。スキーハーフパイプについては、適正な資格のある FIS スノーボード審判を指名してもよい。

3033.1.1 審判数：

A 級大会： 主審 1 名と採点審判 5 名から 7 名

そのほかの競技会： 主審 1 名と採点審判 5 名

特別な場合、より少ない数の審判を予定することができる。

3033.2 1 か国あたりの審判員の数

オリンピック冬季競技大会、および世界選手権大会

- 1 か国最大 1 名

ワールドカップ、ジュニア世界選手権大会

- 採点審判は 1 か国最高 2 名。その他もう一名同じ国からの審判が、採点しない主審となることできる。

コンチネンタルカップ

- 採点審判は最低 2 か国からとする。

その他 FIS 競技会

- FIS の有資格者審判

3033.3 主審は、FIS フリースタイル委員会または適切に認定された小委員会が任命する。

3033.4 主審、および審判が、何らかの事情で任務を果たすことができない場合、交代要員を指名し、準備すること。

3033.5 主審の権利と任務

- 3033.5.1 主審は、ジュリーメンバーである。
- 3033.5.2 主審は、実際に採点しない方が望ましい。記録計算係長と共に、各審判員の判定、および得点結果を確認し、ジャッジスタンドの秩序を保つ。
- 3033.5.3 主審は、必要に応じて、審判の職務を代行してもよい。
- 3033.5.4 主審は、各審判員の移動、宿泊、経費の手配が整っていることを確認すること。主審は、すべての連絡、予定、日程、用具、医療施設、出欠、その他の準備、審判に関するすべての詳細に責任を持つ。したがって、主審は、審判が担当する競技関連業務において発生する異例の事態に対する、全責任を負うこと。
- 3033.5.5 主審は競技会后 1 時間以内に、競技会を精査するための会議を予定すること。時間と場所はチームキャプテンミーティングで発表する。
- 3033.6 審判手順**
- 3033.6.1 各審判員は、スコアカードを使用する。スコアカードには審判が誰であるかわかるように、審判番号、競技者の氏名、ビブ番号を明記する。
- 3033.6.2 ジャッジスタンドでは各審判員が最低 1 m 以上離れ間仕切りを設けること。競技者の得点について（主審がディスカッションを始める場合を除き）、審判員同士で話しあわないこと。
- 3033.6.3 競技会中は、競技者、チームの役員、または、観客は、ジャッジスタンドに近づき、審判員に話しかけることは禁じられている。
- 3033.6.4 ジュリーは、審判員間、またはジャッジから提起された問題、または議論の解決を図らなくてはならない。ジュリーは、解決できなかった問題については、FIS フリースタイル委員会に連絡する。
- 3034 アドバイザリー委員会、テクニカルアドバイザー、コースアドバイザー、ビデオコントローラー、コネクションコーチとジャンプシェイパー**
- すべての FIS の公認競技会では、ジュリーへ助言する、アドバイザリー委員会を、競技会開始前までに設定するものとする。
- 3034.1 競技者アドバイザリー委員会**
- すべての公認競技会では、各種目ごとに、別々の競技者アドバイザリー委員会を、以下の人員で構成するものとする：
- コース係長
 - 競技者の代表 2 名（女子 1 名、男子 1 名）
- 3034.2 コネクションコーチ**
- すべての公認競技会では、各種目ごとに、チームキャプテンミーティングにおいて、1 名のコネクションコーチを指名するものとする。
コーチと競技者代表は、大会主催国からは選出しないこと。
- 3034.3 競技会中のアドバイザリー委員会の役割**

3034.3.1 競技者とコーチのグループは、ジュリーまたは、FIS・FS コーディネーターに、アドバイザリー委員会に選出した人物を連絡すること。事前に決定していない場合、チームキャプテンミーティングにおいて指名する。

3034.3.2 アドバイザリー委員会の委員はジュリーに直接助言できるが、ジュリーメンバーとしての投票権はない。

3034.3.3 アドバイザリー委員会は、参加する競技会のすべての局面を念頭に置き、安全面に関して提案するものとする。

3034.4 ジャンプとエアバンプ・シェイパー

3034.4.1 エアリアル競技のジャンプおよびモーグルとデュアルモーグル競技のエアバンプの形成、シェイプのため、チームキャプテンは各ジャンプ（エアバンプ、ラージ、ミディアム、スモールなど）について最高 2 名、シェイパーを選出する。選出されたシェイパーは、各ジャンプとエアバンプの最終的な仕上げに責任を持つ。ワールドカップ以外の競技会では、チームキャプテンミーティングで、準備担当者を決定する。

3034.4.2 各シェイパーは、公式トレーニングの最低 1 日前に、業務を開始できるように準備しなければならない。

3034.5 テクニカルアドバイザー

ジュリーを補助するために、FIS は、テクニカルアドバイザーを競技会のすべてのカテゴリーに指名することができる。

テクニカルアドバイザーは、ジュリーとして意見を述べる権限はあるが、ジュリーとしての投票権は有しない。

3034.6 コースアドバイザー

ジュリーを補助するために、FIS は、コースアドバイザーを競技会のすべてのカテゴリーに指名することができる。

コースアドバイザーは、ジュリーとして意見を述べる権限はあるが、ジュリーとしての投票権は有しない。

3034.7 ビデオコントローラー

オーガナイザーが、公式ビデオコントロールのための機材設定を整えている場合、ジュリーは公式のビデオコントローラーを任命する。ビデオコントローラーの職務は、競技者のコースの通過状況を監視することである。スキークロス競技においては、ジュリーは、公式ビデオコントローラーの推薦に基づいて、失格や制裁について最終的に決定することができる。

3035 チームキャプテン

各国は、チームキャプテンを 1 名、責任を持って準備する。

チームキャプテンは、可能であれば、競技者であるべきではない。

チームキャプテンは、ジュリー、TD など、他の公式な組織的役職を引き受けることはできない。

3035.1 チームキャプテンの権利と責任

3035.1.1 競技会期中、ジュリーに抗議を提出できる。

- 3035.1.2 競技者に与えられた特典を受けることができる（リフト、宿泊、招宴）。
- 3035.1.3 トレーニング中、競技会場に入ることができる。
- 3035.1.4 すべての公式儀典に参加できる。
- 3035.1.5 各チームキャプテンは、1票の投票権を持つ。
- 3035.1.6 競技会期中、準備エリアに入ることができる。
- 3035.2 チームキャプテンの責任**
- 3035.2.1 すべてのチームキャプテンミーティングに出席する。
- 3035.2.2 会議の決定事項、資料を自分の選手団に連絡する。
- 3035.2.3 ジュリーの要請があれば、エアリアル競技者が演技することのできる技を連絡する。
- 3035.2.4 選手団の競技会への登録に責任を持つ。
- 3035.2.5 選手団の規律に責任を持つ。
- 3035.2.6 競技規則に精通していなければならない。
- 3035.2.7 モーグルコースのエアバンプ造成、エアリアルジャンプのシェイプについて助言、監督する代表を、チームキャプテンミーティングで選出する。
- 3036 選手団の医療・サービス担当者**
競技会場には以下の人数が入ることができる：
- 競技者3名までの選手団：トレーナー1名 医師1名 技術者1名
- 競技者4名-8名までの選手団：トレーナー2名 医師1名 技術者2名
- 競技者9名以上の選手団：トレーナー3名 医師2名 技術者3名
- 3037 競技者の用具**
競技用具と広告マーキングについては、競技者用品の規則参照。
- 3037.1 ビブ**
スタート番号の形やサイズを変更してはならない。これに違反した場合は、失格の制裁対象となる。トレーニング、競技会そして表彰式では常に、すべてのビブを適切な位置に着用しなければならない。
- 3037.2 広告**
競技、またはトレーニング中に使用するウェアや用具の広告は、206、207、222、およびFIS規則に一致していること。
- 3037.3 用具**

各種目の競技者用具の基本規則については、エアリアル 4008,2、モーグル 4206.1、デュアルモーグル 4306.1、スキークロス 4511、スキーハーフパイプ 4606 を参照。

詳しくは、FIS 用具規則セクション E 参照。

3041 競技設備

3041.1 通信／インターネット接続

すべての公認競技会では、出発とジャッジスタンドの間に直通の通信設備（電話や無線など）を設置しなければならない。さらに、スキークロス、モーグル、デュアルモーグル競技においては、フィニッシュへも直接の通信設備を設置しなければならない。オリンピック冬季競技大会は、有線の通信であること。ワールドカップ、世界選手権大会、オリンピック冬季競技大会においては、データサービスの領域では、インターネット（最低 ADSL のスピード）を用意する。

3041.2 計時装置

3041.2.1 電動計時

すべての公認競技会では、スタートとフィニッシュライン間は 100 分の 1 秒まで計時できる電気時計装置を使用しなければならない。1000 分の 1 秒まで計時、記録できる場合、競技者が同点の場合でも 1000 分の 1 秒のタイムを公表したり、タイブレイクに使用する必要はない。

3041.2.2 光電管の高さ

光電管は、スタートビームの高さ 1 m、もしくは出発ゲートの上約 0.5m に設置する。出発ゲートは、競技者が開かなければスタートできないように設置する。モーグルとデュアルモーグルのフィニッシュ地点の光電管は、1 m の高さ、（補助ビームは 0.75m の高さ）に設置する。

3041.2.3 メジャー大会の独立システム

世界選手権大会およびオリンピック冬季競技大会では、個別に作動する 2 組の電気時計装置を設置しなければならない。

3041.2.4 スキークロスのリアクションタイム

スキークロス競技の予選と決勝において、リアクションタイムを計測し、スタートに表示する。タイムは、スタートゲートが開いた時点からスタートゲートから 10m の地点までを計測する。リアクションタイムを計測し、100 分の 1 秒まで表示する。以上は、ワールドカップ、世界選手権大会、オリンピック冬季競技大会では必ず準備すること。

3041.2.5 デュアルモーグルの計時

デュアルモーグルでは、計時は競技者がフィニッシュラインを横切った時間差を基準にする。最初の競技者が、フィニッシュラインを横切ったときに計時をはじめ、次の競技者がフィニッシュラインを横切ったときに、計時機器が停止する。

3041.2.6 計時機器の承認

すべての計時機器は、FIS の承認を得なければならない

3041.3 手動計時

- 3041.3.1 手動計時によるバックアップシステム
モーグル、デュアルモーグル、スキークロスでは、電気計時の補助として、手動計時システムを活用しなければならない。すべての競技会において、スタートとフィニッシュにおいて、手動計時は電気計時から独立したシステムとして扱わなければならない。
- 3041.3.2 手動計時の計算
電気計時システムが正常に作動しなかった場合は、次の方法で公式手動タイムを計算する。タイムが測定できなかった競技者の前3人分の手動計時タイムと電気計時タイムの平均誤差を算出する。手動計測タイムが必要となる前に、3人分の電気計時によるタイムがなかった場合、電気計時ができなかった競技者にもっとも近い競技者のタイム3つを用いて算出する。
- 3041.4 放送-音響装置**
- 3041.4.1 フリースタイル競技会における音楽
すべての競技会で音楽を使用する。
- 3041.4.2 音響係長は、常に競技役員と無線で連絡をとるものとする。
- 3041.4.3 音響係長とDJは、競技会中に使用する音楽についての責任を持つ。
- 3041.4.4 モーグル、デュアルモーグル、およびハーフパイプ
モーグル、デュアルモーグル、ハーフパイプ競技会では、準備した音楽と、主催者が選択した音楽を使用する。音楽はアップビートでエネルギッシュであること。
- 3041.4.5 エアリアルとスキークロス
競技会中、準備した音楽を使用する。高揚するような多彩なバリエーションの音楽を推奨する。
- 3041.5 ジャッジスタンド**
ジャッジスタンドは最低幅10m、奥行き3mの大きさであること。ジャッジスタンドは、眺めがよく、必要な人数の役員を収容できる広さで、必要器材などを保管でき、快適に審判業務ができるように構築すること。設置に関しては、FIS・フリースタイル委員会の規則に基づき、天候に左右されないように内部を温かく保ち、近くにトイレ設備も完備すること。
- 3041.6 計時とデータ領域**
計時とデータ役員の領域は、最低3m×4mであること。机、いす、電源、暖房などを準備する。計時とデータの位置は、コース規格に基づいて設定する。設備は天候に左右されないように内部を温かく保ち、近くにトイレ設備も完備すること。
- 3041.7 掲示板**
公式掲示板は、各コース、適当な場所に設置する。
- 3042 出発**

- 3042.1 出発主任**
出発主任は、出発の予告と出発合図、および出発記録に全責任を持つ。競技者の監視は出発副主任が担当する。
- 3042.2 出発副主任**
出発副主任は、スタート点呼に責任を持つ。各スタート 10 分前に、競技者の名前を何回か呼ぶこと。
出発副主任は、競技者のビブ、服装、用具違反の有無について責任を持って確認する。
- 3042.3 計時主任**
計時主任は、責任を持って正確に計時する。即時の成績発表と記録の計算に備え、セクレタリーと計時計算係長にタイムを準備する。計時主任は、データの記録にも責任を持つ。フィニッシュエリアの配置と秩序、競技者がフィニッシュラインを確実に横切っているか、に責任を持つ。
- 3043 スタート**
- 3043.1 スタートエリアの準備**
スタートエリアは、競技者が安心して立つことができるように準備すること。
- 3043.1.2 エアリアルのスタートエリア**
エアリアルは、コース内、いずれの地点からでもスタートできるが、安全上設定するインランにおける出発点の最長を越えてはいけない。
- 3043.1.3 モーグル、スキークロスのスタートエリア**
モーグルとスキークロスの予選は、スタートライン下、約 1.5~2.0m に平行に光電管を設置した、オープンスタートが望ましい。スタートラインと光電管は、コントロールゲートと同じ幅になるように、コースの上部にセットする。スタートラインを引く。競技者は、そのラインの前にポールをつき、スタートの合図があるまでブーツをラインの後ろに維持する。スタート装置は、競技者が出発直後にフルスピードで、選択したラインに入れるような位置に設置する。
- 3043.1.4 スタート装置**
デュアルモーグルのスタート装置の定義については、4306.4.4 参照。スキークロスで使用するスタート装置については、4507.8 参照。スタート装置は、競技者が出発直後にフルスピードで、選択したラインに入れるような位置に設置する。
- 3043.2 スタートエリアとウォームアップテント**
スタートエリアは、スタートする競技者、トレーナー1名、そしてスタート係以外が入れないよう、閉鎖しなければならない。待機している競技者の面倒をみる、トレーナー、チームキャプテン、サービスマンなどのために、一般人が入ることのできない、特別区画を設定しなければならない。スタートエリアにはテント、または仮設小屋を設置しなければならない。気温がマイナス 10 度以下になることが予想される場合は、テントや仮設小屋の中にヒーターを設置すること。
- 3043.3 スタート手順**

スタートする競技者の背後には、スタートを有利にする、または妨げる可能性のある役員、または付き添いは立たないこと。第三者の助力は禁じられている。

3043.4 スタート合図

スタート合図は、各競技に方式に基づいて、スターターが行う。

3043.4.2 エアリアルのスタート合図

3043.4.2.1 競技者がスタート可能な風の状況（風速）である。

3043.4.2.2 計測器の設置は、TD が FS 技術規格と 3043.4.2.3 に基づき、管理する。

3043.4.2.3 風速と風向き

風の計測用具は、飛型軌道の高さで、コース横に設置する。データを記録する計器は、平均ではなく、各状況別に風速と風向きを表示するものであること。さらに、風向き用の旗を、ランディングの横とインランの最上部に設置する。

3043.4.2.4 スタート許可とスタートの3段階のスタート方法

オリンピック冬季競技大会、世界選手権大会、ワールドカップでは、連動するプログラムで作動する、3色（赤－黄－緑）の信号とデジタル表示で、スタート許可とスタート時間を決定する。

赤の段階（スタート準備）では、時計は作動せず、15秒と表示する。次の黄色の段階（5秒）で、時計が15秒からスタートし、10秒後に緑の段階へと変わる。

スタート時間は、15秒経過した時点で終了し、ディスプレイには、「0」と表示される。「0」となると、信号の色は自動的に赤に変わり、次の競技者のスタート手順が開始する。

3043.4.2.5 スタート順がコールされたら、競技者は責任を持ってスタート準備をはじめること。競技者はスタートの信号に従ってスタートしなければならない。スタート時間の終わりまでにスタートしなかった場合、自動的にコースクローズとなる。

3043.4.2.6 スタート手順進行中、自動カウントダウンのディスプレイ（プログラムできるデジタル時計など）で、競技者は時間を確認する機会がなければならない。

3043.4.2.7 競技者はスタート時間内にスタートしなければならない。何らかの理由でスタート信号が、スタート時間内に、たとえば不安定な気象状況など、妨害を受けた場合、スタートと手順をはじめから再開する。

3043.4.3 モーグルのスタート合図

3043.4.3.1 スタート係がスタート10秒前を競技者に伝え、スタート合図が開始する。

注意を促す「コンペティター・レディ! 3, 2, 1, ゴー!」と出発合図を与える。

3043.4.4 デュアルモーグルのスタート合図

3043.4.4.1 デュアルモーグルのスタート合図は、アナウンサーの通告「ブルーコース・レディ、レッドコース・レディ」で開始する。

スタート係、またはスタートゲートを開ける係は、アナウンス後約3秒以内に両方のゲートを同時に開ける。何らかの理由によってゲートが開かない場合、この手順をはじめからやり直す。

3043.4.4.2 競技者が何らかの理由でスタートできない場合、そのフェイズでペアになった対戦相手は、コースを滑らないものとする。

3043.4.5 スキークロスのスタート合図
「ウィー・アー・レディ・フォー・ネクストヒート、プロシード・トゥ・ザ・スタートゲート」
「エンター・ザ・スタートゲート」（スタート合図の30秒前）
「スキーヤーズ・レディ」「アテンション」のちにスタートによってスタートゲートが開かれる。

3043.5 計時システムの配置
モーグルとスキークロスの計時システムは、競技者が両膝下の脚で光電管を切った瞬間を計測するものとする。
デュアルモーグルでは、競技者がフィニッシュラインの光電管を切った瞬間を計測するものとする。

3043.6 スタートの遅延

3043.6.1 不可抗力
公式スタートリストに示された時間にスタート準備ができない競技者は、DNSとなる。ただし、出発主任が、不可抗力による理由で遅刻したと判断した場合、その遅刻を認めてよい。例えば、競技者個人の用具破損、または軽度の病気などは、不可抗力とは認められない。判断がつかない場合、出発主任は仮出走を許可してもよいが、ジュリーに報告すること。

3043.6.2 スタート順
遅刻し、スタート順に遅れた競技者は、準備ができ次第、出発主任は直ちに出走させ、その旨、ジュリー、審判団、レフリー、フィニッシュ役員、計測係長、アナウンサー、計時計算係長に連絡する。

3043.7 スタート順
スタート順は、競技前日のチームキャプテンミーティングで決定する。FIS フリースタイル競技会は、コンピュータによる無作為のドローを行うことができる。

3043.7.1 ドロー
競技会ごとに個別のスタート順となる。各競技会のスタート順は、個別のドローを行う。このドローは予選競技会で使用する。

3043.7.2 スタートグループ

3043.7.2.1 ハーフパイプとスロープスタイルのスタートグループ
予選において、競技者はワールドカップランキング（ワールドカップ競技）、または FIS ポイントリストに従ってヒートごとにシードされる。ワールドカップランキングで同位の場合、FIS ポイントで順位を決める。それでも、同位の場合、グループ位置はドローで決定する。そのほかの同位はドローによって順位を決める。

予選フェイズでひとつ、もしくはそれ以上の数のヒートがある場合もある。各ヒートは、基本的に最大、男子 30 名、女子 25 名までとする。

予選フェイズが 2 ヒートの場合、競技者はシード順により偶数と奇数で分けられる（ヒート 1 は奇数番号をシード、ヒート 2 は偶数番号をシード）。予選フェイズが 3 シードの場合、各 3 番目のシードの競技者をもうひとつのヒートに割り当てる（ヒート 1 は 1、4、7……；ヒート 2 は 2、5、8……；ヒート 3 は 3、6、9……）。ヒートが 3 つ以上予定される場合、同じ原理に従って割り当てる。

3043.7.3 スタート順の変更

チームキャプテンミーティング後、いかなるスタート順の変更または追加は、100 スイスフラン費用がかかる。交換と追加は、デュアルモーグルを除き、競技者に連絡したスタート予定時間の 1 時間前までに行うことができる。代理人への交代の場合、スタート順は、変更前の競技者のままとする。追加の場合、競技者は予選の最初のスタートとみなす。

3043.7.3.1 デュアルモーグルのスタートリストは、一旦ドロウした場合、変更、追加、また代理人への交代は認めないものとする。

3043.7.3.2 スタートリストの誤り

チームキャプテンの誤りにより、競技者のスタート順が不適當、またはスタートリストから名前がもれていた場合、以下の手続きにより、スタートリストに追加する。エアリアル、ハーフパイプとモーグルは、1 番スタートとする。デュアルモーグルはドロウ後の変更は認めない。スキークロスは、競技者は最後の順番に追加される。

組織委員会のミスによる場合、再ドロウする。チームキャプテンは、スタートリストが配布されてから 15 分以内に誤りを指摘しなければならない。15 分を経過した後はチームキャプテンの誤りとする。

3043.7.4 スタートリストの情報

スタートリストには、以下の資料を含むこと。

- 競技会の協賛団体名（スポンサー）
- 競技会の名称
- 競技会の開催地名
- コーデックス番号
- 競技会の開催日付
- 競技会の開催時間
- FIS 競技者登録番号
- 競技者の氏名、国名、生年月日、ビブ番
- スタート順
- ジュリーメンバー、および各審判員の氏名、国名
- コース係長の氏名、国名
- 基本コース仕様

3043.7.5 スタートリストは、すべての競技役員、コーチ、競技者、テレビなど報道関係者、および VIP に配布しなければならない。

3043.8 決勝進出

決勝進出人数は以下のとおり

競技会の種類	モーグル 女子／男子	デュアルモーグル 女子／男子	エアリアル 女子／男子	スキークロス 女子／男子	スキーHP/SS 女子／男子
オリンピック	20／20	—／—	12／12	16-32／16-32	—／—
世界選手権	16／16	8／8	12／12	16-32／16-32	12／12
ワールドカップ	12-16／12-16	8／8	10／10	16-32／16-32	6-12／6-12
コンチネンタル カップ	8-16／8-16	8-16／8-16	—／—	16-32／16-32	6-12／6-12

予選終了後、決勝進出者に同順位がある場合、3045.4.2 参照。

モーグル、エアリアル、ハーフパイプ、スロープスタイルは、最初の滑走、または決勝フェイズのスタート順は予選成績順位の、逆順とする。モーグルとエアリアルの2番目のフェイズのスタート順は、決勝の最初の滑走結果の順位の逆順となる場合もある。ハーフパイプとスキークロスの2番目のフェイズのスタート順は、最初の滑走と同じ順である。

3044 フィニッシュエリア

3044.1 エアリアル、ハーフパイプ、スロープスタイルのフィニッシュエリア

各競技のフィニッシュエリアは、競技者が安全に停止できるように、平らで十分な広さがなければならない。フェンスや囲いを設置しなければならない。

3044.2 モーグル、デュアルモーグルとスキークロスのフィニッシュエリア

モーグル、デュアルモーグルとスキークロスのフィニッシュエリアは、フィニッシュラインから最低30mとし、コースと同じ幅の整地であること。フィニッシュラインは、8mから10mの幅で設定する。光電管手前3mは整地し、競技者が光電管を飛び越えないようにする。

3044.3 フィニッシュエリアの区分け

フィニッシュエリアはフェンスで完全に囲み、許可された関係者以外は立ち入り禁止にしなければならない。競技を終了した競技者のためには、フィニッシュエリアとは別に場所を設ける。
この場所では、競技者と報道関係者（記者と映像・音声）がインタビューできるように配慮する。

3044.4 フィニッシュライン通過の決定

電動計時で、競技者が身体、または装具のいずれかの部分がゴールポスト間を横切り、光電管をさえぎった瞬間を計測する。
スキークロス 4505.6.1 を参照；
ハーフパイプとスロープスタイル 4611.1 を参照。

3044.5 電動計時の故障

3044.5.1 公式計時システムがすべて不良の場合、リランとなる。

3045 成績の集計と公表

3045.1 非公式スコア

記録計算係長がとりまとめたスコアと順位は、非公式スコアとみなす。非公式スコアはすみやかに、仮の順位であることを明確にして会場付近の観衆などへ周知アナウンスする。

3045.2 公式成績

3045.2.1 公式成績は失格しなかった競技者のスコアと順位で決定する。

3045.2.2 公式成績表には、以下の資料を含むこと：

- 競技会の協賛団体名（スポンサー）
- 競技会の名称
- 競技会の開催地名
- コーデックス番号
- 競技会の開催日付および時間
- ジュリーメンバー、および各審判員の氏名、国名
- コース係長の氏名、国名
- 基本コース仕様
- 競技会の主催団体／スキー連盟
- 競技者の氏名、国名、生年月日、ビブ番号、FIS ポイント
- FIS 競技者登録番号
- 計算が完了したスコア計算表（例：各審判員の得点、必要な場合 DD 値、競技者のスピード、スピードポイント、デュアルモーグル対戦表、スキークロスの対戦表）
- スキー連盟、および FIS の公認
- TD の署名

国名は FIS の 3 文字コードで表示すること。

公式成績は、計時計算係長および主審の調査を受け、双方の署名をもって公式とみなされる。

3045.2.3 成績は予選、決勝ともに公表しなければならない。

3045.2.4 競技が完全に終了する以前に、表彰式を行ってはならない。

3045.3 スコアの計算

3045.3.1 公表するすべてのスコアは、小数点第 3 位以下を切り捨て第 2 位までとし、スコアは 3 位以下を切り捨てた各点数を使い計算する。成績表には、モーグルのタイム、モーグルのスピード計算、モーグルスコアの平均、エアリアルの最終スコア、同点処理を含む。難度（DD）は、常に元の形で表示する（ジャッジマニュアル 6006 参照）。

3045.3.2 優勝者は決勝の合計スコア、または決勝ヒートのランキングで決定する。特定の競技形式は以下参照。スキークロス 4500、FIS・FS ジャッジングハンドブックのエアリアル 6000、モーグル 6200、デュアルモーグル 6300、ハーフパイプ 6400

3045.4 同点処理

3045.4.1 同点処理は、記録計算係長が担当する。同点の場合、各競技に示された同点処理の手続きに則って順位を決定する。ジャッジングハンドブック

6009,6204.6.3,6304.2.1.16304.2.1.2 およびICR4505.4.2,4505.6.1参照。
同点処理後、同位の場合、2名とも上の順位とし、次の順位を使用しない。

例：

13位 28. 6
14位 26. 0
14位 26. 0
16位 24. 2
17位 24. 0

3045.4.2 次のフェイズへ進む予選通過者の予選での結果が同点で、同点処理後も同位の場合、決勝のスタートは予選の逆順とする。予選通過の最終順位が同点で、同点処理後も同位の場合、同点の競技者がすべて決勝に進出する。

3046 年齢制限

3046.1 競技会と暦日

FIS 競技会に参加資格のための年齢は、参加競技会を含む FIS 競技会年の始まる年の1月1日から12月31日に達していること。FIS 競技会年は7月1日から翌年6月30日とする。

3046.2 ジュニア世界選手権大会

ジュニア世界選手権大会に参加するスキークロスの競技者は、競技会が予定されている FIS 競技会年に14から19歳になる者に制限する。ただし、ジュニア世界選手権大会に参加するスキークロスの競技者は例外で、16歳から20歳の誕生日が、参加競技会を含む FIS 競技会年の始まる年、または以前にある者に制限する。（以下の表参照）

3046.3 主要な大会

オリンピック冬季競技大会、世界選手権大会またはワールドカップ大会では、競技者は15歳、スキークロスの競技者は16歳の誕生日が、参加競技会を含む FIS 競技会年の始まる年、または以前にある者に制限する。

3046.4 その他国際大会の年齢

FIS 競技会への参加は、3046.2 と 3046.3 に該当する場合とチルドレン、ユース、またはジュニア競技会を除き14歳、スキークロスには16歳の誕生日が、参加競技会を含む FIS 競技会年の始まる年、または以前にある者に制限する。（以下の表参照）

3046.5 国際競技会の分類・区分

3046.5.1 モーグル、エアリアル、ハーフパイプ、スロープスタイルの承認誕生日

FIS 競技会年	14/15	15/16	16/17	17/18
チルドレン I	2003 2002	2004 2003	2005 2004	2006 2005
チルドレン II	2001 2000	2002 2001	2003 2002	2004 2003
ジュニア I	1999 1998	2000 1999	2001 2000	2002 2001

ジュニア II	1997 1996 1995**	1998 1997 1996**	1999 1998 1997**	2000 1999 1998**
資格者	2000 と以前	2001 と以前	2002 と以前	2003 と以前
ワールドカップ 世界選手権大会 オリンピック冬季競技大会	1999 と以前	2000 と以前	2001 と以前	2002 と以前

**は、ジュニア会選手権大会の最高年齢。

3046.5.2 スキークロスの承認誕生日

FIS 競技会年	14/15	15/16	16/17	17/18
U14(K1)	2002 2001	2003 2002	2004 2003	2005 2004
U16(K2)	2000 1999	2001 2000	2002 2003	2003 2004
U18(ジュニア I)	1998 1997	1999 1998	2000 1999	2001 2000
U21(ジュニア II)	1996 1995 1994**	1997 1996 1995**	1998 1997 1996**	1999 1998 1997**
資格者 (ワールドカッ プ、世界選手権大会、オリ ンピック冬季競技大会)	1998 と以前	1999 と以前	2000 と以前	2001 と以前

**は、ジュニア会選手権大会の最高年齢。

3050 抗議

3050.1 抗議手続の条件

以下の条件を備えた場合に限り、ジュリーは抗議を受理する。

- 書面による抗議書が3050.3に規定する制限時間内に提出された場合。
- 抗議理由書および50スイスフラン、もしくはそれと同額に相当する金額の他国の現金を、ジュリーに手渡され、その抗議が認められた場合、添付の現金は返却される。もし、却下された場合には、FISに納入される。

3050.2 抗議の検証

ジュリーは、早急に顔を合わせ、要請の緊急性を考慮して（例：リランの要請など）審議する。

ジュリーは、抗議の審査に際し、出発主任、その他関係役員、証人、競技者本人と、抗議を提出したチームキャプテンを召集する。さらに、ビデオテープ、フィルム、写真などの資料も検証する。最終判断はジュリーのみが判断する。同席していないメンバーを含む、すべてのジュリーメンバーのより多数の賛同を得なければならない。

可否同数の場合、ジュリー会議議長の投票で決定する。この決定は、会議後直ちに公式掲示板に、公示時間を添えて公示すること。ジュリー会議議長が会議を主宰する。

会議の議事録を作成し、会議の議長が署名しなければならない。

リランに関する抗議は、ジュリーが直ちに審議すること。

3050.3 抗議の種類

3050.3.1 出場資格に関する抗議

競技者の出場資格に関する抗議は、競技会のドロー開始に、公式掲示板に指示された場所へ、書面にて提出しなければならない。

3050.3.2 コースに関する抗議

コースに関する抗議は、最終の公式練習前に、余裕を持って書面にてコース係長、もしくはジュリーに提出しなければならない。

3050.3.3 競技会中の抗議

競技会中の他の競技者、または役員による行為に関する抗議は、競技者、またはチームキャプテンが、競技会のフェイズの最終滑走終了後 15 分以内にジュリーに提出しなくてはならない。

3050.3.4 失格に関する抗議

失格に対する抗議は、公式掲示板に指示された場所に、書面にて提出しなければならない。失格に関する抗議は失格決定の掲示後、1 時間以内に行わなければならない。

失格について明確でない場合、競技者には仮スタートを認める。

3050.3.5 計時に関する抗議

計時の誤りに関する抗議は、非公式成績発表後、1 時間以内に公式掲示板に指示された場所へ提出しなければならない。

3050.3.6 計算、記入の誤りに関する抗議

役員、または競技者の規則違反が原因ではなく、計算の誤りの場合、競技者の所属連盟を通し、競技会開催日から 1 か月以内に書留郵便で送付された場合、検討する。誤りが証明された場合、訂正した成績を発行し、新たに表彰する。

3050.3.7 リランに関する抗議

リランに関する抗議は、事態発覚後 15 分以内にジュリーに提出しなければならない。

3050.4 上訴

スキー連盟と協力してクラブ、連盟や団体が組織し、開催する競技会に参加した競技者は、ジュリーの判決に対して、団体が所属するスキー連盟宛に上訴することができる。さらに競技者は、ジュリーの決定に関して、所属連盟を経由し、FIS に上訴することができる (225 参照)。

3051 競技会の延期またはキャンセル

ジュリーは 1 種目、または全競技会を中止する権限を持つ。種目、または競技会の代替については、キャンセルの判断をした後、直ちにジュリーが判断しなければならない。競技会が実施できない場合、TD は FIS と相談の上、代替競技会の後日開催、またはキャンセルを決定する。

競技会のキャンセル、延期についていかなる理由の場合も、FIS 事務局、および参加予定のスキー連盟に、ファックスまたは E-mail で直ちに連絡しなければならない (214.3 参照)。延期の場合、新規の日程、場所を直ちに連絡しなけ

ればならない。新しくスケジュールされた競技会は、新規競技会とみなされる（例：エントリーの変更、新しいスタート順など）。

RD と TD は、安全確保上の理由（風、霧、雪崩、猛風雪など）で、競技種目の中断、キャンセルを決定できる。

代替競技会を開催する場合、大会日程が他の競技会実施を妨げることはないように配慮しなければならない。条件が非常に厳しい場合、公式トレーニングを設定した上で、予選を除外し、決勝のみ実施することもできる（3060.2.4 参照）。

3054 競技者の責任

3054.1 適正な傷害保険に加入すること（217.3、3062.2 参照）。

3054.2 すべての種目で、セイフティービンディングとストッパーを装置しなければならない。

3054.3 競技者は、規則、規程、審判の判断基準に責任を持って精通しなければならない。さらに、フリースタイルスキー特有の規則、200 番台規則にも精通していること。

3054.4 競技者は、表彰を受けることになっている表彰式には、正しくビブを着用のうえ、出席しなければならない。また、優勝者はメディアの行事に参加しなければならない。表彰式の開催時刻は、公式文書であらかじめ公表すること。競技会開催日以外に行う表彰式に、競技者の参加を強制しない。

3054.5 競技者、競技者の両親、または保護者は、宣誓書に署名し、競技会の実施に伴い競技者自身や所持品に損害、損傷が発生する可能性があることを承知し、競技役員、スキー連盟、クラブ、もしくは競技会を組織する主催者に対する訴訟権を放棄することに合意する場合のみ、競技会参加が認められる。

3054.6 すべての競技で、競技者はヘルメットを着用しなければならない。

3055 不出走 Did Not Start (DNS)

DNS は、各ラウンド、またはフェイズにおいてスタートリストに掲載されながら、スタートしない競技者に課せられる。

（3057.11、3043.6.1 参照）

3055.1 スタートリスト発行後、競技者が競技会でスタートしなかった場合、競技者はその競技会において順位はつかない。

3055.2 予選通過後、決勝で出走しない競技者は、決勝の成績を DNS とする。競技者は、そのフェイズにおいて DNF となった競技者と同位とする。

3055.3 エアリアルにおいて 1 本目を試技し、2 本目を試技しない場合、2 本目の演技を DNS とする。競技者は 1 本目の得点に基づいて順位を獲得する。

3055.4 デュアルモーグルにおいて、2 回戦以上のフェイズで出走しない場合、そのフェイズにおいて DNS となり、そのフェイズの敗者と同位となる。

3055.5 デュアルモーグルとスキークロスにおいて、競技者がスタート合図前にコースに入った場合、それぞれ 3043.4.4.1 と 4507.7 に準じ、DNS とみなす。

3055.6 スキークロスの競技者で、決勝のいずれのフェイズでもスタートしなかった (DNS) 場合、その決勝フェイズで最終順位となる。あるフェイズで 2 名またはそれ以上の競技者が DNS の場合、予選の成績に応じて順位を決定する。続くフェイズでスタートしないスキークロスの競技者は、そのフェイズの最終順位となる。

3056 失格 Disqualifications (DSQ)

競技者の責任 (3054)、およびすべてのスキー競技者のための競技者の義務と権利 (205) の条項に違反した場合、DSQ とする。DSQ に関する裁定は、すべてジュリーの責任とする。

DSQ は最終成績に表記するが、順位は得ない。

決勝フェイズで DSQ となった場合は、その大会において競技者は順位を得ない。成績表では、予選の各競技者を順次繰り上げる。

DSQ は以下の場合に適用する；

3056.1 虚偽の申告をし、競技会の参加申込みをした場合

3056.2 “不可抗力” (3043.6.1) による場合を除き、スタート手順に違反した場合

3056.3 3036、4008.2、4206.1、4306.1、4511 と FIS 用具規則セクション E に定める用具に関する規定に違反した場合

3056.4 スポーツマンらしくない行動をとった場合

3056.5 エアリアルで制限以上の技を試技した場合

3056.6 203、FIS ライセンス規定に適合しない場合

3056.7 競技者がコース閉鎖中にコース、ジャンプ台やトレインを改造、またはスキークロスで旗が振られているのに停止しない場合

3056.8 競技者が第三者から援助を受けた場合

3056.9 競技者がトレーニング、または競技会中にヘルメットを着用しない場合

3056.10 スキークロスで故意の接触をした場合 (4508 参照)

3057 リラン (再出走)

ジュリーは、理由を後ほど確認することを条件として、リランを認めることができる。

リランの競技者は、3057.11 に該当する場合を除き、出発主任がリランの連絡を受けた時点に出走する予定の競技者から 2 名後に出走することができる。

競技者がリラン申告する以前に失格していた場合、リランは無効とする。

競技者は、自分の演技が妨害された時点で、直ちにリランをジュリーに申告することができる。この場合、妨害があった地点から直ちにコースを出なければならない。リランを認めるのは以下のような場合：

- 3057.1 役員、または観客による妨害
- 3057.2 動物による妨害
- 3057.3 転倒などにより、他の競技者がコースを塞いだ場合
- 3057.4 転倒した競技者のポールなどの障害物がコース上にある場合
- 3057.5 応急手当を受けている競技者による妨害
- 3057.6 コース整備不良の場合
- 3057.7 その他、競技者がコントロール不能の事態のため、競技者が転倒、競技スピードの減速、回り道など、結果に多大な影響を受けた場合
- 3057.8 計時装置が完全に故障した場合（3044.5 参照）
- 3057.9 審判員が演技を見失った場合
- 3057.10 エアリアル種目でテイクオフ後、着地以前にスキーを外した場合、各フェイズで1回リランを認める。
- 3057.11 エアリアル種目で、競技者はスタートしてインランを滑り出してから停止し、ジャンプしない場合。ただし、各フェイズにおいて1回のみ再スタートを認める。審判員はジャンプの採点から0.5点減点する。競技者が2回以上飛ぶことを辞めた場合、そのジャンプにおいてDNSとする。
再スタートの試技は、（第1、または第2ジャンプ）各フェイズで、再スタートとなった競技者に続く3名の競技者がジャンプした後とする。そのフェイズで残りの競技者が3名未満の場合、再スタートの競技者は最後に演技すること。

3058 Did Not Finish (DNF)

予選フェイズでDNFの場合、成績表には順位はつかない。

DNFに関するすべての決定は、ジュリーの責任とする。

競技役員は下記に挙げるいかなる違反の場合、DNFを課してもよい。下記に挙げる項目以外の状況も起こりうる。

DNFは以下の場合に適用する：

- 3058.1 エアリアル種目着地前にスキーが外れ、そのフェイズで再スタートした試技で同様にスキーが外れた場合（3057.10 参照）
- 3058.2 モーグル、スキークロスで、ゲートラインまたはフィニッシュラインを横切らない場合。3種目共、規定のコースから出た場合。モーグル種目は、コントロールゲート、フィニッシュラインを通過しない場合。デュアルモーグルで左右コースの境界線を両脚が越えた場合。

スキークロスの予選において、選手がゲートを通しなかった場合（4501.2.5）、それ以上のゲートを通することはできず、コースを出なければならない。

スキークロスの決勝において、選手がゲートを通り抜けなかった場合、不通過のゲートの下からトラックに入ったり横切ったりしてはいけない。

- 3058.3 エアリアル種目で、スタート後、申告演技を高難度の技に変更した場合
- 3058.4 エアリアル種目で、申告技と違う技を行った場合 (4008.5)
- 3058.5 競技者が予選通過後、決勝でスタートしなかった場合の決勝成績。
- 3058.6 エアリアルで演技しなかった場合
- 3058.7 モーグル競技中に、スキーを片方、または両方はずした場合、また、10 秒以上停止した場合(4206.2.1)。

3059 ゲートラインの通過

- 3059.1 ゲートは 3059.2 に則り通過しなければならない。
- 3059.2 競技者のスキーの先端と両足が旗門線（通過ライン）を横切ったときに、旗門を通過したことになる。競技者が一方のスキーをはずしても、旗門をまたぐなどの違反をしていない場合、残りのスキーの先端と両足が旗門線（通過ライン）を通過すること。2つの旗門をセットする必要がある場合は、旗門線（通過ライン）は、2つのターニングポールを結ぶ、想像上の最短ラインである（アルペン661.4参照）。ターニングゲートのみをセットする場合はいつでも、旗門線（通過ライン）は、ターニングゲートのアウトサイドポールとターニングポールを結ぶラインを、コース内側方向に伸ばした延長線となる。
- 3059.3 **ゲート不通過後の対応条件**
競技者がゲート不通過した場合、競技者はそれ以降のゲートを通り抜けることはできない。
唯一の例外は、スキークロスの決勝フェイズにおいて、後続競技者の滑走を妨げない場合、または競技者に抜かれた場合、とする。

3060 競技会の手順

3060.1 競技会の定義

フリースタイルスキー競技会は以下の種目とする：

- エアリアル AE
- デュアルモーグル DM
- モーグル MO
- スキークロス SX
- ハーフパイプ HP
- スロープスタイル SS

フリースタイルスキー競技会は男女共に競技の機会を与えられなければならない

3060.2 競技会の手続き

すべての FIS 公認国際競技会 (3043.8) は一般的に下記の状況である：

- 3060.2.1 競技会形式
- 予選フェイズはひとつ、またはそれ以上のラウンド（すべての参加競技者が参加するラウンドで開始）
 - 決勝フェイズはひとつ、またはそれ以上のラウンド

3060.2.2 決勝時の逆順出走
 決勝の出走順は、予選成績順位下位の競技者から、または予選結果の順位を基本に分けたグループごとに出走する。予選の成績は、決勝の結果に持ち越さない。

- 3060.2.3 形式の選択
- ジュリーは、以下の条件の場合、決勝のみ開催してもよい：
 - 参加競技者が通常大会時の決勝進出人数の同数、またはそれ以下の場合
 - 悪天候、雪の状態が不良の場合
 - その他、競技会を短縮しなければならない条件がある場合

3060.2.4 競技会の中断
 競技会が中断した場合、状況が回復次第、競技会を再開する。競技が同日に終了する限り、中断以前の成績も継続して有効とする。もしくは、予選、または、決勝のあるフェイズもしくはラウンドが完了している場合を除き、中断前の成績をキャンセルする。その場合、決勝の終了していないフェイズのみ延期とし、その場合、同じ競技会場で完了しなければならない。決勝が完了できない場合、予選、または異なるファイナルのフェイズの結果を有効とする。

3060.2.5 FIS による大会日程の承認
 主催者が1日に2つ以上の競技会開催を希望する場合、FIS があらかじめ競技日程を承認しなくてはならない

3060.2.6 モーグル
 モーグル競技会では、参加競技者全員が最低1回滑走する。3043.8に基づき、予選を通過した女子、および男子が決勝に進出する。予選（Q）と決勝（F）フェイズには2回以上のラウンドがある場合もある。
 予選のラウンド1（Q1）の結果に基づき、決められた人数の競技者が直接決勝に進出する。さらに、予選2番目のラウンド（Q2）は最高20名の競技者をQ1の成績順に基づき選出する。Q2から決勝に進出する競技者数は、Q1と同数とする。
 決勝フェイズでは、大会のレベルに応じて、2つまたは3つのラウンドを設定することができる。予選フェイズのトップシードの競技者は決勝のラウンド1（F1）で競技する。ラウンド2（F2）へは、F1の成績上位者から、決められた人数が進出する。決勝でラウンド3が予定されている場合、F2の上位競技者がF3で競技する。もしくは、F2を最終ラウンドとする。競技会のレベルに応じて、各ラウンドで競技する競技者数を以下のとおりに定義する。

		Q1	Q2	F1	F2
ワールドカップ	女子	N	20	12-16	6
	男子	N	20	12-16	6
世界選手権大会	女子	N	20	18	6

	男子	N	20	18	6	
		Q1	Q2	F1	F2	F3
オリンピック	女子	N	20	20	12	6
冬季競技会	男子	N	20	20	12	6

3060.2.7 デュアルモーグル

デュアルモーグル種目は、最初からデュアル形式で行う方法と、予選をシングルモーグル形式で、決勝をデュアル形式で行う方法がある。決勝では、各フェイズの勝者が次のフェイズに進出する。1位を賭け、最終的に勝ち残った2名が対戦する。

3060.2.8 エアリアル

エアリアル種目は、運用してもよいいくつかの形式がある。決勝には、標準形式、ショート形式または選手権形式がある。決勝形式には、決勝フェイズに関して2つの方法がある。

すべての形式において、最初のフェイズのためのスタートリストのスタート順は無作為のドローで決定する。

すべての形式において、競技会の成績が成立するためには、少なくとも1つのフェイズは競技されなければならない。

2番目以降のフェイズのスタート順は、1番目のフェイズの成績の逆順としてもよい。

あるフェイズが完了しない場合、完了した直近のフェイズの成績を有効とする。

3060.2.8.1 決勝形式

決勝形式では、すべての競技者はひとつ、もしくはそれ以上のラウンドで構成される予選フェイズで競技するものとする。決勝フェイズには選択が2つある。ひとつ目は、予選フェイズ終了後、上位各12名の女子と男子競技者が決勝フェイズに進出する。決勝の競技者は、決勝で1回試技し、その成績を最初のフェイズの成績に加算すること。残りの競技者は、予選の成績に応じて順位を得る。決勝フェイズのスタート順番は、予選フェイズの成績順の逆順とする。ふたつ目は、予選から競技者8名を決勝に選出する。この場合、決勝はいくつかの予選ヒート、準決勝フェイズと決勝フェイズで構成する。

各フェイズは、2名の競技者を一組とするいくつかのヒートで構成される。決勝フェイズのスタート順は、予選の結果と各ヒートの結果に基づく。各ヒートの勝者は次のフェイズに進出し、最終的に決勝ヒートで勝者が決定する。

各ヒートでは、より高い得点を得た競技者が次のフェイズに進出し、対戦表に基づき別のヒートの勝者と対戦する。

3060.2.8.2 標準形式

スタンダード形式では、次のラウンドやフェイズに進出する競技者の人数は、徐々に少なくなる。2番目のフェイズが完了しない場合、1番目のフェイズの成績を有効とする。

予選 (Q) 決勝 (F) フェイズには、にはふたつ以上のラウンドがある場合もある。

予選のラウンド1 (Q1) の結果に基づき、決められた人数の競技者が直接決勝に進出する。さらに、予選2番目のラウンド (Q2) は最高12名の競技者をQ1の成績順に基づき選出する。Q2から決勝に進出する競技者数は、Q1と同数とする。

決勝フェイズでは、大会のレベルに応じて、2つまたは3つのラウンドを設定することができる。予選フェイズのトップシードの競技者は決勝のラウンド1（F1）で競技する。ラウンド2（F2）へは、F1の成績上位者から、決められた人数が進出する。決勝でラウンド3が予定されている場合、F2の上位競技者がF3で競技する。もしくは、F2を最終ラウンドとする。競技会のレベルに応じて、各ラウンドで競技する競技者数を以下のとおりに定義する。

		Q1	Q2	F1	F2	F3
ワールドカップ	女子	N	12	12	4	
	男子	N	12	12	4	
世界選手権大会	女子	N	12	12	9	6
	男子	N	12	12	9	6
オリンピック 冬季競技会	女子	N	12+N	12	9	6
	男子	N	12+N	12	9	6

3060.2.8.3 ショート形式

ショート形式では予選フェイズは行わず、各競技者は決勝で2回ジャンプを行う。2回のジャンプの結果の合計を競技者の成績とする。この形式はワールドカップやその他の主要大会では運用しない。ショート形式では競技者が初回のジャンプ以降競技を続けない場合は、初回の成績を最終成績として採用すること。

3060.2.8.4 選手権形式－主要大会

選手権形式では、すべての競技者は、ひとつ、またはふたつのラウンドで構成される予選フェイズを競技するものとする。3043.8に基づいて、予選を通過した競技者が決勝に進出する。決勝進出者はそれぞれ、2つもしくはそれ以上のラウンドを決勝で戦う。決勝のスタート順番は、予選フェイズの成績順の逆順とする。残りの競技者は、予選の成績に応じて順位を得る。

3060.2.8.5 主要大会の形式

世界選手権大会、オリンピック冬季競技大会では、選手権形式を採用するものとする。
選手権形式の予選と決勝、またはふたつの異なる標準形式、または決勝大会で、2日間以上の大会とする（例：予選を1日、決勝は別の日に）。

3060.2.9 ハーフパイプとスロープスタイル

ハーフパイプとスロープスタイルの競技会は、予選と決勝で構成され、準決勝を行う場合と行わない場合がある。ジュリーが、競技者の参加人数とスケジュールに基づいて形式を決定することができる。形式は事前に決定し、最初のチームキャプテンミーティングで発表しなければならない。

予選フェイズは滑走が2回あること。；2回の滑走のうちよりよい得点の滑走成績を予選の成績とする。決勝は、男子16名女子6名とする。準決勝が行われない場合、各ヒートの上位者から同数の競技者が決勝に進出する。

- 3060.2.9.1 ハーフパイプとスロープスタイルでは、決勝は滑走が2回又は3回あること。最終滑走のスタート順番は予選順位の逆順とする。
- 3060.2.9.2 準決勝の大会形式
2 ヒート形式：上位3名の男子と上位2名の女子が、各ヒートから直接決勝（男子6名、女子4名）に進出する。各ヒートから、続く順位の男子6名、女子3名が準決勝（男子12名、女子6名）に進出する。
3 ヒート形式：上位2名の男子と上位1名の女子が、各ヒートから直接決勝（男子6名、女子3名）に進出する。各ヒートから、続く順位の男子4名、女子2名が準決勝（男子12名、女子6名）に進出する。
準決勝は滑走が2回あること。；2回の滑走のうちよりよい得点の滑走成績を予選の成績とする。上位6名の男子が決勝に進出するものとする。2ヒート形式の場合、上位2名の女子が決勝に進出する。；3ヒート形式の場合、上位3名の女子が決勝に進出する。決勝は滑走が2回あること。；2回の滑走のうちよりよい得点の滑走成績を予選の成績とする。スタート順番は3060.2.2.1 参照

3061 事故

- 3061.1 FISと競技会開催国の主催者は、競技者のけが、損害に対して責任はないものとする。
- 3061.2 TDは、けが、事故の詳細な報告書をFISフリースタイル委員会に送付すること（3030.7参照）。

3062 保険

- 3062.1 主催国
FIS公認競技会的主催国は、競技会運営に対し包括賠償責任保険を付保する。212.1、212.3参照。
- 3062.2 参加競技者
公式トレーニング、および競技会中の事故、および医療に関しては、追加で付保することが望ましいが、これらは個人の責任において行う。

3065 運営会議

- 3065.1 チームキャプテンミーティング
216に則り、チームキャプテンミーティングを開催する。チームキャプテンミーティングの目的は、競技会運営に関する詳細な連絡、スタート順を決定するビブドロー、競技者の資格やライセンス、その他運営上必要な問題について、連絡、質疑応答である。
会議内容を競技者に伝達するのは、各チームキャプテンの責任である。チームキャプテンミーティングには、レースディレクター、主審、TD、競技委員長、コース係長、その他主要競技役員が出席すること。会議は競技委員長が議事進行する。
- 3065.2 組織委員会会議

FIS 公認競技会において、競技会開会前に数回、および可能な場合会期中に組織委員会を開催すること。会議は、必要に応じ、競技委員長が召集し、責任を持って関係者に召集を通達する。

会議結果、内容は、会議参加、不参加にかかわらず、主要関係者にすべて書面にて報告する。情報伝達については、競技委員長が責任を持つ。

3065.3 ジャッジミーティング

競技会の主審は、競技会開会前日までに、ジャッジミーティングを開催する。少なくとも、最初の競技日の1日前に開催することを強く推薦する。主審がジャッジミーティングの開催に責任を持つ。

3065.4 ジュリー会議

競技会のジュリーは、第1回チームキャプテンミーティング以前に、最低1回、会議を行うこと。公式コースの視察を兼ね、公式トレーニング以前にも1回顔を合わせることを。ジュリーの長は、ジュリー会議の議長を務める。

4000 エアリアル

4001 定義

エアリアル競技は、異なる種類のアクロバティックなジャンプを演技し、演技では特に踏み切り、高さや距離（エア）、適切な姿勢、演技の完成度と正確さ（フォームとランディング）を重視する競技である。特別な競技進行に関しては、3060.2を参照。

4002 エアリアル会場

4002.1 女子および男子・エアリアル会場共通規定

4002.1.1 FIS カレンダー管轄の世界選手権大会、オリンピック冬季競技大会、および国際競技会のためのエアリアル会場は FIS の承認が必要である。

4002.1.2 エアリアル会場の一般的特徴

エアリアル会場は、FIS フリースタイルコース規格規定の条件に基づき造成すること。コースは、見通しがよく、危険がないよう適切に設定すること。コースの角度は、パーセントの代わりに度数で表記する。

4002.1.3 エアリアル会場のレイアウト

4002.1.3.1 エアリアル会場の造成

会場は、雪のないオフシーズン期に土地を造成すること。実施が不可能な場合、状況が適切な自然の場所を選定する。適切な競技会場を確保するために、会場の造成は競技会開催日の最低3週間前までに完了すること。

インランとテイクオフの部分は、雪と人工芝などを併用することができる。

エアリアルランプ置の基準

要素	長さ (m)	幅 (m)	角度 (度)
インラン	70	14	25
テーブル	21	14	0
ランディング	25	18	38
アウトラン	25	22	0

4002.1.3.2 エアリアル会場の位置

エアリアル会場の設営場所は、観客のアクセスに便利な施設やサービスが近く、可能であれば人工降雪機が会場に設置されているところがふさわしい。

4002.1.3.3 スタートとフィニッシュエリア

エアリアル会場には、競技者の不利益となりうる障害や障害物を排除すること。スタートおよびフィニッシュエリアは、競技者のために、スペースに余裕を持って設置すること。

- 4002.1.3.4 エアリアル会場のリフト
エアリアル会場は、少なくとも1時間あたり150人以上輸送できる輸送システムを備えていること。輸送システムはフィニッシュエリアからノールまでの最低短距離をカバーしなくてはならない。1回の行程にかかる時間は10分以内であること。
- 4002.1.3.5 スピード計測計
エアリアル会場には、スピード計測計を設置しなくてはならない。スピード計測計の表示板は、ジャッジスタンドの上、テーブルエリアのすべての位置から目視できる場所に設置し、表示は時速をキロメートル表示しなくてはならない。計測は、インランとテーブルのトランジッションの間で、FIS・F Sコース規格に基づいていなければならない。
- 4002.1.3.6 インランマーカー
インランの横には、トランジッションの20m手前で終わるように、2m毎に20個のマーカーを一直線上に設ける必要がある。
- 4002.1.3.7 風向計
エアリアル会場には、風向計をスタートに1か所、ノールに2か所、計3か所に設置すること。ノールの風向計はジャッジスタンドの前面上部と、ジャッジスタンドの反対側のノールに設置する。素材は明るい色づかいのプラスチック製品で、長さ1m、幅5cm程度のものが望ましい。
- 4002.1.3.8 風速計
エアリアル会場には風速計を設置しなくてはならない。表示はメートル毎秒(m/秒)とする。計測はノール、インラン、そしてフィニッシュエリアで行う。
- 4002.1.3.9 掲示板
掲示板は、エアリアルのジャッジスタンドに設置しなければならない。仮発表のリザルトは、競技進行に則り最新版を掲載する。
- 4002.1.4 エアリアル会場の準備とインスペクション
- 4002.1.4.1 エアリアル会場は、競技会開催日の最低3日前までに準備を完了し、公式トレーニングができるようにしなければならない。
- 4002.1.4.2 公式トレーニング初日のトレーニング開始前に、競技者とジュリーは、コースをインスペクションしなければならない。インスペクションの時間はジュリーが決定する。
- 4002.1.4.3 インスペクション終了後、TDとジュリーメンバーは、アウトラン付近において、競技者とトレーナーからエアリアル会場に関しての要望や提案を聞くこと。
- 4002.1.4.4 フローターが必要な場合、各国スキー連盟は、開催地組織委員会宛に競技会開催の遅くとも2週間前までに、フローターを造るための要望書を送付しなければならない。要望がない場合FIS・FSコース規格規程に基づき、エアリアルサイトを造成する。
- 4002.1.5 公式トレーニング

- 4002.1.5.1 エアリアル競技の公式トレーニングは、エアリアル競技会の一部である。競技者は、参加が義務づけられている。
- 4002.1.5.2 公式トレーニングは、連続しなくてもよいが、競技開催前最低3日おこなうこと。
- 4002.1.5.3 公式トレーニングは、最低1日（実際のジャンプ時間は2時間）は必要である。
- 4002.1.5.4 公式トレーニング開催時、施設の準備をすべて整えた上で、適切な医療体制も確保すること。
- 4002.1.5.5 ビブを着用しない競技者は、公式トレーニングに参加できない。ビブは、目にとまりやすいものであること。
- 4002.1.5.6 エアリアル競技会当日は、競技開始前2時間の公式トレーニングを行う。状況によりジュリーは、時間を1時間に短縮してもよい。

4003 採点

エアリアル種目では、分割採点方式で採点する。FIS フリースタイルジャッジングハンドブック 6003 採点方式参照のこと。
以下の3つの基礎要素を採点する。

- 4003.1 エア；スコアの20%
FIS フリースタイルジャッジングハンドブック 6004.1 参照。
- 4003.2 フォーム；スコアの50%
FIS フリースタイルジャッジングハンドブック 6004.2 参照。
- 4003.3 ランディング；スコアの30%
FIS フリースタイルジャッジングハンドブック 6004.3 参照。

4004 採点方式

採点基準は FIS フリースタイルジャッジングハンドブック 6003 参照のこと。

FIS フリースタイルジャッジングハンドブック 6004 に定めた評価基準に則り、競技者の演技を審判員が採点する。審判員が採点したスコアに、該当する技術難度点（DD）を掛け合わせ、各演技のトータルスコアとする。競技者の2回の演技の最終スコアは、2回の演技のトータルスコアを合算して算出する。スコアの計算は 3045.3 参照。

4005 技術難度計算方法と技術難度表

FIS フリースタイルジャッジングハンドブック 6006 参照のこと。

4006 競技会における新しい技

4006.1 新技の承認

エアリアル競技で新技、追加技、または部分変更に関しては、文書にて技の名称と十分な説明を、FIS フリースタイル委員会に提出すること。新技の認定と適切な難度点を、FIS フリースタイル委員会が最終決定する。

4006.2 制限

4006.2.1 競技会では、回転技は3回転を限度とする。

4006.2.2 アップライト技は、最高5技までの組み合わせを限度とする。

4007 適正と年齢制限

4007.1 技術の適正

公認競技会を開催する各国スキー連盟（NSA）は、技術の伴わないエアリアル演技の試技競技者に認めないこと。FIS・FS委員会の権限を有するFIS代表が認定した競技者は、この限りでない。

4007.3 演技の適正

国際競技会でエアリアル演技を演技する資格を証明するために、競技者は自身の所属国スキー連盟が発行する、演技の認定の有無を明記した有効なライセンスを、所持しなければならない。ライセンスはエアリアル競技会当日を除き、シーズン中、最新の認定された演技に更新される。各国スキー連盟は、エアリアル競技会ごとに、そして競技会開催前に、英語で表記した競技者の取得した認定済演技一覧表を、FIS代表に提出する責任を持つ。

4007.4 資格取消

所属国スキー連盟が認定したエアリアル技を、適切に演技できないとジュリーが判断した場合、その資格を中断、もしくは取り消すこともある。このような裁定により、該当スキー連盟に対し、懲戒、制裁等の措置が与えられることもある。

4008 エアリアル競技における特別な手続き

4008.1 公式トレーニング時間

エアリアルコースは、競技会開始の最低24時間前までに、競技会ができるよう、準備がすべて完了していること。すべての競技者がコースで練習できるものとする。競技会当日は、最低2時間のトレーニング時間を設定すること。それ以上の練習時間は、ジュリーの責任において時間の余裕をみながら、準備することとする。

4008.2 用具

4008.2.1 競技者はエアリアル競技会において、練習、競技会共にジャンプする時は必ずヘルメットを着用しなければならない。

4008.2.2 ビンディングは、DIN仕様書に則った開放システムでなければならない。

4008.3 スキーを外した場合

3057.10、および3058.1参照。着地時、および着地後にスキーを外した場合、審判員は採点基準に基づいて採点する。

4008.5 異なった技の定義

競技者は、ひとつのフェイズにおいて、同じエアリアルな技を繰り返さないこと。異なった技の定義は以下のとおり：

- 4008.5.1 アップライト技の場合、演技回数の違い、または演技された技の種類の違い。
- 4008.5.2 アップライトローテーション技の場合、回転数の違い。
- 4008.5.3 インバーテッド・フリップ（縦回転＝前方後方回転＝宙返り）技：
 - 4008.5.3.1 フロント（前方回転）とバック（後方回転）の違い。またはその反対。
 - 4008.5.3.2 または、縦回転数（宙返り回転数）の違い。
 - 4008.5.3.3 または、縦回転数（宙返り回転数）が同じ場合の、捻り回数の違い。
 - 4008.5.3.4 または、縦回転（宙返り回転数）と捻りの数がそれぞれ同数の技の場合、いずれかの回転において1回以上捻り数が違うこと。
 - 4008.5.3.5 または、以下に挙げる組み合わせ例の場合：バックレイアウト（bL）とバックタック（bT）またはバックパイク（bP）、バックレイレイ（bLL）とバックレイタック（bLT）またはバックレイパイク（bLP）。
- 4008.6 **スタート手順**
スタート拒否は、失敗として扱う。3057. 11 参照。

4009 ノックアウトフォーマット

- 4009.1 女子と男子間のフェイズの順番
男子のラウンドと女子のラウンドは、交互に進行する。
次の男子のフェイズ、もしくは女子のフェイズに進むためには、その前の男子のフェイズ、もしくは女子のフェイズを完全に終了しなければならない。
フェイズの順番は次のとおり：
女子のフェイズ8、引き続き男子のフェイズ8
女子のフェイズ4、引き続き男子のフェイズ4
女子と男子のスモールファイナル
女子と男子のビッグファイナル
- 4009.2 **決勝ラウンドでのフェイズの組み合わせとヒート**
フェイズ1（準々決勝）では演技は8回、4組で4ヒート行う。
ヒート1は、7位と2位の対戦
ヒート2は、6位と3位の対戦
ヒート3は、5位と4位の対戦
ヒート4は、8位と1位の対戦
- 4009.3 **準決勝フェイズの組み合わせとヒート**
フェイズ2（準決勝）では、演技は4回、2組が2ヒート行う。
ヒート5は、ヒート1と2の勝者による準決勝。
ヒート6は、ヒート3と4の勝者による準決勝。
- 4009.4 **スモールファイナルとビッグファイナルの組み合わせとヒート**

フェイズ3（スモールファイナルとビッグファイナル）では、演技は4回、2組が2ヒート行う。

ヒート7は、スモールファイナル。3位と4位を決定する（ヒート5の敗者とヒート6の敗者が対戦）。

ヒート8は、ビッグファイナル。1位と2位を決定する（ヒート5の勝者とヒート6の勝者が対戦）。

4009.5 最終順位

4009.5.1 敗退した競技者の順位

各フェイズで敗退した競技者の順位（5位から8位の順位）は、各フェイズとヒートのスコアに従い決定する。

最高スコアを獲得した競技者が、そのフェイズでの最高位である5位に、2番目に高いスコアを獲得した競技者が6位、3番目に高いスコアを獲得した競技者が7位、そして4番目に高いスコアを獲得した競技者が8位となる。

4009.5.2 準決勝と決勝の順位の設定

各準決勝のヒートで最高スコアを獲得した競技者が、1位と2位を決定する決勝フェイズに進出する。各準決勝のヒートで負けた競技者は、3位と4位を決定するスモールファイナルへと進む。

4009.6 特別手順

4009.6.1 順位の低い競技者が先に演技する

2名の競技者のうち、順位の低い競技者が、各ヒートで先に演技すること。

準決勝においては、ひとつ前のフェイズ（準々決勝）の得点を比較し、より低いスコアを獲得した競技者が先に演技すること。

決勝においては、ひとつ前のフェイズ（準決勝）の得点を比較し、より低いスコアを獲得した競技者が先に演技すること。

4009.6.2 ジャンプの制限

いずれの競技者も同じ技を2回繰り返さないこと。決勝フェイズでは、前のラウンドの技を演技することができる。

4009.6.3 あるフェイズで演技しない競技者

ヒートにおいて演技を行わない競技者は、その前のフェイズの演技で獲得したスコアに基づいて順位が決定される。

対戦相手はそのヒートにおいて演技する必要はなく、次のフェイズに進出する。

4100 スロープスタイル

4101 スロープスタイルのコース

競技会はヒット、ジャンプ、レール、テーブル、ビッグエアなど多彩なフィチャーを配置し、競技者が選べるように2ライン以上設定すべきである。

4102 テクニカルデータ

コード	スロープスタイルの基準		測定値
VD(m)	標高差		
	レベル A	レベル B	レベル C
I(°)	最低 150m	最低 80m	最低 50m
	斜度、平均		12°又はそれ以上
SW(m)	斜面の幅		30m
TF(n°)	フィチャーの種類、すべてのレベル		最低 2 種類
SC(n°)	セクション、1つ又はそれ以上のフィチャーをスロープの同じ場所に設置する。そのうち1つのフィチャーの演技を審判評価の対象とする。		最低
JP(n°)	レベル A	レベル B	レベル C
	6	4	3
	ジャンプセクションの最低数		
	レベル A	レベル B	レベル C
	3	2	1
	スタート基準		
SA(m)	スタートエリア		長さ 10m
			幅 30m
DW(m)	ドロップインのランプ幅		12m±4m
DL(m)	ドロップインのランプ長		最低 6 m
	フィニッシュ基準		
FA(m)	フィニッシュエリアの長さは設計と最後のフィチャーのスピードに関係する。		
FW(m)	フィニッシュエリアの幅		最低 30m
	競技会レベル		
	レベル A	レベル B	レベル C
	オリンピック、世界選手権、世界ジュニア選手権、ワールドカップ	ユースオリンピック、コンチネンタルカップ、ユニバーシアード	各国選手権大会、FIS レース、ジュニアレース

4102.1 コースの一般的な特徴

コースの平均斜度は約 12°であること。著しい斜度の変化がなく、一定の傾きでなくてはならない。

スロープスタイルのコースは、幅が最低 30m でなければならない。コースの高低差は、最低 100m、最高 200m でなければならない。

4102.2 スロープスタイルコースの概要

スロープスタイルのコースには、変化に富んだフィーチャー（テーブルトップジャンプ、ファンボックス、クォーターパイプ、ウェーブ／ジャンプ、レールヤリッジ、又はその他の種類のフィーチャー）を設置するものとする。コースには異なるセクションを設け、スロープの同じ場所に1つまたはそれ以上のヒットを設置する。審判はそのうち1つのヒットで演技される技を評価する。コースは下記に定める競技会レベルに応じて、採点対象となる最低2つ異なる種類のフィーチャーと最定数のジャンプと採点されるヒットを設置すること。

競技会レベルにおける採点対象となるセクションとヒットの最低設置数。

Aレベル ジャンプ3/ヒット6

Bレベル ジャンプ2/ヒット4

Cレベル ジャンプ1/ヒット3

フィーチャーの間の距離は、滑らかなトランジションでスムーズに演技ができるように設定する。コースは、滑走時間が最短でも20秒かかるようなコースを設計すること。フィーチャーやコース全体は、男女双方の競技者が演技できるように設計すること。

理想的なスロープスタイルのコースは、フィーチャーの多彩な組み合わせにより、バラエティ豊かでしかもバランスがとれており、高い技術難度が求められるコースであること。

4102.3 スタートとフィニッシュエリア

スタートエリアは、競技者が競技の準備をできるように、そしてコーチ、競技役員、メディア関係者が作業できるように十分幅広く、平らでなくてはならない。フィニッシュエリアは、競技者が演技を安全に停止できるように、十分な広さがなくてはならない。コース全体が、ジャッジをするフィニッシュエリアから見渡せること。

4102.4 例外

屋内、又は都市で開催される大会（インドアスタイル又はインシティースタイル）の場合、例外を許可する。

4102.5 安全対策

他のフィーチャーを造成してもよいが、安全を常に第一義に考慮すべきである。

4200 モーグル

4201 定義

モーグル競技は、特にターン技術、スピード、エア演技を重視しながら険しく急なコブ斜面を一回滑走し、そのスキー技術を競う競技である。競技の運営詳細は、3060.2 参照。

4202 モーグルコース

4002.1 女子および男子・モーグルコース共通規定

4202.1.1 モーグルコースの承認

FIS カレンダー管轄の世界選手権大会、オリンピック冬季競技大会、および国際競技会のためのモーグルコースは、FIS の承認が必要である。

4202.1.2 モーグルコースの一般的な特徴

モーグルコースは、競技に適した一定の勾配とフォールラインがあり、均等にコブがあり、十分に積雪があり、障害物のない斜面である。FIS フリースタイル競技コース規格の規格に基づき造成すること。

4202.1.3 モーグル会場のレイアウト

4202.1.3.1 モーグルコース

モーグルコースには途切れなく続く一本のフォールラインがあり、斜面の勾配が一定であること。

斜面は極端な凸凹や、極端な斜度変化がないこと。

コースには可能な限り均等にコブを配し、固く、鋭いコブはならし、深い溝、雪上車のわだちの跡や、氷など障害となりうるものはすべて除去すること。競技者が極端に飛びすぎてしまうようなコブは、修正すること。エアバンプは、モーグルのコース規格に基づいて設置すること。

4202.1.3.2 エアバンプの基準と仕様

名称間の距離	長さ
-最後のコブからテイクオフまで	4.0m-5.0m
エアバンプのテイクオフからランディングの最後まで	15.0m
ジャンプの高さ	50-60cm
ランディングの角度	26°以上
テイクオフの角度	26°から 30°
エアバンプの幅	130cm±10cm

4202.1.3.3 コントロールゲート

コース内9か所にコントロールゲート（幅の最高 75 c m、高さ 1.2mの大きさの旗で、境界を示す）を均等な間隔で、そして、滑走コース幅が8~12メートルになるように設置すること。左右のコントロールゲート間の幅に、旗の幅は含まない。

4202.1.4 モーグル会場の準備とインスペクション

- 4202.1.4.1 モーグル会場は、競技会までに準備を完了し、公式トレーニングができるようにしなければならない。コースに雪が少ない場合、組織委員会はコースをカバーするために必要十分な雪を、コース内に搬入しておかなくてはならない。コースがモーグル競技を成立させるための最低条件を満たしていない場合、ジュリーは競技会を延期、またはキャンセルすることができる。
- 4202.1.4.2 公式トレーニング初日トレーニング開始前に、競技者とジュリーは、コースをインスペクションしなければならない。インスペクションの時間はジュリーが決定する。
- 4202.1.4.3 コブの造成に機械を活用してもよい。コースは各ラインが均等になるように、コブの数や大きさには、細心の注意を払わなくてはならない
- 4202.1.4.4 インスペクション終了後ただちに、TD と他のジュリーメンバーは、会場内において競技者とトレーナーから、要望や提案を聞くこと。
- 4202.1.4.5 コースが十分に明るくない場合、組織委員会はコブにカラーパウダーを撒く、または松葉等を散らすなどして、問題改善を図ってもよい。
- 4202.1.4.6 コブをエアバンプとして成型してもよい（4202.1.3.2、3035.2.7 参照）。エアバンプの位置はコースの上部と下部とし、各ライン、ほぼ同位置であること。上部のエアバンプのテイクオフは、コース全長の 15%の位置に、また下部のエアバンプのテイクオフは、フィニッシュラインから計測してコース全長の 20%の位置に設置すること。
- 4202.1.4.7 コース係長に属するコース係員以外は、ジュリーメンバーの要請がない限り、コースの形状を変えるような行動を起こしてはならない。これは競技会中いずれの場合においても適応するが、とくにコースを公式にインスペクションする場合に注意すること。

4202.1.5 公式トレーニング

- 4202.1.5.1 モーグル競技の公式トレーニングは、モーグル競技の一部である。競技者は、参加が義務づけられている。
- 4202.1.5.2 公式トレーニングは連続しなくてもよいが、競技開催前、最低 3 日間行うべきである。
- 4202.1.5.3 十分な公式トレーニングが 1～2 日間行なえると判断した場合、ジュリーは、トレーニング期間を短縮してもよい。
- 4202.1.5.4 公式トレーニング開催時、すべての施設の準備を整え、適切な医療業務も確保すること。
- 4202.1.5.5 ビブを着用しない競技者は、公式トレーニングに参加できない。
- 4202.1.5.6 モーグル競技会当日は、競技開始前最低 30 分間の公式トレーニングを行う。公式トレーニングは、トレーニングに先立ちコースインスペクションを行い、その後通常のコースのトップからボトムまでのトレーニングが行われる。

4203 採点
モーグル競技者の演技は、以下の3つの基礎要素を採点の対象とする。

4203.1 ターン
スコアの60%
(FIS フリースタイルジャッジングハンドブック 6204.1 参照。)

4203.2 エア
スコアの20%
(FIS フリースタイルジャッジングハンドブック 6204.4 参照。)

4203.3 スピード
スコアの20%
(FIS フリースタイルジャッジングハンドブック 6204.6 参照。)

4204 採点方式

4204.1 分割採点方式
採点基準は、FIS フリースタイルジャッジングハンドブック 6203.1 による。

モーグルの予選については 3060.2.1 参照。

4204.2 ペースタイム
女子、男子のモーグルペースタイムは、FIS フリースタイル委員会が決定する標準値に従い設定する。各コースのペースタイムの計算は、コース長（メートル）を、秒速（メートル表示）のペースタイムで割って算出する。
標準値は以下のとおり。
男子ペースタイム： 9.7m/秒
女子ペースタイム： 8.2m/秒

4206 モーグル競技の特別な手続き

4206.1 用具

4206.1.1 スキーの長さは規定しない。

4206.1.2 すべての競技者の使用するビンディングは、DIN 仕様書に合った開放システムのもので、流れ止めを装備していること。

4206.1.3 すべての競技者はモーグル競技会のインスペクション、公式トレーニング、競技において、ヘルメットを着用すること。

用具に関する一般規則は 3037 と FIS 用具規則の E を参照のこと。

4206.2 特別な手続き

4206.2.1 スキーを外した場合
競技者がスタート後に片方、もしくは両方のスキーを外した場合、また 10 秒もしくはそれ以上停止した場合、その滑走は Did Not Finish (DNF) とする。

競技者が片方もしくは両方のポールやその他の用具を落としてフィニッシュした場合、DNF とならないこととする。

4206.2.2

エアの演技回数

ジュリーが特別に規定しない限り、すべてのコースは、2回のエア演技とする。より高得点を得るためには、競技者は異なるエア技を2種類演技しなくてはならない。2種類の異なる技とは以下のとおり：

ループ ループカテゴリーのエア技は、1回の滑走で1回のみとする。

縦回転のフリップ 回転を開始する方向の変更（前方、または後方）、または捻り数の変更（捻りなし、またはフルツイスト）のない場合、フリップカテゴリーのエア技は、1回の滑走で1回のみとする。

オフアクシス 回転度数に 180°の違いがある場合、オフアクシスカテゴリーから、同じエア技を行うことができる（ストレートローテーションと同じシステム）。

ストレートローテーション ストレートローテーションのカテゴリーのエア技を2回行う場合、回転度数に 180°の違いがなくてはならない。

アップライト 動作の回数が異ならなければならない（例、ダブルスプレッドとトリプルツイスター）。

推奨されるエア演技の回数を厳守しなくてもよいが、評価されるエア演技数は限定される。例えば、ジュリーがエア演技の推奨回数を2回とした競技会で、1回のみエアを演技した場合、エアの得点は2回エアを演技した場合に得られる最高得点の50%が得点の上限となる。奨される回数以上エアを演技した場合、最低点のエア演技の得点を除外する。例えば、ジュリーがエア演技を2回と推奨した競技会で、競技者がエアを3回演技した場合、審判員は最低点のエアの得点を除外する。

4206.3

フォーランナー（前走）

組織委員会は男女各4名、計8名の前走者を準備しなければならない。

4300 デュアルモーグル

4301 定義

デュアルモーグル競技は、モーグル競技は、特にターン技術、スピード、エア演技を重視しながら険しく急なコブ斜面を一回滑走し、そのスキー技術を競う競技である。そして2名の競技者のうち、勝者が次のフェイズに勝ち上がる方式で行う競技である。詳細は 4305、4306.4 参照。

4302 デュアルモーグルコース

4302.1 女子および男子デュアルモーグルコース共通規定

4302.1.1 デュアルモーグルコースの承認

FIS カレンダー管轄のすべての国際競技会のためのモーグルコースは、FIS の承認が必要である。

4302.1.2 デュアルモーグルコースの一般的な特徴

デュアルモーグルコースは、競技に適した一定の勾配とフォールラインがあり、均等にコブがあり、十分に積雪があり、障害物のない斜面である。FIS フリースタイル競技コース規格の条件に基づき造成すること。コブの造成に機械を活用してもよい。そして FIS フリースタイル競技規格の規格に基づき造成すること。

4302.1.3 デュアルモーグル会場のレイアウト

4302.1.3.1 デュアルモーグルコース

デュアルモーグルコースは途切れなく続く一本のフォールラインがあり、斜面の勾配が一定であること。

斜面は極端な凸凹や、極端な斜度変化がないこと。

コースは可能な限り均等にコブを配し、固く、鋭いコブはならし、深い溝、雪上車のわだちの跡や、氷など障害となりうるものはすべて除去すること。競技者が極端に飛びすぎてしまうようなコブは、修正すること。エアバンプは、デュアルモーグルのコース規格に基づいて設置すること。4302.1.4 参照。

4302.1.3.2 エアバンプの基準と仕様

名称間の距離	長さ
-最後のコブからテイクオフまで	4.0m-5.0m
エアバンプのテイクオフからランディングの最後まで	15.0m
ジャンプの高さ	50-60cm
ランディングの角度	26°以上
テイクオフの角度	26°から 30°
エアバンプの幅	130cm±10cm

4302.1.3.3 コントロールゲート

コース内、9か所にコントロールゲート（幅の最高 75 cm、高さ 1.2mの大きさの旗で境界を示す）が滑走コースの外側に設置され、そして均等な間隔で、

各滑走コース幅が 6.5 ± 0.5 メートルになるように、コースにセンターラインを設置すること。左右のコントロールゲート間の幅に、旗の幅は含まない。

4302.1.4 デュアルモーグル会場の準備とインスペクション

4302.1.4.1 デュアルモーグル会場は、競技会までに準備を完了し、公式トレーニングができるようにしなければならない。コースに雪が少ない場合、組織委員会はコースをカバーするために必要十分な雪をコース内に搬入しておかなくてはならない。コースがモーグル競技を成立させるための最低条件を満たしていない場合、ジュリーは競技会を延期、またはキャンセルすることができる。

4302.1.4.2 コブの造成に機械を活用してもよい。コースは各ライン、コブの数や大きさが均等になるように、細心の注意をはらわなくてはならない。

4302.1.4.3 公式トレーニング初日、トレーニング開始に、競技者とジュリーは、コースをインスペクションしなければならない。インスペクションの時間はジュリーが決定する。

4302.1.4.4 インスペクション終了後ただちに、TD と他のジュリーメンバーは、会場内において競技者とトレーナーから、要望や提案を聞くこと。

4302.1.4.5 コースが十分に明るくない場合、組織委員会はコブにカラーパウダーを撒く、または松葉等を散らすなどして、問題改善を図ってもよい。

4302.1.4.6 コブをエアバンプとして成型してもよい (4302.1.3.2、3035.2.7 参照)。エアバンプの位置は、コースの上部と下部とし、各ライン、ほぼ同位置であること。上部のエアバンプのテイクオフは、コース全長の 15% の位置に、また下部のエアバンプのテイクオフはフィニッシュラインから計測してコース全長の 20% の位置に設置すること。

4302.1.5 公式トレーニング

4302.1.5.1 デュアルモーグル競技の公式トレーニングは、デュアルモーグル競技会の一部である。競技者は、参加が義務づけられている。

4302.1.5.2 公式トレーニングは連続しなくてもよいが、競技会前最低 2 日間行うべきである。

4302.1.5.3 ジュリーは、公式トレーニングの期間を短縮してもよい。

4302.1.5.4 公式トレーニング開催時、すべての施設の準備を整え、適切な医療業務も確保すること。

4302.1.5.5 ビブを着用しない競技者は、公式トレーニングに参加できない。

4302.1.5.6 デュアルモーグル競技会当日は、競技開始前、最低 30 分間の公式トレーニングを行う。状況により、ジュリーは時間を短縮してもよい。

4303 採点

デュアルモーグル競技者の演技は、以下の3つの基礎要素を採点の対象とする。
(採点手順については、3045.3 参照)。

4303.1 **ターン；スコアの 50%**
(FIS フリースタイルジャッジングハンドブック 6204.1 から 6204.1.1.9 およ
び 6403 参照。)

4303.2 **エア；スコアの 25%**
(FIS フリースタイルジャッジングハンドブック 6403 参照。)

4303.3 **スピード；スコアの 25%**
(FIS フリースタイルジャッジングハンドブック 6403 参照。)

4304 **採点方式**

審判団は、FIS フリースタイルジャッジングハンドブック 6403 に定める、各
ジャッジの役割・義務に基づいて採点すること。

審判員は、FIS フリースタイルジャッジングハンドブックにある「ターン」
「エア」「スピード」の観点から、滑りを評価すること。

競技者が、滑り始めてからフィニッシュラインを横切るまでの滑りを判断し、
評価する。競技者は滑りをコントロールし、フィニッシュエリアで、スピード
を制御して完全に停止すること。フィニッシュラインを越えて着地したエア演
技は、採点対象から除外する。

4305 **競技会の手順 (3060.2.2 参照)**

4305.1 **デュアルモーグルの競技形式**

デュアルモーグル競技会は、2種類のフォーマットで運営することができる。
一方は、競技会のはじめからデュアルモーグル形式で実施する方法で、他方は、
決勝でデュアル方式を採用する方法である。後者の場合、決勝進出者を選考す
る予選は、モーグル競技会の運営方式に準ずる。

4305.2 **シードグループのあるデュアルモーグル**

4305.2.1 **予選のためのシード**

デュアルモーグルのためのシードを、直近の FIS ワールドカップランキングの
順位に従い決定する。各シーズン最初の2試合は、前年度の順位を利用する。
上位32位までの競技者がシードされる場合、上位16位までの競技者が順位に
従ってシードされ、上位17位から32位の競技者は無作為ドロースされ、そこ
で決まる番号枠に配置される。33位以降の競技者は、無作為ドロースにより決定
する33番以降の番号枠に配置する(添付のドロース表を参照)

4305.2.2 **赤コースと青コースの割り当て**

コース(レッド、ブルー)は、以下のように事前に決定する。

フェイズ 112	2名のうち上位競技者がレッド
フェイズ 64	2名のうち上位競技者がブルー
フェイズ 32	2名のうち上位競技者がレッド
フェイズ 16	2名のうち上位競技者がブルー

フェイズ 8 2名のうち上位競技者がレッド
フェイズ 4 2名のうち上位競技者がブルー
ファイナルフェイズ 2名のうち上位競技者がレッド
デュアルモーグルの競技では、コース下から見て左側をブルーコース、右側を
レッドコースとする。
8位まで対戦成績で決定する。9位以降はそのままの順位とする。

4305.3 シングルモーグル予選でデュアルモーグル決勝の形式
シングルモーグル形式により、予選通過者を決め、デュアルモーグル形式の決
勝でシードされる競技者を決定する。決勝に進出する競技者の人数は、8名、
16名、24名、または32名の形式が可能である。上位4位のみ、最終的にデュ
アル形式で順位を決定する。

4305.3.1 予選/モーグル
モーグルコースは、予選と決勝フェイズ用に、デュアルのコース（青／赤）に
分割すること。

4305.3.2 スタート順
競技者がスタートするときの順番は、スタートリストに従って行うこと。スタ
ート順が奇数（1番、3番、5番……）の場合は赤コース、スタート順が偶数
（2番、4番、6番……）の場合は青コースを滑走する。

4305.3.3 決勝/デュアルモーグル
大会主催者は、FISに対して、決勝に進出する競技者の人数を提案できる。競
技の滑走にかかる時間は、45分から75分ほどであるべきである。

4305.3.3.1 予選の結果は、決勝に進出する競技者の選考に活用する。

4305.3.3.2 1位、2位、3位、4位はデュアル形式で決定すること。

4305.3.3.3 5位以下の順位は、競技者が決勝で最終的に対戦したフェイズに従い、予選の
結果に基づいて決定すること。
ラウンド16のフェイズで敗退した競技者は、予選の結果に基づき9位から16
位の順位となる。
ラウンド8のフェイズで敗退した競技者は、予選の結果に基づき5位から8位
の順位となる。

4305.3.3.4 予選の結果に基づき、2名の競技者のうちより予選で高順位の競技者が、青コ
ースか赤コースの選択権を持つ。
予選で高順位の競技者が、スタート係にスタートエリアで、選択するコースを
伝えること。その際、各フェイズが始まる前に、時間に余裕を持ち、選択する
コースを伝えること。

4306 デュアルモーグル競技の特別な手続き

4306.1 用具
詳細はFIS用具規則のEを参照のこと。

4306.1.1 スキーの長さは規定しない。

- 4306.1.2 すべての競技者の使用するビンディングは、DIN仕様書に合った開放システムのもので、流れ止めを装備していること。
- 4306.1.3 すべての競技者はモーグル競技会のインスペクション、公式トレーニング、競技において、ヘルメットを着用すること。
- 4306.2 スキーを外した場合
競技者が、スタートし片方、又は両方のスキーを外したはずした場合、その滑走は Did Not Finish (DNF) とする。片方、または両ポールやその他の用具を落とした競技者がフィニッシュした場合、DNF とならないこととする。
- 4306.3 エアの演技回数（デュアルモーグル）
より高得点を得るために、競技者は異なるエア技を2種類演技しなくてはならない。
- ループ ループカテゴリーのエア技は、1回の滑走で1回のみとする。
- 縦回転のフリップ 回転を開始する方向の変更（前方、または後方）、または捻り数の変更（捻りなし、またはフルツイスト）のない場合、フリップカテゴリーのエア技は、1回の滑走で1回のみとする。
- オフアクシス 回転度数に180°の違いがある場合、オフアクシスカテゴリーから、同じエア技を行うことができる（ストレートローテーションと同じシステム）。
- ストレートローテーション ストレートローテーションのカテゴリーのエア技を2回行う場合、回転度数に180°の違いがなくてはならない。
- アップライト 動作の回数が異ならなければならない（例、ダブルスプレッドとトリプルツイスター）。
- 競技者が1回だけエア技を演技した場合、エアの得点は、2回エア技を演技した場合に可能な最高得点の50%が最高得点となる。
- 4306.4 デュアルモーグルのスタート機器**
- 4306.4.1 FISによる承認
競技会開催前に、すべてのスタート機器はFISの承認を得なくてはならない。
- 4306.4.2 スタート台
スタート台は、競技者が、スタートラインにリラックスして立つことができ、スタート直後、すぐにトップスピードに達することができるように準備すること。
- 4306.4.3 ゲートの設置
スタート台の規格は、各コースの特性に合わせて調整することができる。

スタートゲートは、各コース幅の中央に設置する。ゲートは同時に開き、競技者が加圧してもゲートが開かないように、加圧するとゲートがロックされる様式でなくてはならない。

4306.4.4

デュアルモーグルのゲート基準

2つ蝶番のある縦40cm、横200cm、重さ15kgの各ゲートを、水平のポールに設置する。スタートのハンドルは、ふたつのスタートゲートの中心に、そして水平ポールに直角になるようにし、設置する。スタートブロック（ボードの裏側）はスキーを保護するため、プラスチックでカバーする。4507.8.3の基準に順ずるゲートを使うことができる。

4306.4.5

開放システム

ゲートはスイッチを入れると、両方が外側に向けて同時に開くシステムであること。また、確実に作動し、運搬しやすいよう、電気制御システムより機械制御システムの方が望ましい。

4500 スキークロス

スキークロス競技とは、タイムレースによる予選を行った後、数名ごとのグループ単位で、タイプの異なるターン、ジャンプ、ウェーブ、そして、自然の地形を活用したフィーチャーで構成されるスキークロスコースを滑走する競技である。

4501 スキークロスのテクニカルデータ

4501.1 高低差

4501.1.1 すべての競技会における高低差は、最小 130m から最大 250m でなければならない。女子、男子ともに、同じコースを使用してもよい。平均斜度が、 12° ～ 22° であること。

4501.1.2 コース滑走の合計時間が 35 秒～60 秒の間であること。

4501.1.3 以下の追加条件を、コース規格に適用すること；

4501.1.3.1 ワールドカップ、世界選手権大会、オリンピック冬季競技大会

長さ： 1050m±150m (900m～1200m)

高低差： 215m±35m (180m～250m)

4501.1.3.2 コンチネンタルカップ

長さ： 最短 750m

高低差： 最小 165m

4501.1.3.3 国内選手権大会／FIS

長さ： 最短 650m

高低差： 最小 130m

4501.1.3.4 スプリント/インドア/FIS

長さ： 最短 250m

高低差： 最小 50m

4501.2 ゲートとポール

4501.2.1 使用するポールの種類

スキークロスゲートは、ヒンジ（蝶番）がなく確実に固定されている外側のポールと、ヒンジのある長さ 45cm のスタビポール（ターンする場所となるポール）を用いた内側のポール、そして、三角形のゲートパネルで構成されている。

4501.2.2 ゲートの色

幅の狭い直線コース（コリドー）や、コースのゆるいカーブを描いた部分を際立たせる場合を除き、連続するゲートの色は交互に変えなければならない。三角形のパネルとポールの色は、同一でなければならない。

- 4501.2.3 三角形のゲートパネルのサイズ
スキークロスでは三角形のゲートパネルを使用しなければならない。ゲートパネルのサイズ：
- | | | |
|-------|-------|------|
| 底辺 | 長辺 | 短辺 |
| 130cm | 110cm | 40cm |

ターン側のポールは、スタビーポール（長さ 45cm）でなくてはならない。

4501.2.4 三角形のゲートの配置

- 4501.2.4.1 三角形のゲートは、競技者が高速滑走中であっても明確に、そして迅速に判別できるように設定しなくてはならない。ゲートは、競技のコースラインに対して、正しい角度で設置すること。特殊な状況では、競技者は同色の 2 ゲート間を通過するよう、求められることもある（例：幅の狭い直線のコリドーのような場所）

- 4501.2.4.2 ゲートはローラー、ジャンプのテイクオフ、また、フィニッシュラインなど、すべてのフィーチャーの両側に設定しなくてはならない。ランディングのような、死角になる場所へのゲートの設置は、避けるべきである。緩斜面でのノン・バンク・ターン、バンク・ターン、またはその他のターンがなされる場所には、ターンゲートのみを設置し、外側のゲートは不要である。

- 4501.2.5 ゲートライン（旗門線）の適切な通過
選手のスキーの先端と両足が旗門線（通過ライン）を横切ったときに、旗門を通過したことになる。旗門をまたぐなどの違反をせずに、選手が一方のスキーをはずした場合、残りのスキーの先端と両足が旗門線（通過ライン）を横切った時に、旗門を通過したことになる。2つの旗門をセットする必要がある場合は常に、旗門線（通過ライン）は、2つのターニングポールを結ぶ、仮想される最短ラインである（アルペン 661.4 参照）。ターニングゲートのみをセットする場合は常に、旗門線（通過ライン）は、ターニングゲートのアウトサイドポールとターニングポールを結ぶラインを、コース内側方向に伸ばした延長線となる。

4502 スキークロスのコース

- 4502.1 コースの一般的な特徴
スキークロスのコースは地形的変化に富んだ平均斜度 15° （理想として 12° – 22° ）の斜度であること。スキークロスの斜面は、最低でも 30m の幅がなくてはならない。
競技者数が 4～6 名の場合、スキークロスのコース幅を、5 m 以下にはすべきではない。
（50m 以下の）ショートセクションでは、一定の条件下において、コースの幅は最低でも 20m でもよい。

4502.2 スキークロスのフィーチャー

理想的なスキークロスのコースは、すべて、また一部において、次のフィーチャーを造成する。

バンク（三日月形）、ダブルバンク、シングル、ダブルまたはトリプルジャンプローラー、オフセットローラー（シングル、ダブル、トリプル）、ステップアップジャンプ、スピン、ダブルスピン、プロスタイルのジャンプ、ヒップジャンプ、テーブルトップジャンプ、中くらい、または長めのGSタイプのターン（フィーチャーの構築が可能でない場合）。

その他、地形にあわせたフィーチャーを造成することもできるが、常に安全性を第一義に考えなくてはならない。ギャップジャンプはいかなる状況においても禁止する。フィーチャーは競技者が加速し、また、各フィーチャーの前に減速しないように設計すること。

4502.3

コースの準備

少なくとも公式トレーニング 24 時間前には、一般のスキー場利用者に対して、コースを、クローズすること。公式トレーニングと競技会の期間中、適正に維持、管理することができるよう、そして雪をコンパクトに固めるためにも、各フィーチャーとジャンプは、十分な時間をかけて造成しなくてはならない。必要な場合、人工的な手段（塩、水）を使うことは許可される。

4502.4

コースの設計

フィーチャーとジャンプの総数は、コース設計者の判断に任されるべきである。しかしながら、実際には、さまざまな可能性を組み入れることになる。競技者がテイクオフしたときに、ランディングを目視できないような、ブラインドジャンプやフィーチャーの造成は避けること。コースは、スタートしてからできるだけ早い段階で、競技者同士の間隔が離れるように設計すること（例）スタートしてから最初のターンの間に、3から5つのローラーまたは他の地形的フィーチャー）。これらのフィーチャーは、スタートから最初のターンまでの直線上に配置すること。スタートから最初のターンまでの直線部分は、最短でも60m以上確保しなければならない。最初のターンにおいての方向転換（すなわちターンの入口と出口間の角度変化）は、ターン弧が100°以下にならないようにする。通常、最初のターンはコースの中で大きさが最大となるターンで、すべての競技者が同時に滑ることができるように、十分な幅を準備する。スタートは、競技者がスキーポールやスケート無しで加速できるように、設計すること。

4503

コースの設営

4503.1

ゲートの設置

ゲートは、公式インスペクション前に、設置しなければならない。ゲートを設置するときには、フィーチャーやジャンプとの融合を考慮し、巧みにフィーチャーを活用すること。トレーニング中に、競技会での滑走ラインが滑らかになるように、設定の微調整を行うこともある。トレーニング中に行われた変更は、すべての競技者とチームキャプテンが、変更を認識できるように、スタートエリア内にて発表すること。

4503.2

ゲートセッター

コースの設定は、ジュリーと選手アドバイザーの協議、立会いのもと、コース係長とともに、コネクションコーチが行うこと。

4504

競技会プログラム

- 4504.1 インスペクション**
競技者は、コースまたはコースサイドを、ゆっくりとサイドスリップでコースインスペクションすることが、許可されている。インスペクションの時間はジュリーの裁量によるが、最低 30 分間は必要である。すべての競技者は、トレーニングの前に少なくとも 1 回、インスペクションを完了すること。
競技者はインスペクションを行う際、ヘルメットとビブを見えるようにして、着用すること。
- 4504.2 公式トレーニング**
すべてのトレーニングにおいて、各競技者が、2 回トレーニングランを行えるようにスケジュールを組むこと。
- 4504.2.1 ビブを着用していない競技者は、公式トレーニングに参加することはできない。
- 4505 スキークロス競技の実施**
- 4505.1 競技会ごとの競技者数**
決勝は、女子・男子各 32 名、または 16 名で、ヒートごとの競技者数は 4 名、もしくは、女子・男子各 48 名、または 24 名で、ヒートごとの競技者数は 6 名を基本とする。
- 4505.2 予選と決勝のフォーマット**
スキークロスは、単一のノックアウトフォーマットで運営する。タイムレースは、スキークロスの決勝進出者を決定するために用いられる。決勝進出者を決定するため、予選はタイムレースが実施される。
- 4505.3 予選のシード方法**
- 4505.3.1 主要大会のシード方法
ワールドカップ、世界選手権大会やオリンピック冬季競技大会では、ワールドカップポイントまたは FIS ポイントリスト（年数回公開）のベスト 16 のスキークロス選手をドローする。順位が同位の場合は、2 番目のカテゴリーでより高いポイント保持者が、その順位となる。それでも同位の場合は、抽選で決定する。
- 4505.3.2 スキークロスのドロー
最初のグループは、無作為にドローする。残りの競技者は、ワールドカップポイントリスト、または FIS ポイントリストのより高い順位に応じて順位をつける。
- 4505.3.3 他の競技会のシード方法
他の FIS の競技会では、FIS ポイントリストの順位に従って、ベスト 16 のスキークロス競技者をドローする。残りの競技者は、FIS ポイントランキングに応じて順位をつける。

順位のない競技者には、無作為なドローに基づいて、ビブを割り当てる。
- 4505.3.4 特別な状況下でのスタート順（第 1 シードを除く）

特別な状況下において、ジュリーはスタート順を変えてもよい（大雪などの場合）。前もって指名される最低6名の競技者が、スタート1番の競技者の前に出走する。この6名の競技者は、スタートリストにおいてスタート順が最後から20パーセント以内に入る選手から選出する。6名の選手はスタート順の遅い選手から出走する。大会主催者が、条件を満たす前走者を最低6名用意した場合、この規則は適用しない。

4505.4 予選フェイズ

4505.4.1 予選滑走数：

すべての競技者は、予選滑走を1回行う。

4505.4.2 同順位処理（タイブレイク）

予選では、2名以上の選手が同タイム（同順位）になった場合、スタート順が遅い選手を、上位の順位とする。

4505.4.3 予選でのスタートゲート位置のドロー

競技会の予選フェイズにおいて使用するスタートゲートの選択は、すべての公式トレーニング終了後に行われるチームキャプテンズミーティングにおいて、無作為ドローで決定しなくてはならない。

4505.4.4 2試合大会

1か所の会場で2試合行われる場合、第2試合におけるスタートゲートの選択は、第2試合に関するチームキャプテンズミーティングにおいて、第1試合とは別の無作為ドローによって決定しなくてはならない。

4505.5 次のフェイズへ進出する競技者

上位2名の競技者（1ヒートの競技者が4名の場合）または3名の競技者（1ヒートの競技者が6名の場合）が、各ヒートの順位結果に従って、次のフェイズに進出する。

4505.6 順位の決定

各ヒートでの順位は、体の一部が最初にフィニッシュラインを横切ることで決定する。

4505.6.1 フィニッシュラインカメラ

可能な限り、フィニッシュラインカメラ（ビデオや写真判定）が利用できるようにすること。

4505.6.1.1 決勝前のヒートで同位の場合

ヒートで（2位と3位、または2位、3位と4位の競技者が）同順位の場合、予選においてより低い順位の競技者が次のフェイズに進出する。

4505.6.1.2 決勝で解決できない同順位の場合

決勝のスマールファイナル、またはビッグファイナルで、解決することができない同順位の場合は、同順位のままとする。

4505.6.2 DNFの順位

1名以上の競技者がコースを完走しない場合、またはフィニッシュラインを横切らない場合は、そのヒートの順位は、競技者が滑走したコースの位置に基づ

いて決定する。より長い距離、コースを滑ることができた競技者が、より高い順位を獲得する。

4506 スキークロスの決勝組合せ

決勝の組み合わせは次のとおり以下のとおり：

4506.1 8 ヒート(各ヒート 4 名)で 32 名の女子と男子の順位

ヒート番号	ポジション 1	ポジション 2	ポジション 3	ポジション 4
1	1	16	17	32
2	8	9	24	25
3	5	12	21	28
4	4	13	20	29
5	3	14	19	30
6	6	11	22	27
7	7	10	23	26
8	2	15	18	31

4506.2 4 ヒート(各ヒート 4 名)で 16 人の女子と男子の順位

ヒート番号	ポジション 1	ポジション 2	ポジション 3	ポジション 4
1	1	8	9	16
2	4	5	12	13
3	3	6	11	14
4	2	7	10	15

4506.3 8 ヒート(各 ヒート 6 名)で 48 名の女子と男子の順位

ヒート番号	ポジション 1	ポジション 2	ポジション 3	ポジション 4	ポジション 5	ポジション 6
1	1	16	17	32	33	48
2	8	9	24	25	40	41
3	5	12	21	28	37	44
4	4	13	20	29	36	45
5	3	14	19	30	35	46
6	6	11	22	27	38	43
7	7	10	23	26	39	42
8	2	15	18	31	34	47

4506.4 4 ヒート(各 ヒート 6 名)で 24 名人の女子と男子の順位

ヒート番号	ポジション 1	ポジション 2	ポジション 3	ポジション 4	ポジション 5	ポジション 6
1	1	8	9	16	17	24
2	4	5	12	13	20	21
3	3	6	11	14	19	22
4	2	7	10	15	18	23

- 4507 スタート**
- 4507.1 ビブ**
予選のビブは、コースジャッジが目視しやすいように、前面および背面に番号をつける。
- 4507.2 決勝のビブカラー**
決勝では、主に4色、赤、緑、青、黄色を使う。6名フォーマットの場合は、白と黒を追加する。
- 4507.3 決勝のビブの割り当て**
各ヒートにおける決勝のビブの割り当ては、競技者の予選の順位に基づく。予選で最も上位の競技者は、赤いビブを着用し、最初にラインを選ぶことができる。2番目の競技者は緑のビブを装着、3番目の競技者は青のビブ、そして、4番目の競技者が黄色のビブを装着する。
- 4507.4 スタートの準備**
スタート時間までにスタートゲートに到着するのは、選手の責任である。出走を逃した場合はDNSとする。
- 4507.5 決勝フェイズにおけるスタート間隔**
決勝フェイズの前のチームキャプテンズミーティングにおいて、ジュリーがスタート間隔を発表する。
- 4507.6 スタートゲートレーンとスタートポジション**
各スタート位置は、スタートゲートのレーンによって識別する。
位置はコース下からスタートゲートを見上げたときに、左から右へ設定する。
スキークロスで競技者が4名の場合は、左端をポジション1、右端を4とする。
スキークロスで競技者が6名の場合は、左端をポジション1、そして右端をポジション6とする。
- 4507.8 スキークロスのスタート台とスタート装置**
- 4507.8.1 スタート台**
スタート台は、競技者がスタート装置に安心して立つことができ、スタート直後、トップスピードに達することができるように準備すること。
- 4507.8.2 スタートゲートの設置**
スタートゲートは、コース幅の中央に設置する。ゲートは同時に開き、競技者がゲートを開けられないよう、加圧するとゲートがロックされる仕組みでなくてはならない。
- 4507.8.3 スキークロスのスタートゲート規格**
ヒンジ（蝶番）式のゲートは、それぞれ、幅100cm、高さ40cm。
各ゲートの外側同士の間隔は60cmであるべきである。
ハンドルは雪面から95cmの高さで、ヒンジゲートに平行であること。子どもやジュニアの競技会では、異なるハンドルの位置を準備すべきである。

各ハンドルの規格は、長さ 10cm。幅は 3 cm～4 cm とすべきである。各ハンドル間の間隔は、80cm から 90cm の間である必要がある。スキー板を保護するために、スタートゲートのスタート面には保護材が用いられなければならない。ゲートが適切に作動するように、ゲート本体に十分な重量がなければならない。ゲートは、単一の開放操作によって、外側に少なくとも 45°以上開くようなシステムであること。

4507.8.3.1 電動式の開放装置

スタートゲートを開放するために、電動式装置を使うことを容認する。開放されるゲートはそれぞれ、所定の位置に固定され、同じ電気信号で開放される。開放時間までの長さは無作為で、0.0 秒から 4.0 秒の間でなければならない。スタート係の、「アテンション」(4507.8.5 参照)の合図で、スタート係が無作為のスタート手順を開始する。ワールドカップ、世界選手権大会、オリンピック冬季競技大会では、電動式開放装置の使用が義務づけられている。

電動式開放装置には、最低 20 回のスタート手順を行えるだけの、予備の電源を準備しなければならない。予備のシステムが作動しない場合は、機械を用いての開放システムを使い、スタートゲートが操作できなければならない。

4507.8.4 スタート装置の承認

FIS ワールドカップ、世界選手権大会、オリンピック冬季競技大会で使用するすべてのスタート装置(電動式開放装置)は、FIS の承認を受けるべきである。

4507.8.5 スタート合図

" We are ready for next Heat, proceed to the Start Gate "

" Enter the Start Gate " (スタート指令の 30 秒前に)

" Skiers Ready!"そして" Attention! "

このスターターの合図に続いて、スタート係がスタートゲートを開放する(もしくは、電動式開放装置を使用する場合、スタート係が無作為のスタート手順を開始する)。

4507.8.6 スタート装置の承認

FIS ワールドカップ、世界選手権大会とオリンピック冬季競技大会で使用するすべてのスタート装置は、FIS の承認を受けるべきである。

4508 コンタクト (接触)

4508.1 コンタクトおよびブロッキングの定義

他の競技者の腕、脚、ポールやそのほかの部分、押す、引っ張る、またはつかむなど、の故意の接触行為により、他の競技者のスピードを緩める、転倒させる、またはコースアウトを引き起こす原因となる行為は容認しない。また、そのような行為を行った競技者は、自動的に失格となる。競技者が腕、脚、またはスキーポールを他の競技者の体の前を出して、追い抜けないようにする行為は容認しない。体を故意に動かす、または、自然なスキーラインをはずれてのブロッキング行為は、容認しない。「自然なスキーライン」とは、フィーチャー間の、そしてゲートラインまわりの最速のコースと定義する。すべての接触による違反行為は、ゲートジャッジとジュリーの裁量により判断される。

4508.2 故意の接触による失格 (DIC)

4508.1 に基づいて失格となった競技者は、DIC (Disqualification for Intentional Contact) となり、そして、その競技会において順位はつかない。

- 4508.2.1 4508.1 のルールに抵触したための個々のリランは、認められるべきではない。そのヒート内で、DIC 以外の競技者は、フィニッシュした順位によって順位付けられるべきである。3057 に該当する条件に順ずる場合のみ、リランを認める。
- 4508.2.2 4508.1 に違反して DIC と判定された場合、次のヒートが開始される前に、できるだけ迅速にゴールエリアにて、該当選手ならびにチームキャプテンに通達するべきである。また DIC については、違反行為が発生したコースのセクションを提示して、スタートエリアとゴールエリアの掲示板に掲示する。すべての DIC は、TD により、TD レポートにも記載され FIS に報告されなくてはならない。
- 4508.2.3 ひとりの競技者が、シーズン中に 2 度目の DIC を宣告された場合、ジュリーは競技者に、224.13 に準じて、上訴委員会への委託が必要である。
- 4508.2.4 あるヒートで 4508.1 に違反している、と感じた競技者は、そのヒート中に DIC が宣告されなかった場合、フィニッシュレフリー、またはその他のジュリーメンバーに、そのヒートを検証するように要請してもよい。その要請は、次のヒートが始まる前に行われなければならない。

4509 抗議

4508.1 に違反して DIC となった場合、競技者はこの決定に対する抗議しないものとする。

4510 最終順位

4510.1 4 名滑走のフォーマット

競技者の 1 位から 4 位は、決勝ヒート (通称ビックファイナル) の着順によって決定する。競技者の 5 位から 8 位は、そのフェイズの着順によって決定する。残りの決勝進出選手は、敗退したフェイズの各ヒート内 (例: 準々決勝) で、予選のタイム順により順位がつく。(例: 準決勝で 9 位~16 位の競技者はヒート内での順位、そして予選タイムに応じて順位をつける。)

4510.2 6 名滑走のフォーマット

競技者の 1 位から 6 位は、決勝ヒート (通称ビックファイナル) の着順によって決定する。競技者の 7 位から 12 位は、そのフェイズの着順により決定する。残りの決勝進出選手は、敗退したフェイズの各ヒート内 (例: 準々決勝) で、予選のタイム順により順位をつける。(例: 準決勝で 13 位~24 位となる競技者は、ヒート内での順位、そして予選タイムに応じて順位をつける。)

4510.3 決勝のキャンセル

フェイズ後に競技会がキャンセルされた場合、すべての競技者はそれぞれ完了したフェイズの成績ごとに予選のタイム順にしたがって 1 から 4 位を決定する。

4511 用具

詳細は FIS 用具規則のセクション E を参照のこと。

- 4511.1 スキーブーツ底の厚さ**
FIS 用具規則セクション E、4.0 を参照のこと。
- 4511.2 スキーの台数**
各競技者は、競技会当日（予選、決勝）に使用するスキーは、2組に制限される。大会主催者が、これらのスキーに印をつける。
- 4511.3 ヘルメット**
競技者には、ヘルメットの着用を義務づける。
FIS 用具規則セクション E、6.5 を参照のこと。
- 4511.4 スキースーツ**
スキースーツは、パンツとトップが分かれた、ツーピースでなければならない。アルペンのダウンヒル（DH）、スーパー-G（SG）、ジャイアントスラローム（GS）、スラローム（SL）、スピードスキーで使用されるウエアは認めない。基本素材は（編みこみ）布であること。ゴム系、合成ゴム、皮、ビニール系の素材を使用していないこと。異なる素材の当て布はいかなる場合も布が主役として残っていれば、認める。
突起物のないプロテクターの使用を推奨する。
- 4511.5 防具**
バックプロテクター、パッドやその他防具は体に装着し、スキースーツ（上着）とは分離していなければならない。プロテクションとパッドは、ジッパー、マジックテープや他の方法でスキースーツに組み込んだり、スキースーツに固定してはならない。締め付けるための道具、たとえば、ゴムひも、ジッパー、ナイロンのひも、ボタン、スナップ、マジックテープ、他の方法で、スーツの素材を体に密着させて、服が自然にたれさがることを妨げてはならない。
- 4511.6 スーツの計測**
素材の余裕は、それぞれの脚の太腿の中央部からスキーブーツの上部まで、その部位のあらゆる部分の周径囲に対して最低 80mm、そして肘と上腕二頭筋まで、その部分あらゆる部分の周径囲に対して最低 60mm、なければならない。詳細は FIS 用具規則セクション E、6.1 を参照のこと。
- 測定規定より 2mm の許容差（計測機器にしるされている、もしくはマテリアルにおける実寸 4mm）は、1 回のみ認められるが、この場合、警告が与えられ、発表される。その後のコントロールにおいては、定められた規程内に収まらなければならない。
- 4512 特別手順**
- 4512.1 スキー（片方または両方）が外れた場合**
コース上あらかじめ決められた場所以外で、片方または両スキーをはずした競技者は、それ以上競技を続けられないものとみなし、その時点で DNF とする。フィニッシュに近い、あらかじめ決められた場所については各コース状況に応じて判断する。決定は場所とフィーチャーの形状、またはジャンプなどを含めて判断し、用具をはずしてから安全にフィニッシュできるかも考慮する。あらかじめ決められた場所で競技者が片方または両スキーをはずした場合、競技者はゴールすれば競技を完了したとみなす。あらかじめ決められた場所は、予選

またはシーディングラウンドの前に、ジュリーが協議し関連の TCM でチームに伝達する。

4600 スキーハーフパイプ

4601 ハーフパイプ

ハーフパイプは、長い筒を水平線で半分に割ったような形状を、雪で造成したものである。

コード	ハーフパイプの基準		測定値
S(ft/m)	サイズ		
	レベル A	レベル B	レベル C
L(m)	22ft/6.7m	18ft/5.5m	15ft/4.6m
	長さ (ライドできる部分)		
H(m)	22ft/6.7m	18ft/5.5m	15ft/4.6m
	最低 150m	最低 120m	最低 100m
	推奨 170m	推奨 150m	推奨 120m
	高さ、パイプのボトムからコーピングまで		
	22ft	18ft	15ft
	6.7m	5.3m	3.5m
V(m)	バーチカル、ウォールの上端		0.2m:82~83°
I(°)	斜度、パイプのセンターライン		1
	22ft/6.7m	18ft/5.5m	15ft/4.6m
	最低 17°	最低 16°	最低 14°
	推奨 18°	推奨 17°	推奨 15°
DW(m)	幅 コーピングからコーピングまで		
DL(m)	22ft/6.7m	18ft/5.5m	15ft/4.6m
	最低 19m	最低 17m	最低 15m
	推奨 19m~22m	推奨 17m~19m	推奨 15m~17m
競技会レベル			
	レベル A	レベル B	レベル C
	オリンピック、世界選手権、ワールドカップ	コンチネンタルカップ、ユニバーシアード、世界ジュニア選手権、ユースオリンピック	各国選手権大会、FISレース、ジュニアレース

4602 ハーフパイプの会場

ハーフパイプの会場は、規格を遵守していなければならない。
 ドロップインは、競技者が、適切なスピードでハーフパイプに入ることができるものであること。
 ドロップインへの斜面を、踏み切り台として利用することはできない。
 すべての FIS ワールドカップのハーフパイプは、承認された規格でなければならない。そして、ハーフパイプの造成のために設計された、特別な整備機械を備えていなければならない。
 トレーニング期間は遵守しなければならない。競技会当日以前に、2日間のトレーニング日を設ける。
 ジュリー特別な状況下において、この期間を短縮してもよい。

4603 公式トレーニング

初回のチームキャプテンズミーティングにて、競技委員長がトレーニングの時間を伝達する。

競技会当日以前に、最低2日間のトレーニングを行わなければならない。特別な場合、ジュリーはトレーニング回数を短縮することができる。

4604 競技会フォーマット-シングルフォーマット

予選：

すべての競技者が2回滑走する。

決勝：

6から12名の競技者が決勝に進出する。

各競技者は2または3回滑走し、

2または3回のうち最も良いスコアの滑走を結果として採用する。

4605 実施内容

予選の滑走は、ハーフパイプ競技会の一部である。

予選の公式結果により、決勝に進出する競技者を決定する。

決勝に進出した競技者の最終順位は、決勝の順位のみで決定する。

公式結果は以下を含むものとする：

- 予選滑走の順位表

4605.1 ドロー

スタート順は、コンピュータによる無作為のドローで決定する。

4606 競技者の用具

4606.1 ビブ

スタート番号の形やサイズを変更してはならない。これに違反した場合は、失格の制裁対象となる。トレーニング、競技会そして表彰式では常に、すべてのビブを適切な位置に着用しなければならない。

4607 場内放送 (PA) のシステム

4607.1 ハーフパイプの競技会では、音楽を使用する。音響システムは、ハーフパイプのいかなる場所においても音が歪まず、競技者がはっきりと音楽を聞くことができるよう、十分な音量がなければならない。

4607.2 音響係長とDJは、競技会中に使用するテープの管理と準備に責任を持つ。

4608 ジャッジスタンド

4608.1 ジャッジエリアは、最低8m×3mの広さでなければならない。ジャッジが滑走を見る場所として、適切な人数の役員と、競技会運営に必要なすべての機器を収納するために、十分余裕のある広さの部屋を準備する必要があるためである。

ジャッジエリアは、フェンスで仕切られ、競技者や観客から隔離されていなければならない。

4609 スタートの役員とフィニッシュの役員

4609.1 スターター（スタート役員）

スタート役員は、スタートの予告と、スタート合図に責任を持つ。
スタート役員は、ジュリーと連絡をとれなくてはならない。

4609.2 フィニッシュ役員

フィニッシュ役員は、フィニッシュエリアを管理する。フィニッシュ役員は、すべての競技者が退場することを、確実にコントロール責任を持つ。

4610 スタートエリア

スタートエリアは、スタートする競技者とスタート係以外が入れないよう、閉鎖しなければならない。

4610.1 スタート合図は、スタート係が行う。

4611 フィニッシュエリア

フィニッシュエリアは、競技者が安全に停止できるように、平らで十分な広さがなければならない。フィニッシュエリアは、完全にフェンスで仕切らなければならない。フェンスは競技役員、メディアや観客の視界が、最大限確保できるように設置すること。

4611.1 フィニッシュライン

フィニッシュラインの位置はヘッドジャッジが決定し、パイプのボトムからウォールを上りリップまで、色つきの線で印をつける。

競技者が技をスコアに反映させるためには、競技者はフィニッシュラインの手前、またはフィニッシュライン上で踏み切らなくてはならない。

4612 採点手順

4612.1 ハーフパイプの大会は、採点ジャッジ5名とヘッドジャッジ1名とする。

4612.2 得点は、FIS ジャッジ採点基準に基づいて与えられる。

4612.3 ジャッジは、ビブ番号に従ってスコアカードに得点を記入し、そしてメモリーボードに滑走内容（技、転倒など）を特定の記号で記入する。

4613 ハーフパイプのコース／会場

4613.1 ドロップインの区域は、競技者が適切なスピードでハーフパイプに進入するきっかけを得るための場所である；この場所を、技を試みるために利用してはならない。

4613.2 ハーフパイプ内で行われた技のみを、採点対象とする。ハーフパイプの外側で行われた技は、採点されない。

4614 特別な手続き：ハーフパイプ

4614.1 停止

競技者が10秒以上ハーフパイプの中で停止した場合、競技者はその時点までの得点を得る。競技者は、できるだけすみやかにコースを出ること。

4700 フリースタイル団体戦のルール

4700.1 チーム競技の種類

チーム競技のルールは、エアリアルおよびモーグル競技において適用される。競技とは男子競技のみ、女子競技のみもしくは、男女混合競技を指す。

4700.2 チームサイズ

1チームは最大3名の競技者で構成される。

チームは男子競技者のみ、女子競技者のみ、もしくは男女競技者の混合でチームが編成される。

混合チームの場合は、一つの性別の競技者が2名以下になるようにしなければならない。男女別々に競技を成立させるためには、少なくとも5つもしくはそれ以上の女子もしくは男子チームが必要となる。男女別のチームが5つに満たないときは男女混合団体戦を行う。

4700.3 各国のチーム数

各国1チームのみ認められる。

4700.4 競技会のフォーマット

競技会には3つフェイズがある。

各競技者は1フェイズ、1回の滑走のみ、参加できる。

4700.5 ドローとスタートリスト

第一フェイズのスタート順は、競技者名ではなく、国ごとのランダムドローに基づく。

滑走直前、スタートゲートで競技者が指名される。

第二、第三フェイズの滑走順は、その前のフェイズのランキング下位からとする。

第二フェイズのスタート順は、国別にランキングされた第一フェイズの結果に基づき決定される。

第三フェイズのスタート順は、第二フェイズの結果に基づき決定される。

各フェイズ終了後のランキングは、アナウンスされる。

4700.6 ランキング

各チームメンバーのそれぞれのスコアが足し合わされ、それぞれのチームはフェイズごとに、その合計点に則りランク付けされる。

3つのフェイズ終了後、総合点が一番高い国のチームが勝利となる。そのほかのチームはそれぞれの合計点に準じてランク付けされる。

4800 人工照明下における競技会

人工照明下で競技を実施することを認める。

4008.1 照明の仕様

4800.1.1 光度はコース表面と平行になるようにして測定した際に、コースのいかなる場所でも 80 ルクス以上であること。照明はムラがなくできる限り均等であること。

競技がテレビ放映される場合、テレビプロダクション責任者が必ず光度を確認すること。個々の状況に応じて特別な調整をしなければならない。

4800.1.2 投光器（フラッドライト）を用いて照らす場合は、滑走コースの地形的特徴が光の影響で変わらないよう配慮し、設置しなければならない。照明は競技者に正確な地形の状況を示すものでなければならず、深度や遠近感の正確さを変えるものであってはならない。

4800.1.3 照明によりレースラインに競技者の影が投影されるようなことになったり、まぶしさのために競技者の目がくらむようなことがあってはならない。

4800.1.4 コースに隣接する障害物や建物は、明るく照らすこと。

4800.2 照明の検査とコース設定

TD はジュリーとともに、事前に照明が規則に適合していることを確認しなければならない。主催者は TD のためにコサイン補正付きの露出計を用意すること。

4800.2.1 TD は照明の質について、補足報告書を提出しなければならない。

4800.2.2 コースセッターは、照明状態が最適な場所にコースをセットしなければならない。